

小樽市子ども・子育て支援事業計画

ニーズ調査結果報告書

平成26年3月

小 樽 市

【目 次】

1	子ども・子育て支援事業計画策定にかかるニーズ調査の実施	4
1.1	調査の概要	4
(1)	調査目的.....	4
(2)	調査対象.....	4
(3)	調査方法.....	4
1.2	回収結果.....	4
1.3	備考	2
2	就学前児童を対象としたニーズ調査の結果	3
2.1	お子さんと家族の状況について	3
2.2	子育て環境について.....	6
2.3	母親の就労状況について	15
2.4	父親の就労状況について	19
2.5	お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況.....	23
2.6	お子さんの土曜日・休日や長期休暇中の教育・保育事業の利用希望.....	30
2.7	お子さんの病気の際の対応.....	35
2.8	お子さんの不定期な教育・保育事業や、宿泊を伴う一時預かり等の利用	39
2.9	お子さんの地域子育て支援事業の利用状況.....	45
2.10	お子さんの小学校就学後の放課後の過ごし方	50
2.11	育児休業や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度について	55

2. 12	市内中心部の活性化と「子育てまちなか拠点スペース」について	66
2. 13	教育・保育事業の広域利用について	69
2. 14	その他.....	77
3	放課後児童クラブ利用児童を対象としたニーズ調査の結果	84
3. 1	お子さんと家族の状況について	84
3. 2	お子さんの放課後の過ごし方.....	87
《資料編》 小樽市における子ども・子育て環境について.....		96
1	人口構造	96
	(1) 人口推移.....	96
	(2) 出生状況.....	98
	(3) 未婚率の推移	99
	(4) 将来人口の見通し.....	102
2	地域の教育・保育資源	103
3	小樽市次世代育成支援行動計画～おたる子育てプラン～の進捗（点検）	106

1 子ども・子育て支援事業計画策定にかかるニーズ調査の実施

1. 1 調査の概要

(1) 調査目的

- ・「子ども・子育て支援事業」の計画策定に向けて、就学前児童の保護者を対象とした幼稚園や保育所、子育て支援事業などについての「現在の利用状況」と「今後の利用希望」などを把握するためのアンケート調査と、放課後児童クラブ利用児童の保護者を対象とした放課後児童クラブの「今後の利用希望」などを把握するためのアンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

- ① 小学校就学前児童の保護者 2,000 件
- ② 放課後児童クラブ利用児童の保護者 508 件

(3) 調査方法

- ・ 就学前児童の保護者・・・郵送による配布及び回収。
- ・ 放課後児童クラブ利用児童の保護者・・・各所管課から放課後児童クラブを通じて実施。
- ・ 調査期間は、平成 25 年 11 月 1 日～11 月 20 日

1. 2 回収結果

- ・ 就学前児童の保護者を対象としたアンケート調査および放課後児童クラブ利用児童の保護者を対象としたアンケート調査の配布数と回収結果は以下に示すとおり。

	児童数	送付数	回収数	回収率
① 就学前児童の保護者	就学前児童数 4,302 人	2,000	888	44.4%
② 放課後児童クラブ利用児童の保護者	利用児童数 (小 1～小 3) 536 人	508	412	81.1%

1. 3 備考

- 原則として、単数回答の質問については、円グラフ・帯グラフで示し、複数回答の質問については、横棒グラフで示している。
- 質問に対して無回答であったものを「無回答」と表記している。割合は、無回答分も含めている。
- 本文中の表における比率は、少数第2位を四捨五入したため、単数回答の項目でも個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- それぞれのグラフ中に表記した「n=〇〇」のnは、回答者総数（もしくは質問対象者総数）を示す。
- 本文中の子どもの年齢は、平成25年度の学齢による。

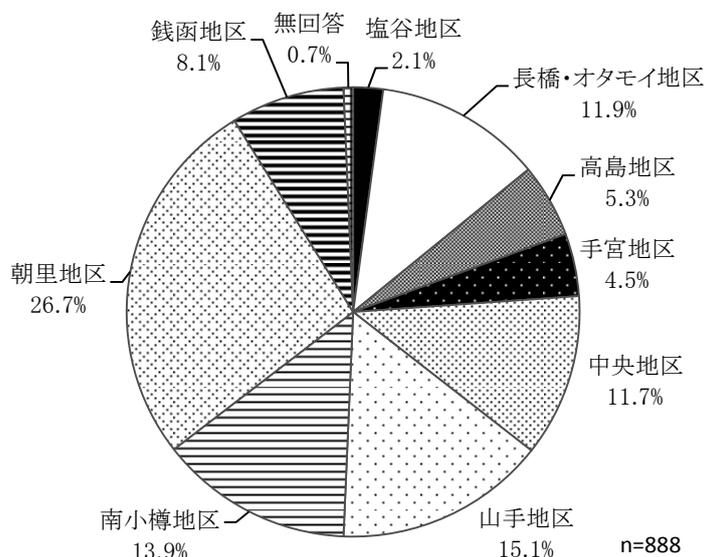
2 就学前児童を対象としたニーズ調査の結果

2. 1 お子さんと家族の状況について

問1 お住まいの地区はどちらですか？（1つに○）

- ・ お住まいの地区は、「朝里地区」（26.7%）が最も多く、次いで「山手地区」（15.1%）、「南小樽地区」（13.9%）、「長橋・オタモイ地区」（11.9%）、「中央地区」（11.7%）となった（図表1）。

図表 1 お住まいの地区



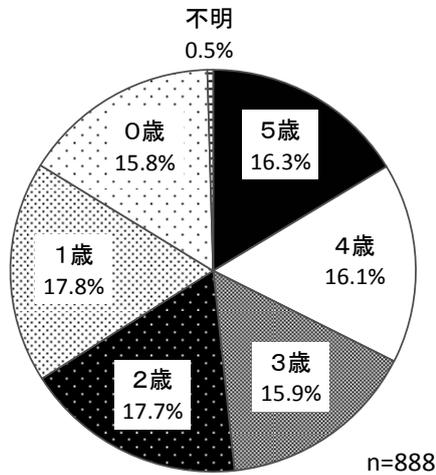
【備考】

塩谷地区	1. 蘭島、2. 忍路、3. 桃内、4. 塩谷
長橋・オタモイ地区	5. オタモイ、6. 幸、7. 長橋、8. 旭町
高島地区	9. 祝津、10. 赤岩、11. 高島
手宮地区	12. 手宮、13. 末広町、14. 梅ヶ枝町、15. 錦町、16. 清水町、17. 豊川町、18. 石山町、19. 色内3丁目
中央地区	21. 稲穂、22. 花園、23. 色内1・2丁目、24. 港町、25. 堺町、26. 東雲町、27. 山田町、28. 相生町、29. 入船1・2丁目
山手地区	30. 富岡、31. 緑、32. 最上、33. 松ヶ枝、34. 入船3～5丁目、35. 天狗山
南小樽地区	36. 住ノ江、37. 住吉町、38. 有幌町、39. 信香町、40. 若松、41. 奥沢、42. 天神、43. 真栄、44. 潮見台、45. 新富町、46. 勝納町、47. 若竹町、48. 築港
朝里地区	49. 桜、50. 船浜町、51. 朝里、52. 新光、53. 望洋台、54. 新光町、55. 朝里川温泉
銭函地区	56. 張碓町、57. 春香町、58. 桂岡町、59. 銭函、60. 見晴町、61. 星野町

問2 あて名のお子さんの生年月をご記入ください。

- ・ お子さんの年齢は、0歳から5歳までそれぞれ16%前後で、おおよそ同じ割合となった(図表2)。

図表 2 お子さんの年齢



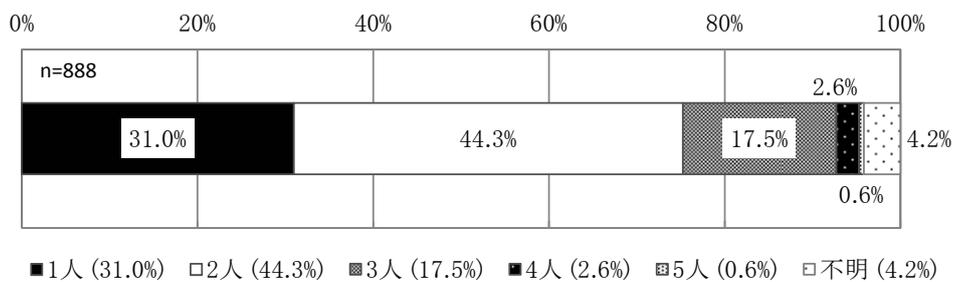
【備考】

年齢	生年月
5歳	平成19年4月～平成20年3月
4歳	平成20年4月～平成21年3月
3歳	平成21年4月～平成22年3月
2歳	平成22年4月～平成23年3月
1歳	平成23年4月～平成24年3月
0歳	平成24年4月以降

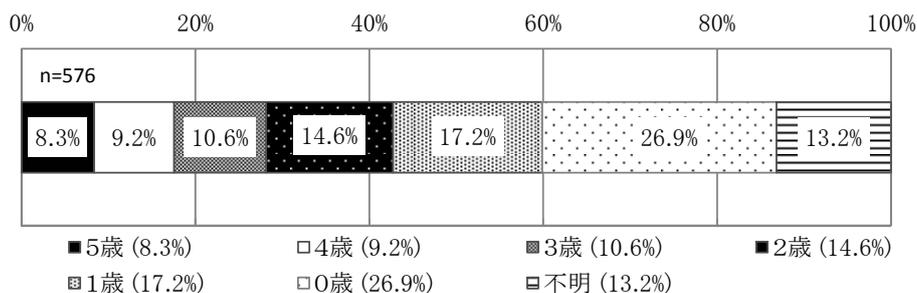
問3 あて名のお子さんは何人きょうだいですか？ あて名のお子さんを含めた人数をご記入ください。また、2人以上いる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

- ・ きょうだいの数は「2人」(44.3%)が最も多く、次いで「1人」(31.0%)となった(図表3)。
- ・ 末子の年齢は、「0歳」(26.9%)が最も多く、次いで「1歳」(17.2%)となった(図表4)。

図表 3 きょうだいの数



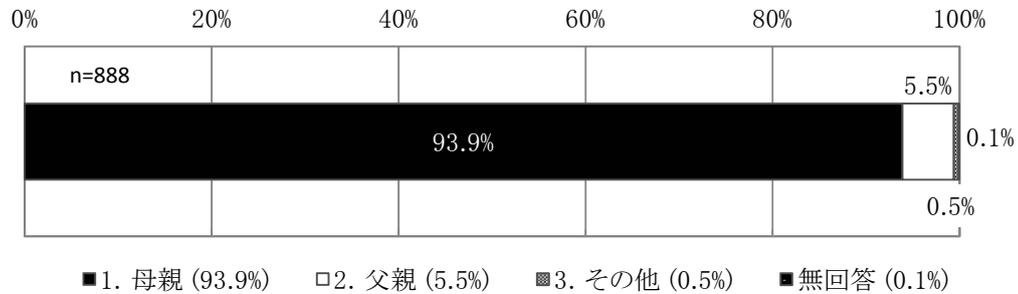
図表 4 末子の年齢



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか？ あて名のお子さんからみた関係でお答えください。(1つに〇)

- ・ 回答者は「母親」が93.9%、「父親」が5.5%となった(図表5)。

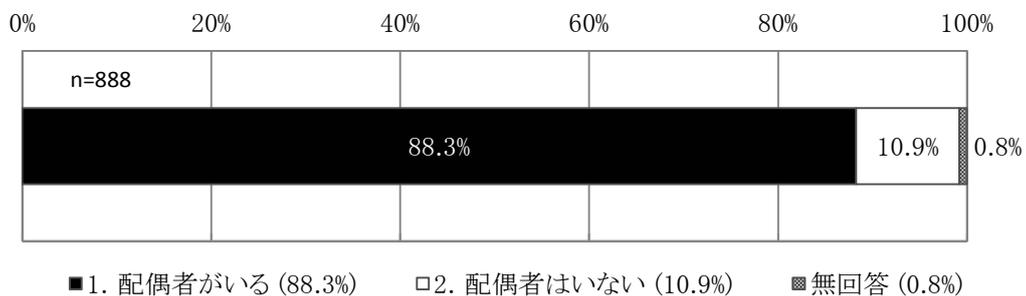
図表5 回答者



問5 この調査票にご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。(1つに〇)

- ・ 回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が88.3%、「配偶者がいない」が10.9%となった(図表6)。

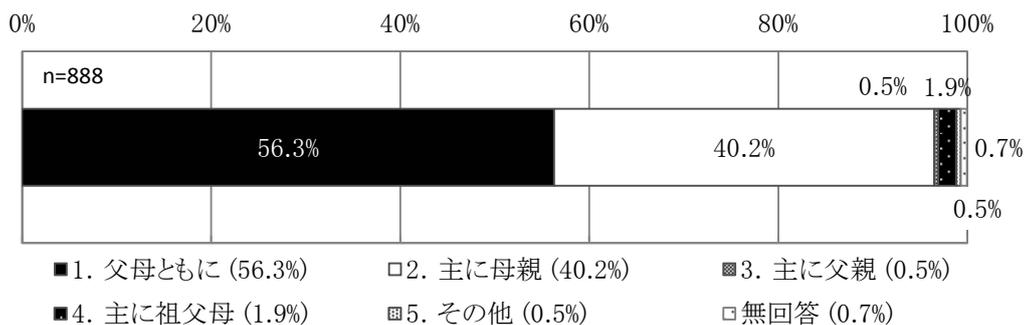
図表6 回答者の配偶関係



問6 あて名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか？(お子さんからみた関係で1つに〇)

- ・ 子育てを主に行っている方は、「父母ともに」(56.3%)が最も多く、次いで「主に母親」(40.2%)となった(図表7)。

図表7 子育てを主に行っている方

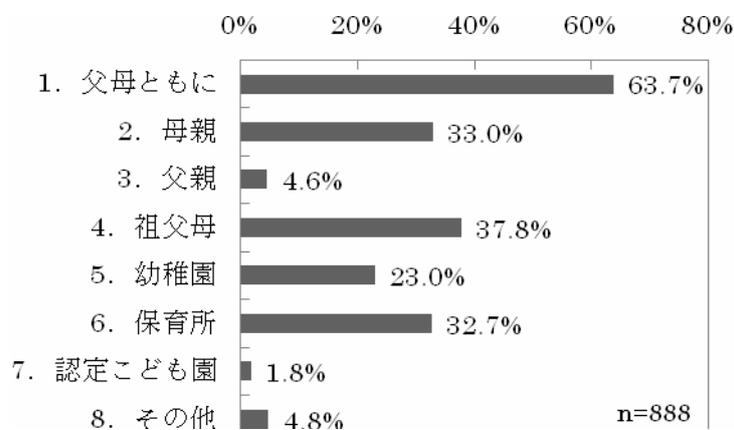


2. 2 子育て環境について

問7 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

- 子育てに日常的に関わっている方は、「父母ともに」（63.7%）が最も多く、次いで「祖父母」（37.8%）、「母親」（33.0%）、「保育所」（32.7%）となった（図表8）。

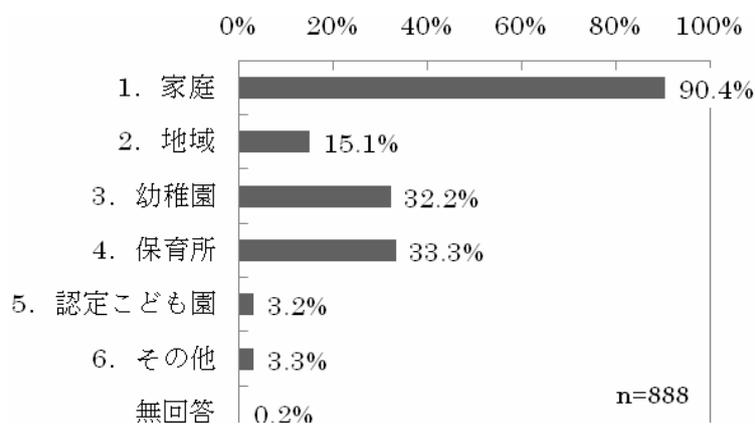
図表 8 子育てに日常的に関わっている方



問8 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

- 子育てに最も影響する環境は、「家庭」（90.4%）が最も多く、次いで「保育所」（33.3%）、「幼稚園」（32.2%）となった（図表9）。

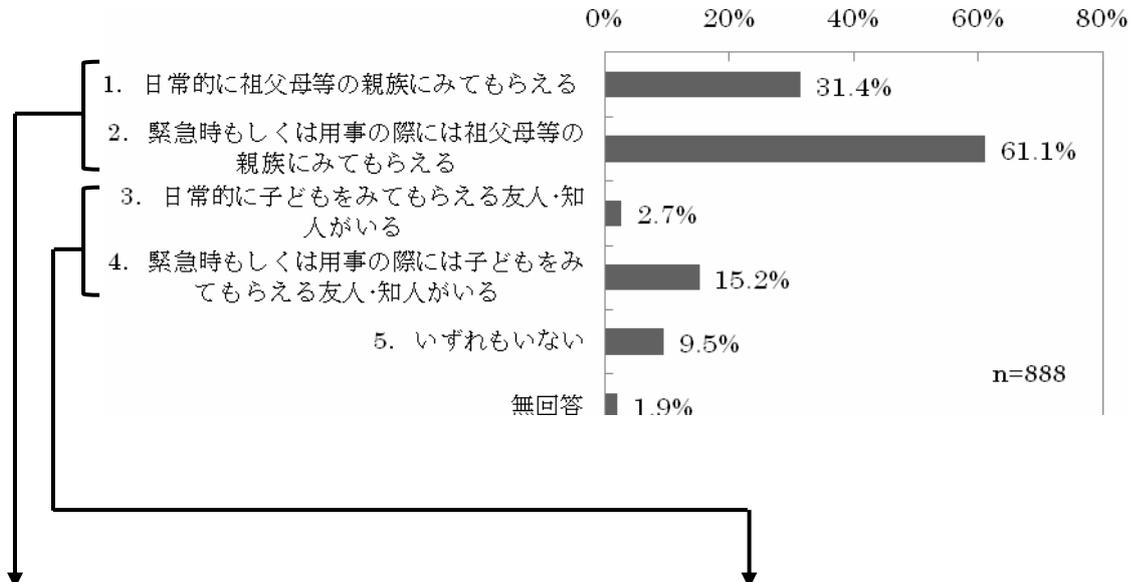
図表 9 子育てに最も影響すると思われる環境



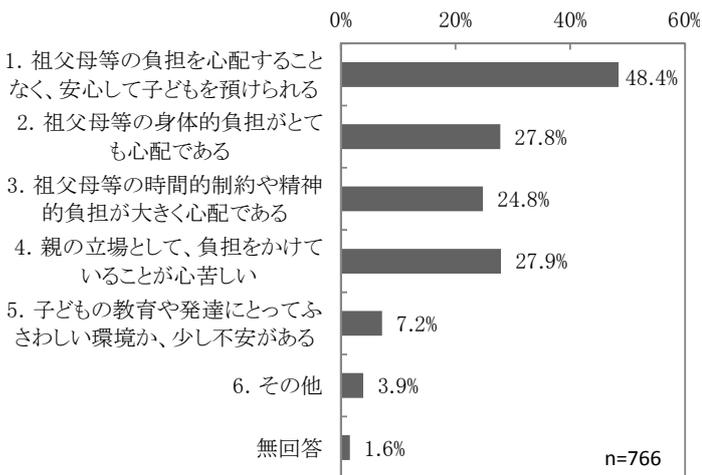
問9 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親戚・知人はいますか？預かってもらうことに関する状況と合わせてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

- ・お子さんを預かってもらえる人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(61.1%) が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(31.4%) となった(図表 10)。
- ・「祖父母等の親族に預かってもらえる」方の預かってもらうことに関する状況は、「祖父母等の負担を心配することなく、安心して子どもを預けられる」(48.4%) が最も多く、次いで「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(27.9%)、「祖父母等の身体的負担がとても心配である」(27.8%)、「祖父母等の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」(24.8%) となった(図表 11)。
- ・「友人・知人に預かってもらえる」方の預かってもらうことに関する状況は、「友人・知人の負担を心配することなく、安心して子どもを預けられる」(47.7%) が最も多く、次いで「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(26.2%)、「友人・知人の時間的制約や精神的負担が大きく心配である」(22.1%) となった(図表 12)。

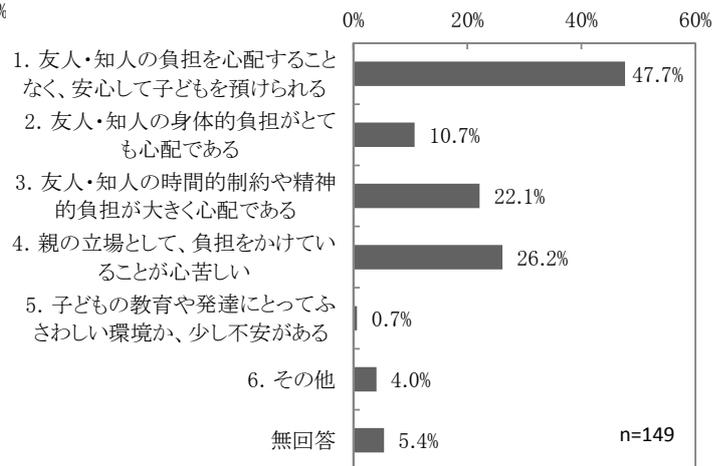
図表 10 預かってもらえる人の有無



図表 11 預かってもらうことに関する状況
(祖父母等の親族に預かってもらえる方)



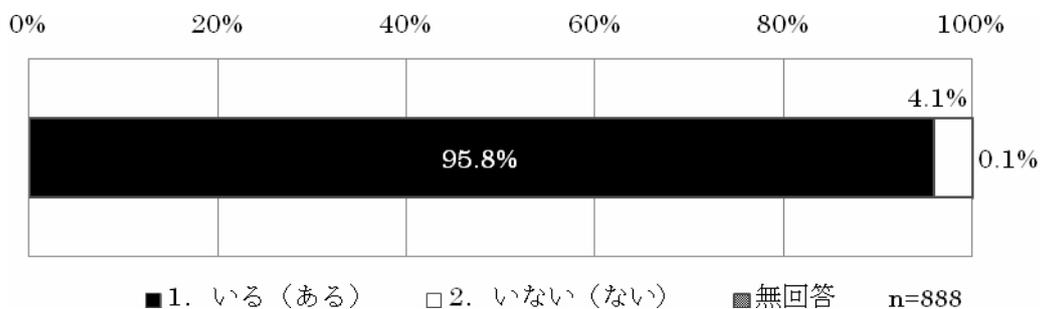
図表 12 預かってもらうことに関する状況
(友達・知人に預かってもらえる方)



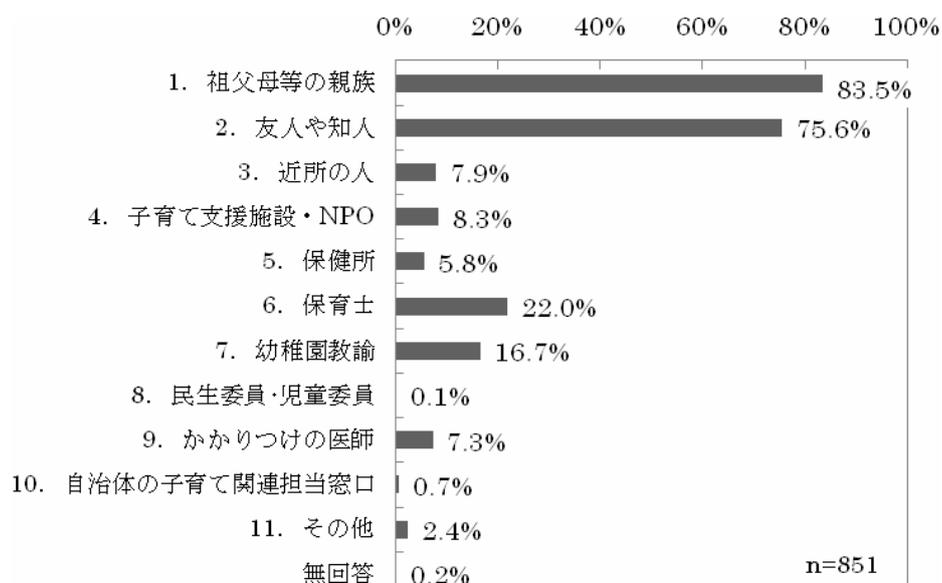
問 10 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）する上で、気軽に相談できる人（場所）はいますか（ありますか）？（1つに○）また、その相談先についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

- ・ 子育てについて気軽に相談できる相談先の有無は、「いる（ある）」が95.8%、「いない（ない）」が4.1%となった（図表 13）。
- ・ 子育てについて気軽に相談できる相談先が「いる（ある）」方の相談相手（場所）は、「祖父母等の親族」（83.5%）が最も多く、次いで「友人や知人」（75.6%）となった。また、「保育士」（22.0%）や「幼稚園教諭」（16.7%）も、やや多くなった（図表 14）。

図表 13 相談先の有無



図表 14 相談相手（場所）



問 11 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。自由にお書きください。

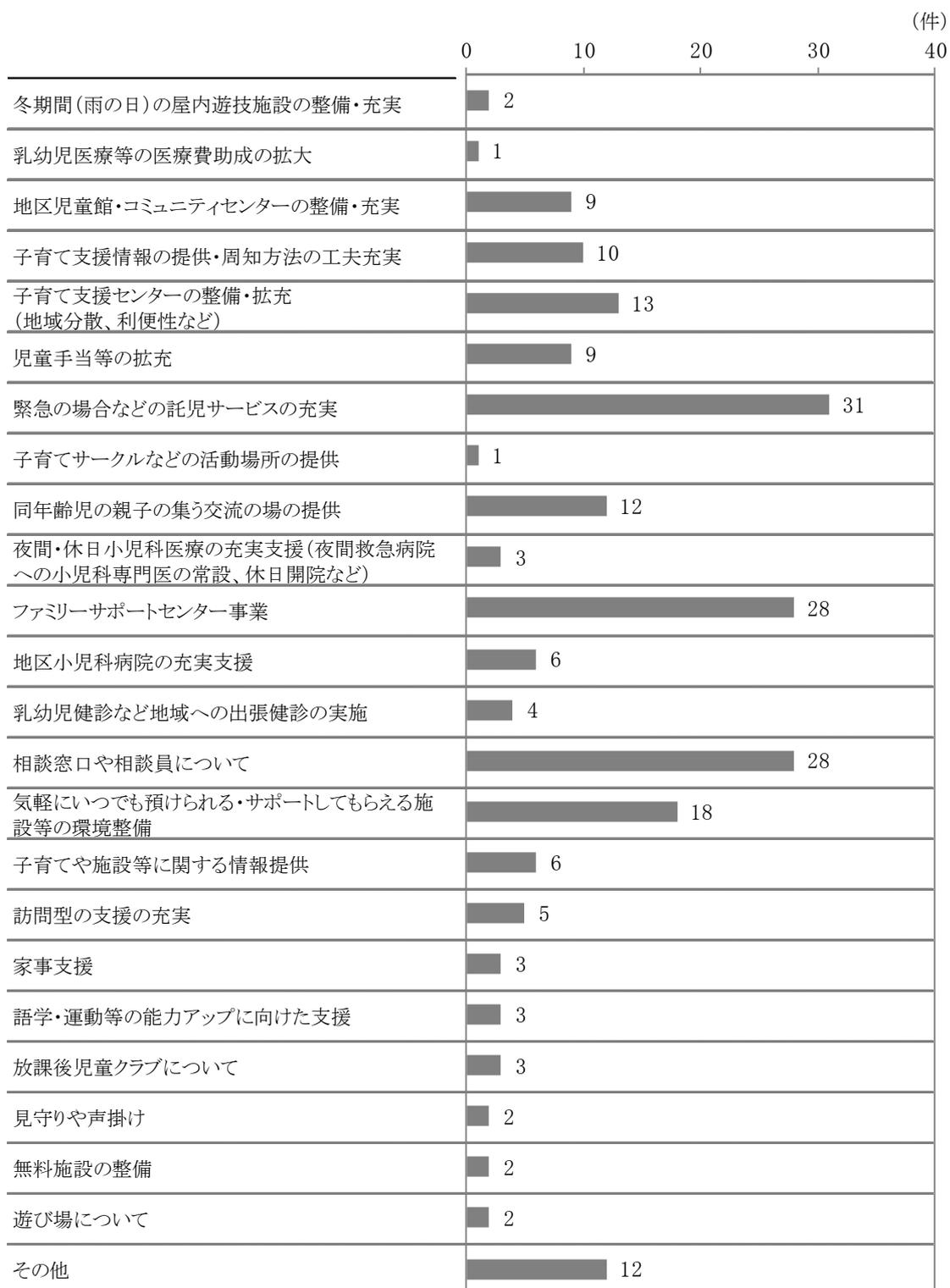
子育てをする上で、周囲からどのようなサポートがあればよいかについて尋ねたところ、888 件中 313 件の回答が得られ、① 行政の子育て支援サービスが 213 件、②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備が 50 件、③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）が 15 件、④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）が 11 件、⑤その他が 24 件となった。

各項目の詳細については、次頁以降に示すとおり。

項目	件数
① 行政の子育て支援サービス	213
②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備	50
③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）	15
④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）	11
⑤その他	24
合計	313

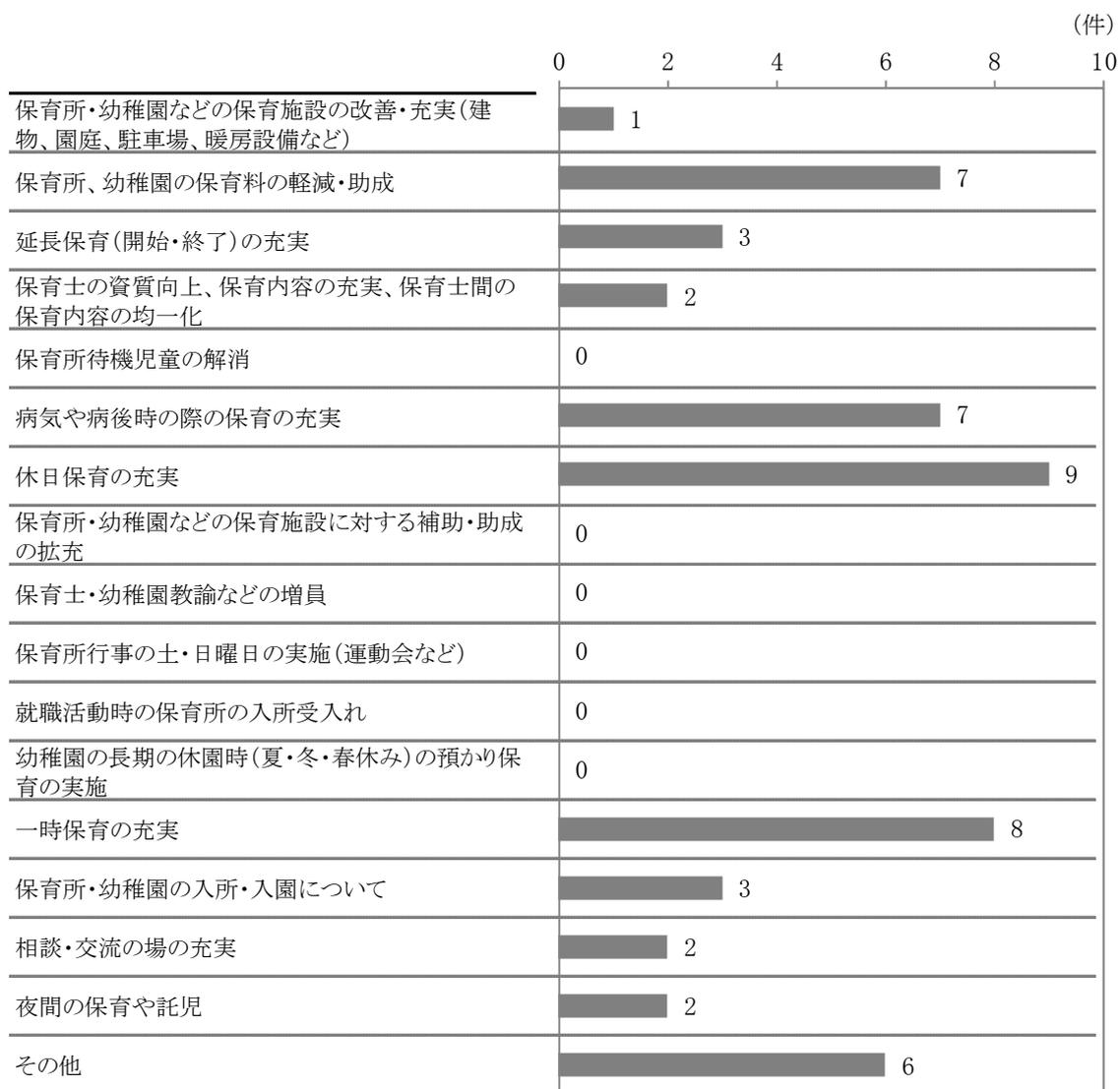
①行政の子育て支援サービスに関する意見

行政の子育て支援サービスに関する意見についてみると、「緊急の場合の託児サービスの充実」が31件、「ファミリーサポートセンター事業」が28件、「相談窓口や相談員について」が28件と特に多くなった。



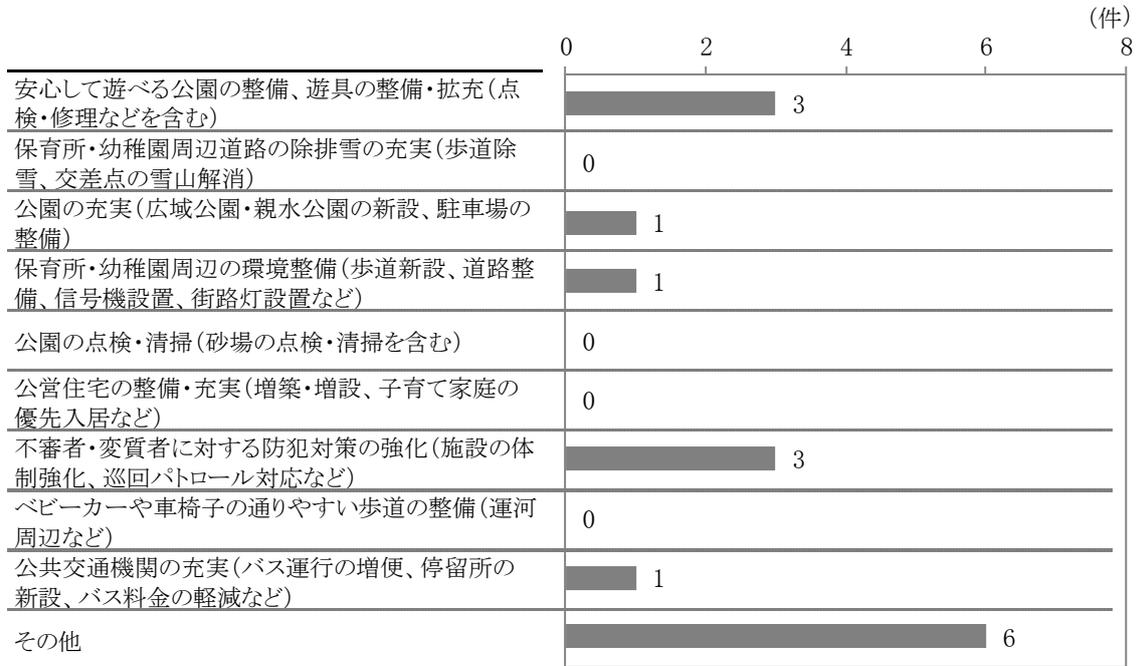
②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備に関する意見

保育所・幼稚園などの保育環境等の整備に関する意見についてみると、「休日保育の充実」が9件、「一時保育の充実」が8件、「保育所、幼稚園の保育料の軽減・助成」が7件、「病気や病後時の際の保育の充実」が7件となった。



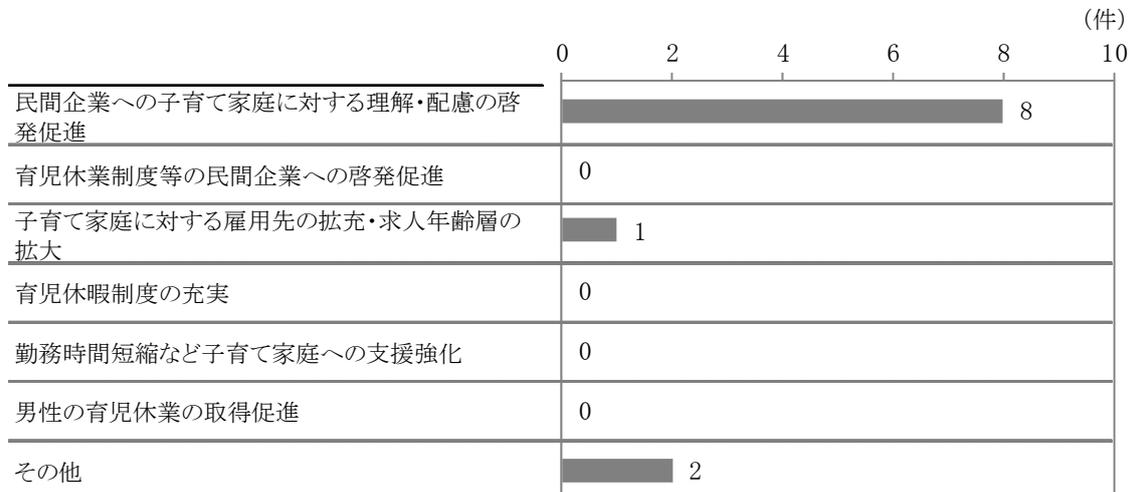
③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）に関する意見

生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）に関する意見についてみると、「安心して遊べる公園の整備、遊具の整備・拡充（点検・修理など）」が3件、「不審者・変質者に対する防犯対策の強化（施設の体制強化、巡回パトロール対応など）」が3件となった。



④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）に関する意見

労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）に関する意見についてみると、「民間企業への子育て家庭に対する理解・配慮の啓発促進」が8件となった。



⑤その他

その他の意見についてみると、「サポートは必要ない・困っていない」が9件となった。

	(件)			
	0	5	10	15
行政サービスの地域間格差の解消	0			
税金の有効な使い方(子育て支援、教育に対する予算の充実など)	0			
全体的な行政サービスの向上(他都市との水準比較)	0			
サポートは必要ない・困っていない	9			
町内会について	2			
その他	13			

2. 3 母親の就労状況について

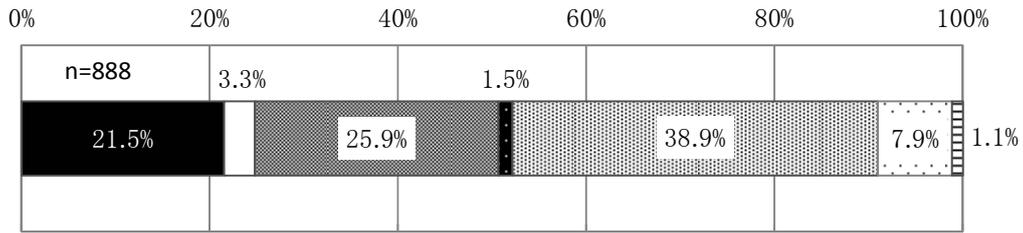
問 12 ① 就労状況と就労時間（母親）

母親「就労状況（1つに○）」と「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合はもっとも多いパターンについてお答えください。また、産休・育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況でお答えください。

なお、就労時間の表記は、必ず24時間制（例：8時00分～18時30分）でご記入ください。

- ・ 母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（38.9%）が最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（25.9%）、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（21.5%）となった（図表15）。
- ・ 1週当たりの就労日数は、「5日」（60.0%）が最も多く、次いで「6日」（20.7%）となり、1日当たりの就労時間は、「8時間」（29.6%）が最も多く、次いで「5時間」（15.3%）、「6時間」（14.7%）となった（図表16）。
- ・ 家を出る時間は「7時30分～7時59分」（26.3%）、「8時～8時29分」（26.3%）、帰宅時間は「18時～18時29分」（22.2%）が最も多い（図表17）。

図表 15 母親の就労状況

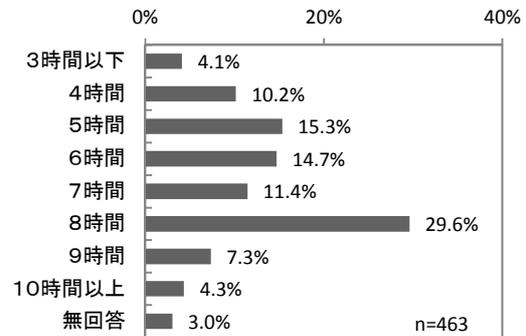
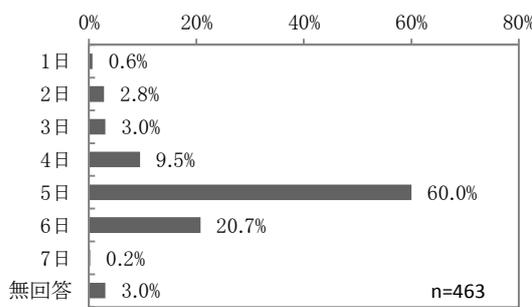


- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない (21.5%)
- 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である (3.3%)
- ▨ 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない (25.9%)
- ▩ 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である (1.5%)
- ▤ 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない (38.9%)
- ▥ 6. これまで就労したことがない (7.9%)
- 無回答 (1.1%)

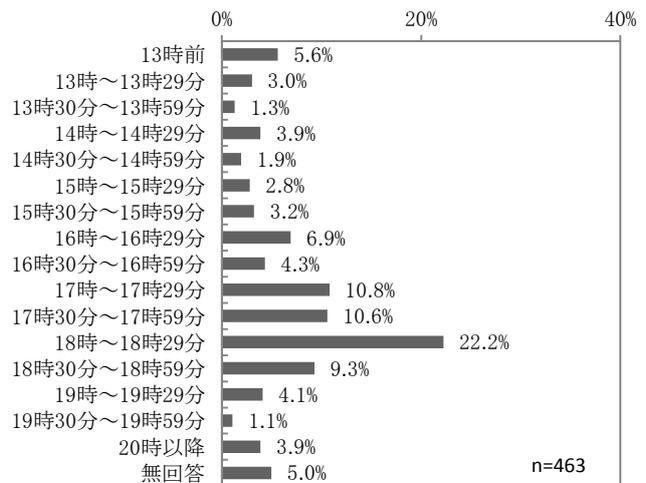
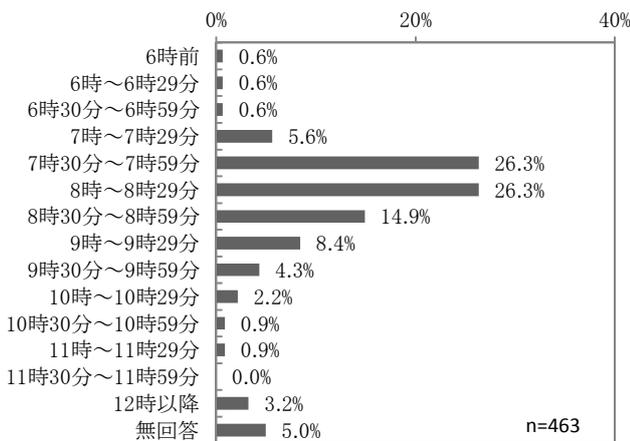
問 12②へ

問 12③へ

図表 16 1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間（母親）



図表 17 家を出る時間と帰宅時間（母親）

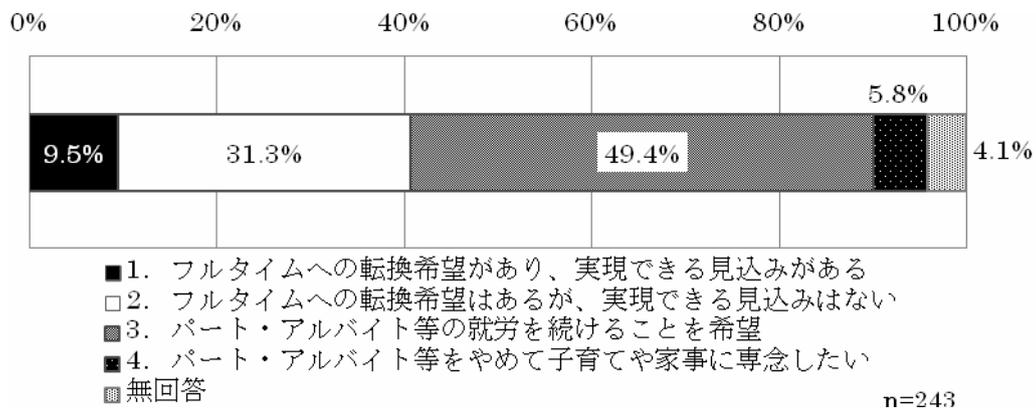


問12 ② フルタイムへの転換希望（母親）

問12 ①で「3.」または「4.」（パート・アルバイト等で就労している）を選んだ方にお伺いします。フルタイムへの転換希望はありますか？（1つに〇）

- ・ パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」（49.4%）が最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（31.3%）となった（図表18）。

図表 18 フルタイムへの転換希望（母親）

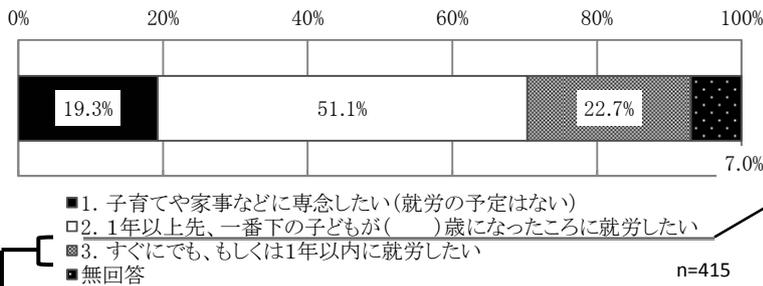


問 12 ③ 就労希望（母親）

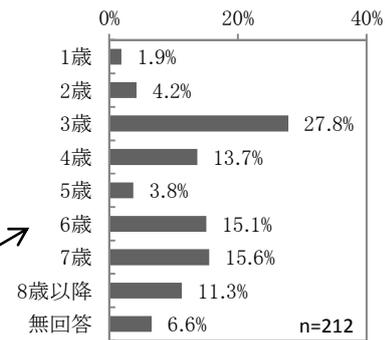
問 12 ①で「5.」または「6.」（現在就労していない）を選んだ方にお伺いします。
就労したいという希望はありますか？（1つに○）

- ・ 現在就労していない方の就労希望は、「1年以上先に就労したい」（51.1%）が最も多く、次いで「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」（22.7%）となった（図表 19）。また、1年以上先に就労したいと回答した方の希望する就労時期は、一番下の子どもが「3歳」になったころ（27.8%）が最も多い（図表 20）。
- ・ 「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」方の希望する就労形態は、「パート、アルバイト等（フルタイム以外）」が78.7%、「フルタイム」が16.0%となった（図表 21）。また、希望する就労時間は、1週当たり「5日」（46.8%）、1日当たり「5時間」（44.7%）が最も多い（図表 22）。

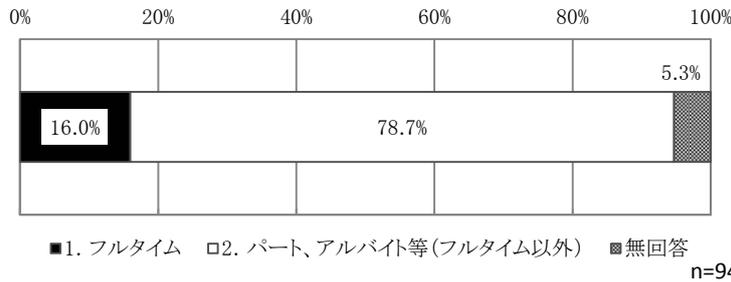
図表 19 就労希望（母親）



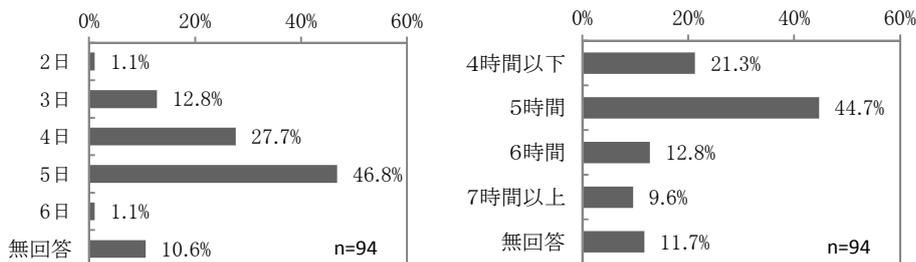
図表 20 希望する就労時期（母親）
一番下の子ども歳



図表 21 希望する就労形態（母親）



図表 22 希望する1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間（母親）



2. 4 父親の就労状況について

問 13 ① 就労状況と就労時間（父親）

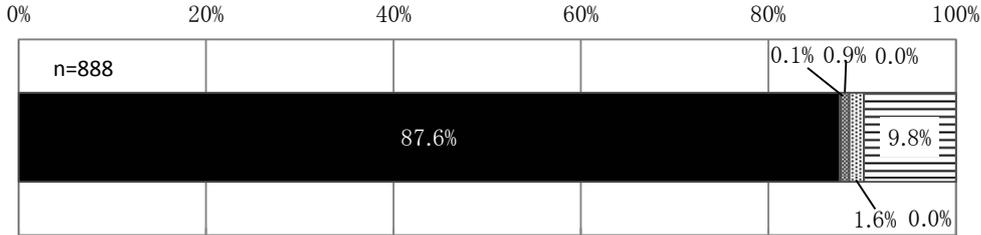
父親の「就労状況（1つに○）」と「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合はもっとも多いパターンについてお答えください。

また、育休・介護休業中の方は休業に入る前の状況でお答えください。

なお、就労時間の表記は、必ず24時間制（例：8時00分～18時30分）でご記入ください。

- ・ 父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が87.6%と圧倒的に多く、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は1.6%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」は0.9%、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」は0.1%となった（図表23）。
- ・ 「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」、「これまで就労したことがない」はともに0.0%となった。
- ・ 1週当たりの就労日数は、「6日」（50.4%）が最も多く、次いで「5日」（39.9%）となった。1日当たりの就労時間は「10時間以上」（40.9%）が最も多く、次いで「8時間」（34.9%）となった（図表24）。
- ・ 家を出る時間は「7時～7時29分」（20.8%）、「7時30分～7時59分」（22.0%）、「8時～8時29分」（19.4%）の3区分が多数を占め、帰宅時間は「20時以降」（35.7%）が最も多い（図表25）。

図表 23 父親の就労状況

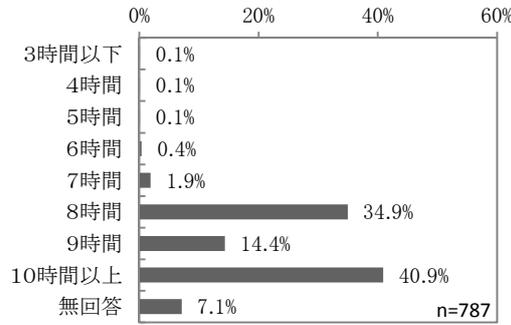
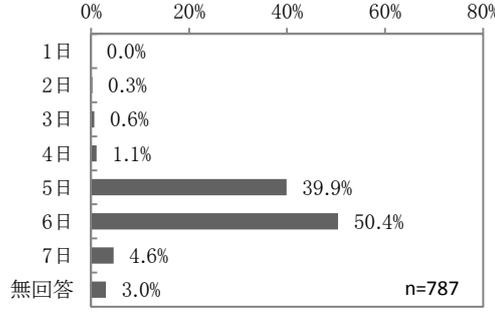


- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない (87.6%)
- 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である (0.1%)
- ▨ 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない (0.9%)
- 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である (0%)
- ▨ 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない (1.6%)
- 6. これまで就労したことがない (0%)
- 無回答 (9.8%)

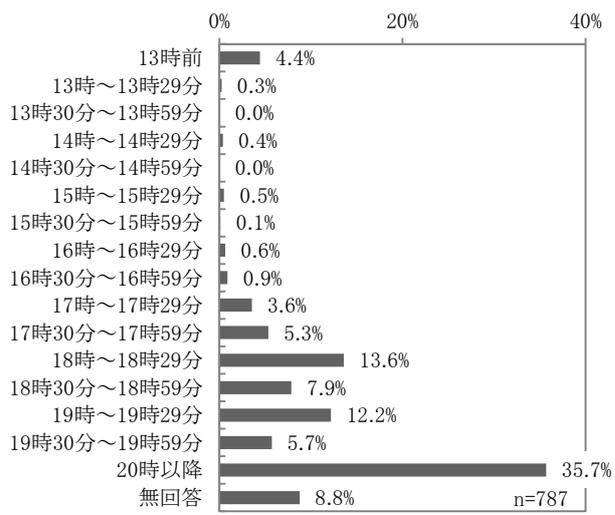
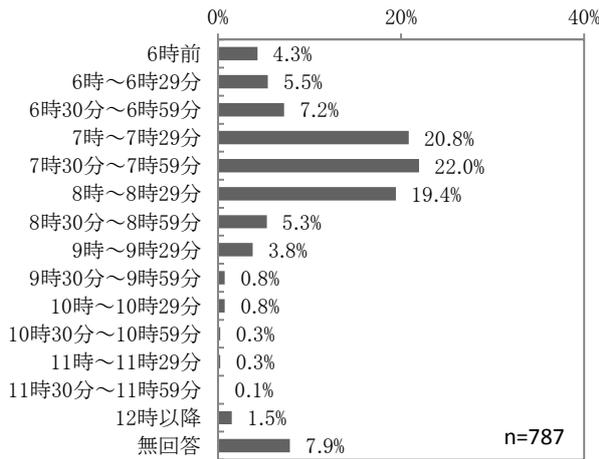
問 13②へ

問 13③へ

図表 24 1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間（父親）



図表 25 家を出る時間と帰宅時間（父親）

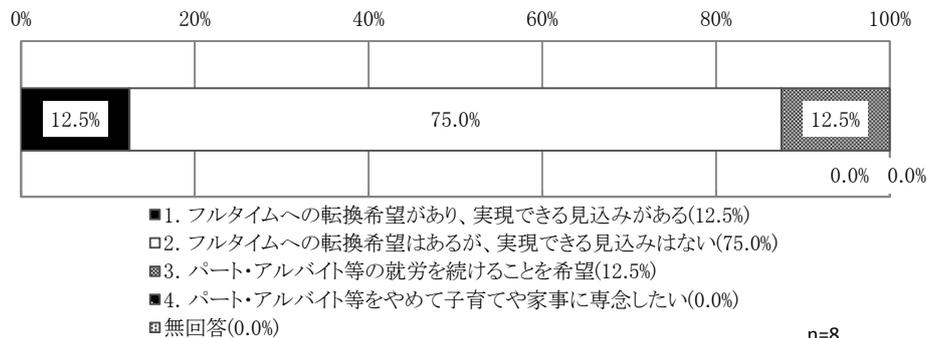


問 13 ② フルタイムへの転換希望

問 13 ①で「3.」または「4.」(パート・アルバイト等で就労している)を選んだ方にお伺いします。フルタイムへの転換希望はありますか？(1つに○)

- ・パート・アルバイト等で就労している方(8名)のフルタイムへの転換希望は、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が6名、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」および「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」がそれぞれ1名となった(図表 26)。

図表 26 フルタイムへの転換希望(父親)

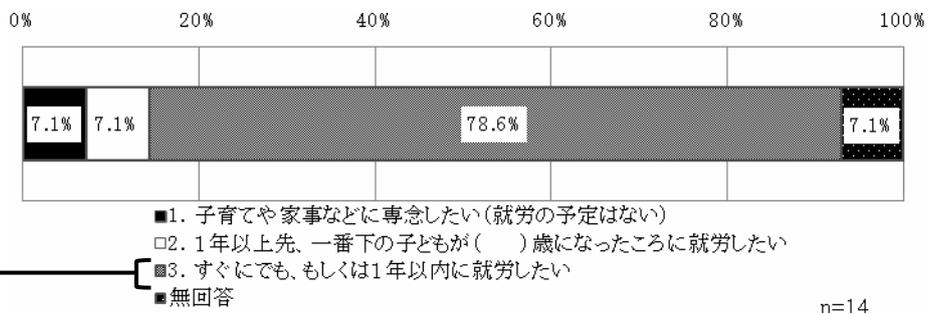


問 13 ③ 就労希望

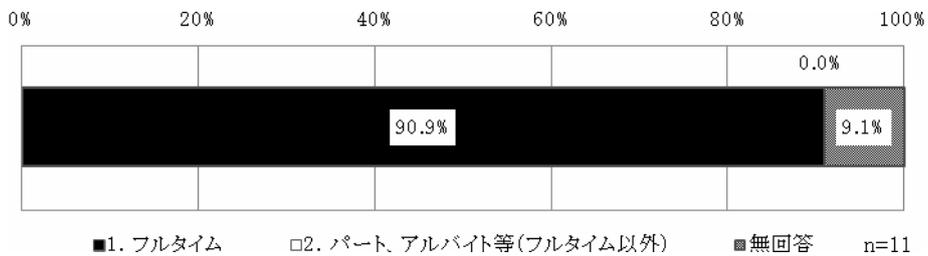
問 13 ①で「5.」または「6.」（現在就労していない）を選んだ方にお伺いします。
就労したいという希望はありますか？（1つに○）

- ・ 現在就労していない方（14名）の就労希望は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が11名、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」および「1年以上先に就労したい」が1名となり（図表 27）、就労時期は一番下の子どもが6歳になったころを希望していた。
- ・ 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」方（11名）の希望する就労形態は、「フルタイム」が10名となった（図表 28）。また、希望する就労時間は、1週あたり「6日」（63.6%）、1日当たり「7時間以上」（81.8%）が最も多い（図表 29）。

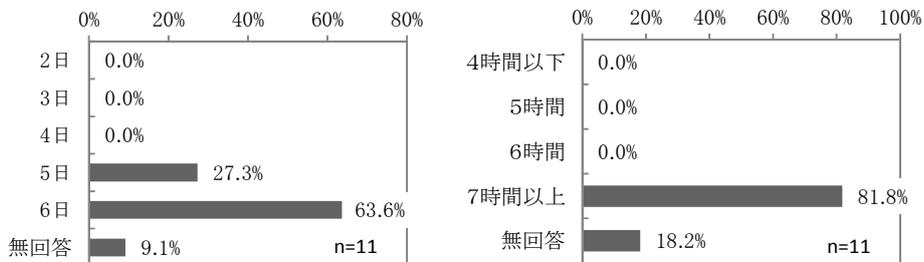
図表 27 就労希望（父親）



図表 28 希望する就労形態（父親）



図表 29 希望する1週当たりの就労日数と1日当たりの就労時間（父親）

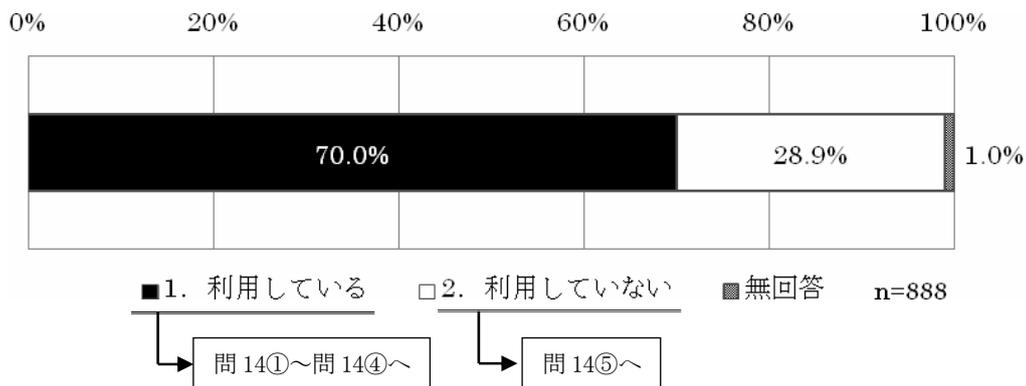


2. 5 お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

問 14 あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか？（1つに○）

- ・ お子さんの現在の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が70.0%、「利用していない」が28.9%となった（図表30）。

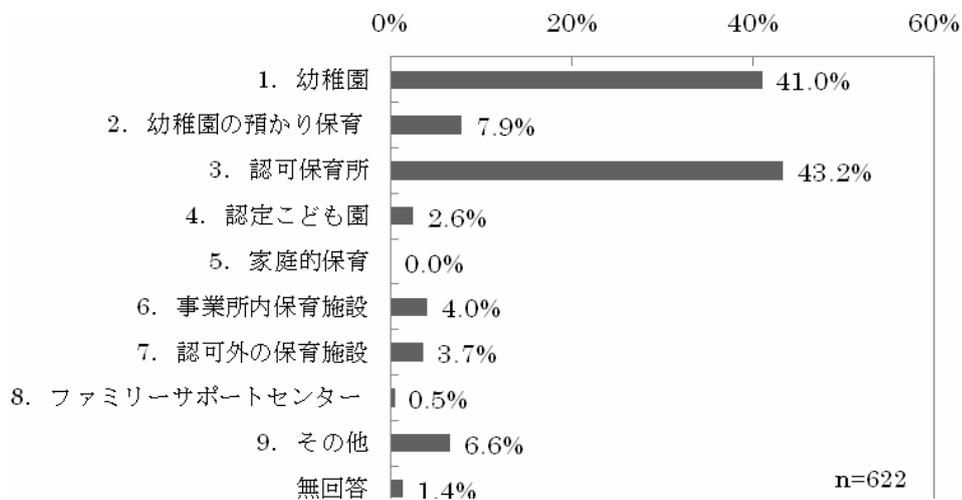
図表 30 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況



問 14 ① あて名のお子さんは、平日にどのような教育・保育の事業を利用していますか？年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（当てはまるもの全てに○）

- ・ お子さんが現在、「定期的な教育・保育事業を利用している」方の実際に利用している教育・保育事業は、「認可保育所」（43.2%）が最も多く、次いで「幼稚園」（41.0%）となった（図表31）。

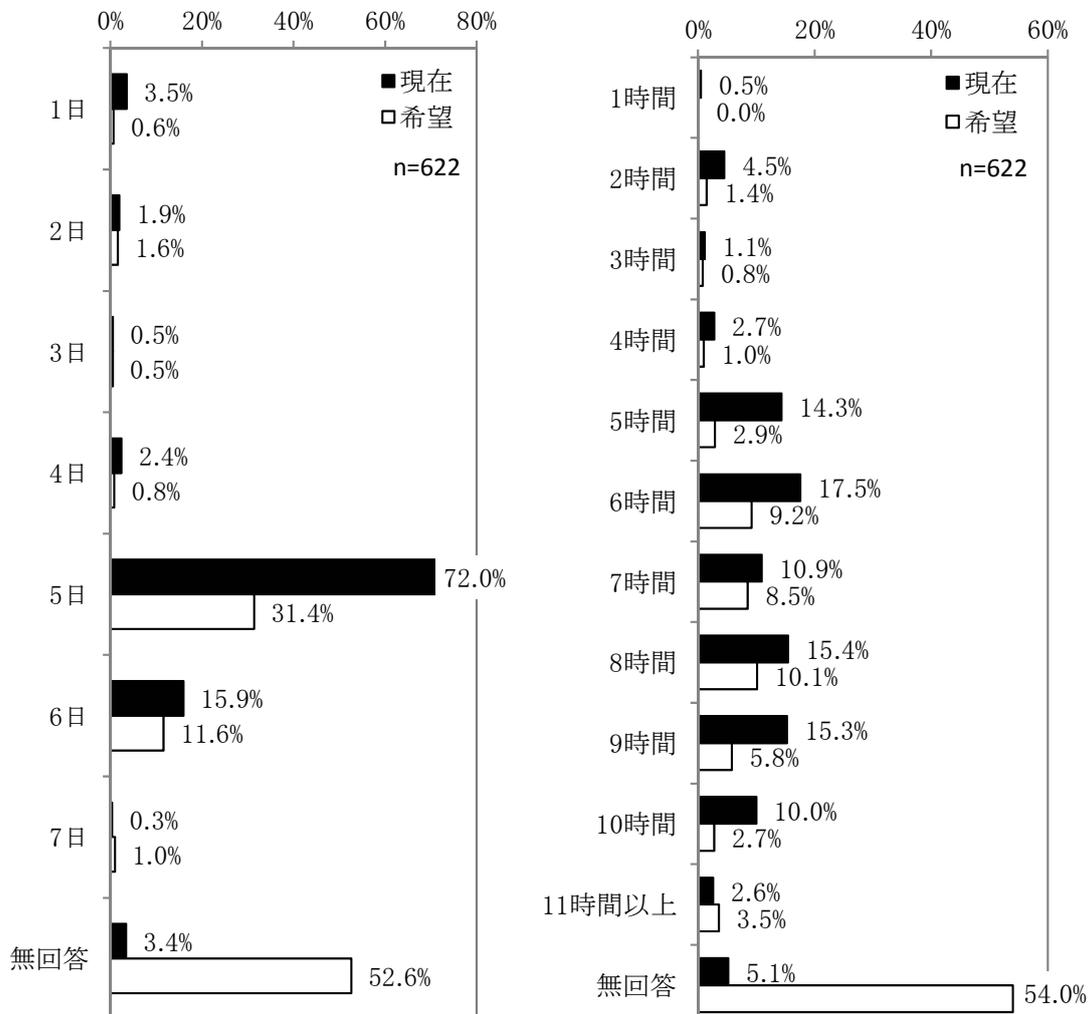
図表 31 平日に利用している教育・保育事業
(定期的な教育・保育事業を利用している方)



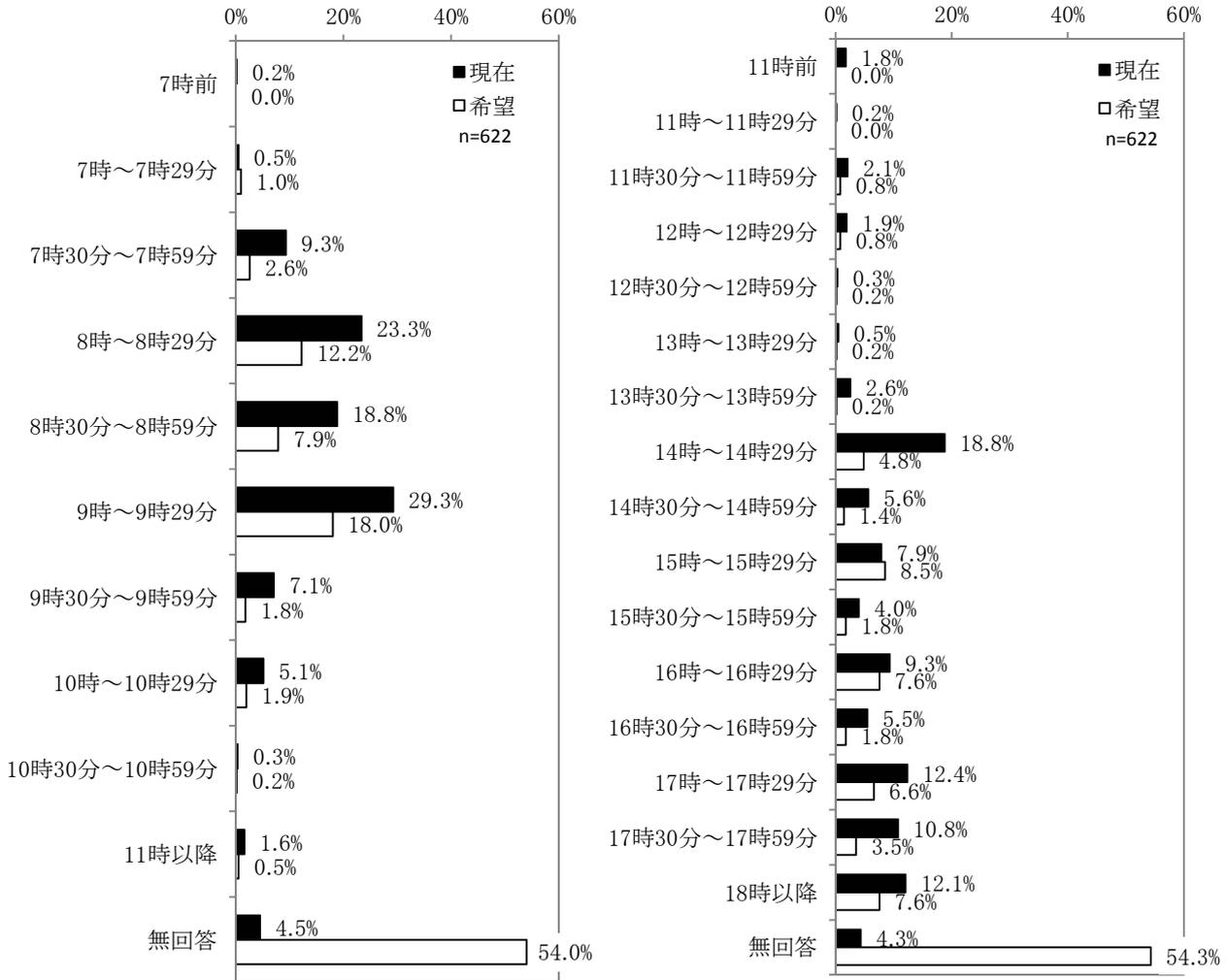
問 14 ② 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、どのくらい利用していますか？また、希望としてはどのくらい利用したいですか？

- 平日に利用している教育・保育事業の利用頻度についてみると、現在・希望とも1週間当たり「5日」が最も多い。1日当たりの利用時間についてみると、現在は「6時間」（17.5%）、希望は「8時間」（10.1%）が多い（図表 32）。
- 利用開始時間と終了時間についてみると、利用開始時間は現在・希望とも「9時～9時29分」が多く、終了時間は現在が「14時～14時29分」（18.8%）が多く、希望は「15時～15時29分」（8.5%）が多い（図表 33）。

図表 32 平日に利用している教育・保育事業



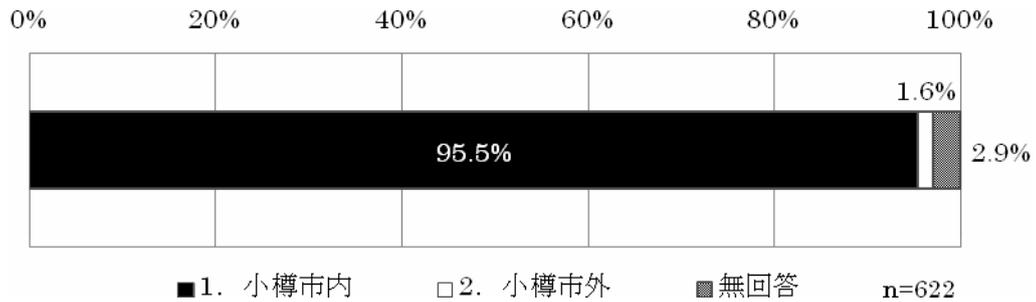
図表 33 利用開始時間と終了時間



問 14 ③ 現在、利用している教育・保育事業の実施場所はどちらですか？（1つに○）

- ・ お子さんが現在、「定期的な教育・保育事業を利用している」方の現在利用している教育・保育事業の実施場所は、「小樽市内」が95.5%、「小樽市外」が1.6%となった（図表 34）。

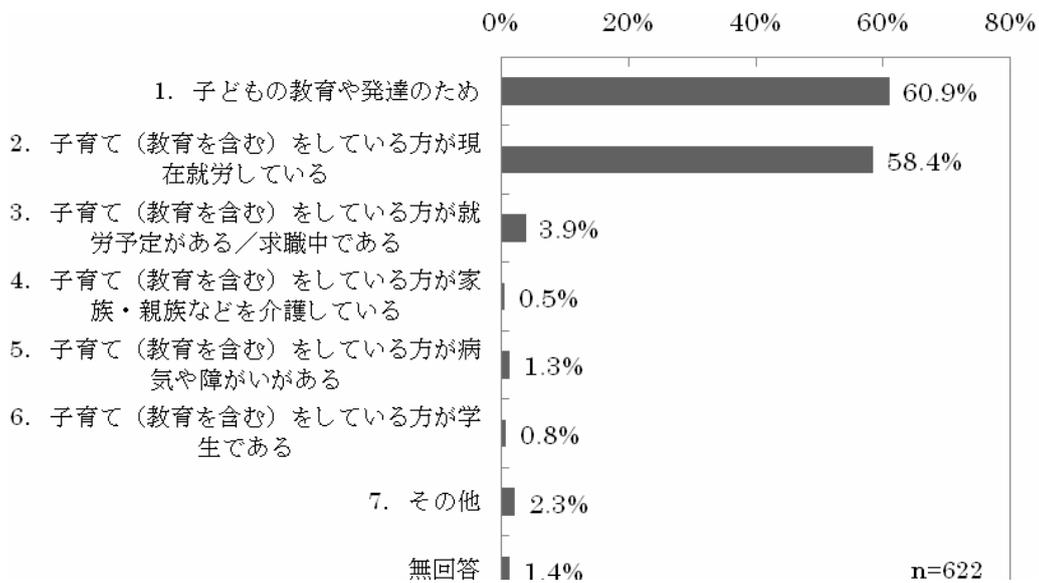
図表 34 現在、利用している教育・保育事業の実施場所
（定期的な教育・保育事業を利用している方）



問 14 ④ 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由は何ですか？（当てはまるもの全てに○）

- 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」(60.9%)が最も多く、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」(58.4%)となった（図表 35）。

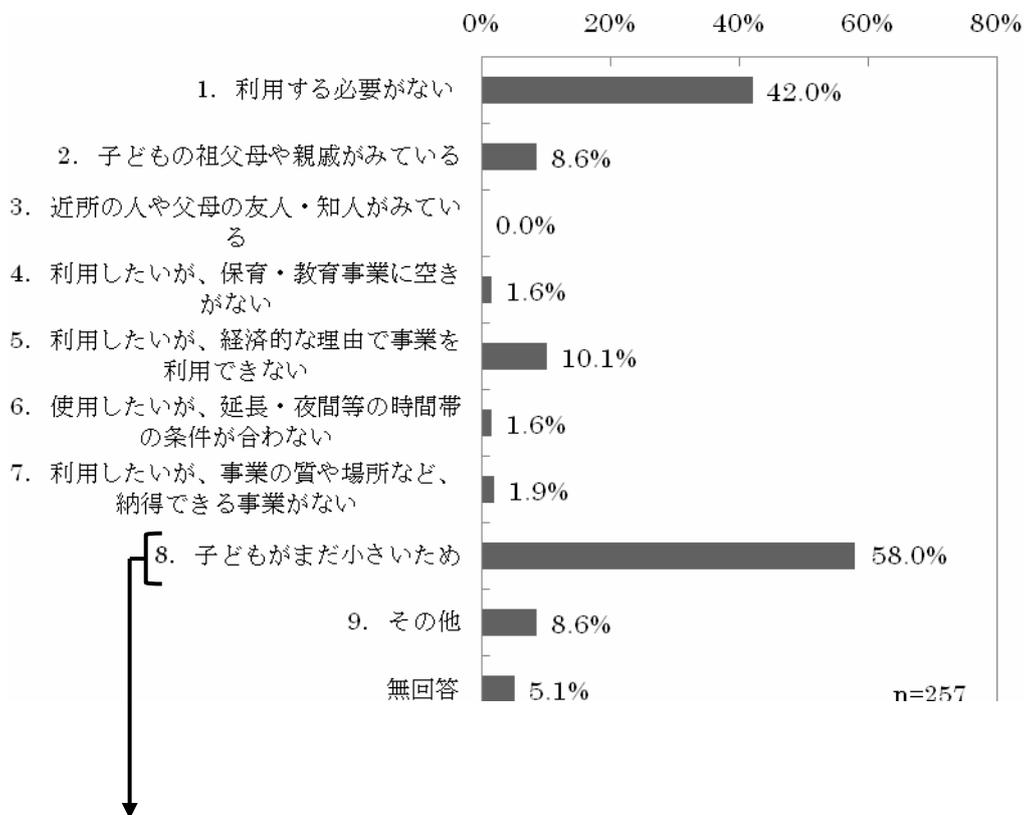
図表 35 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由



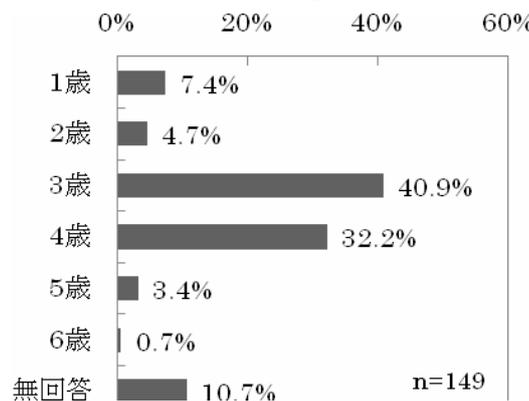
問 14 ⑤ 問 14 で「2. 利用していない」に○を付けた方にうかがいます。
 利用していない理由は何ですか？（当てはまるもの全てに○）

- ・ 「平日に定期的に教育・保育事業を利用していない」方の理由は、「子どもがまだ小さいため」(58.0%) が最も多く、次いで「利用する必要がない」(42.0%) となった(図表 36)。
- ・ 「子どもがまだ小さいため」と回答した方について、子どもが何歳くらいになったら利用しようと考えているか尋ねた結果、「3歳」(40.9%) が最も多く、次いで「4歳」(32.2%) となった(図表 37)。

図表 36 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由



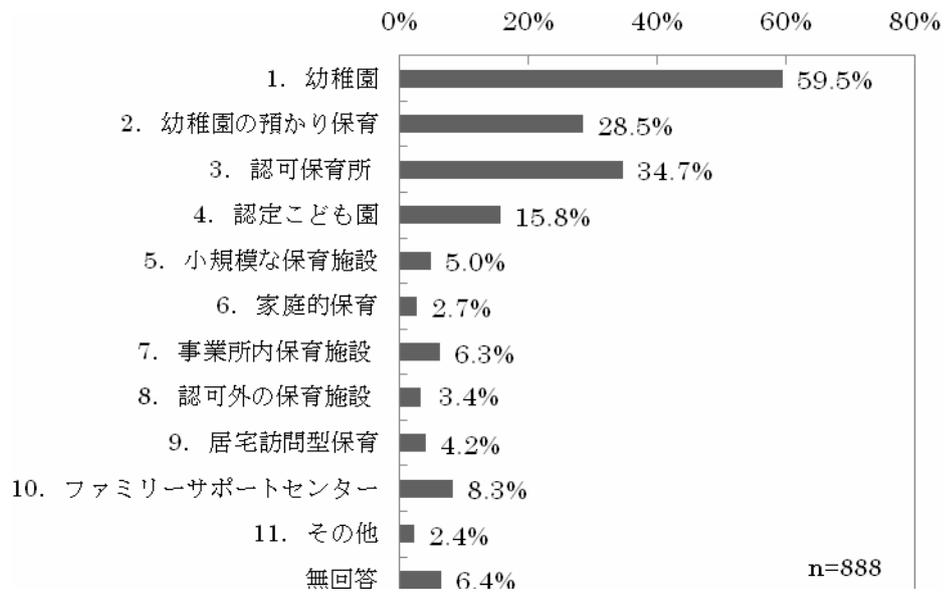
図表 37 子どもが何歳になったら利用しようと考えているか
 (「子どもがまだ小さいため」と回答した方)



問 15 現在、利用している、利用していないに関わらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育事業で、「定期的に」利用したい事業はなんですか？（当てはまるもの全てに○）

- 現在の利用有無にかかわらず平日の教育・保育事業で「定期的に」利用したい事業は、「幼稚園」（59.5%）が最も多く、次いで「認可保育所」（34.7%）、「幼稚園の預かり保育」（28.5%）となった（図表 38）。

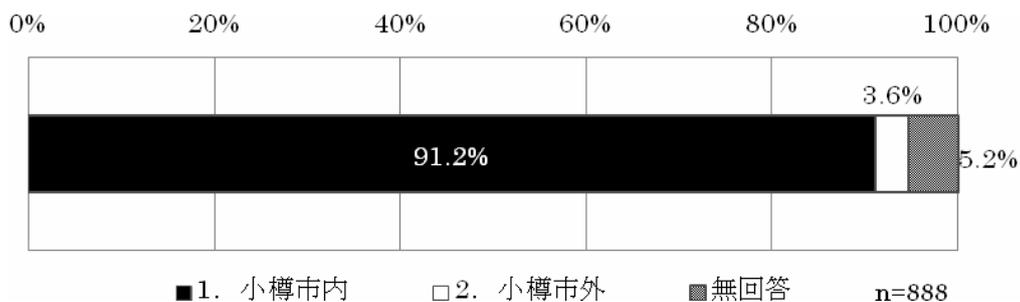
図表 38 平日に定期的に利用したい事業



問 15 ① 教育・保育事業を利用したい場所はどちらですか？（1つに○）

- 教育・保育事業を利用したい場所は、「小樽市内」が91.2%、「小樽市外」が3.6%となった（図表 39）。

図表 39 教育・保育事業を利用したい場所



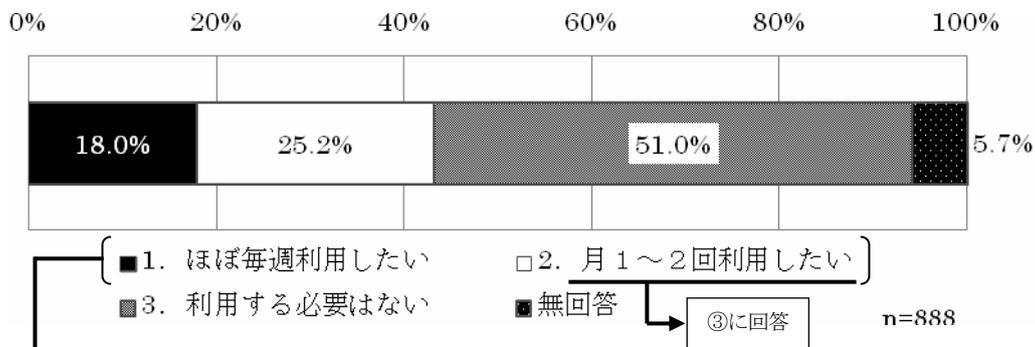
2. 6 お子さんの土曜日・休日や長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

問 16 あて名のお子さんについて、土・日・祝日及び春・夏・冬休みなどの長期休暇中における定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか？（一時的な利用は除く）利用希望の有無と利用したい時間帯をお答えください。（長期休暇中は幼稚園利用者のみ）。
 なお、利用したい時間帯の表記は必ず 24 時間制（8 時 00 分～18 時 30 分）でご記入ください。

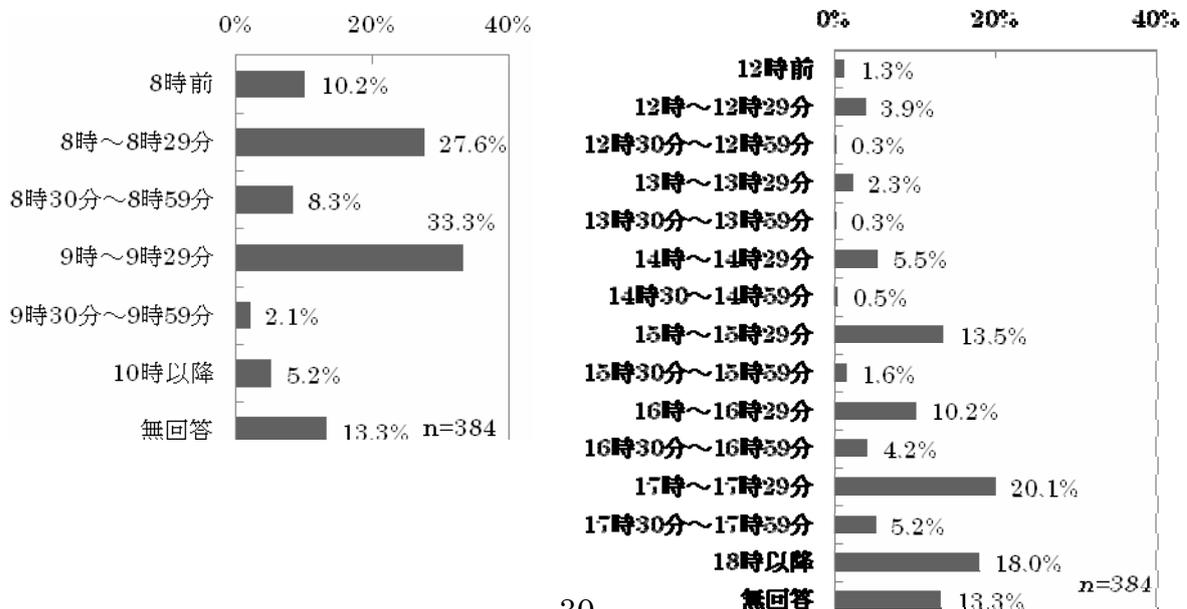
①土曜日

- 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」（51.0%）が最も多く、次いで「月 1～2 回利用したい」（25.2%）、「ほぼ毎週利用したい」（18.0%）となった（図表 40）。
- 利用したい時間帯についてみると、開始時間は「9 時～9 時 29 分」（33.3%）が最も多く、次いで「8 時～8 時 29 分」（27.6%）となった。終了時間は「17 時～17 時 29 分」（20.1%）が最も多く、次いで「18 時以降」（18.0%）となった（図表 41）。

図表 40 定期的な教育・保育事業の利用希望（土曜日）



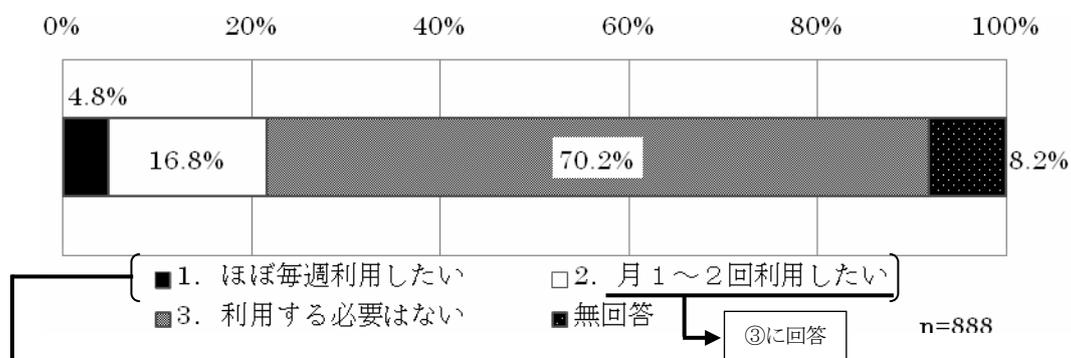
図表 41 利用したい時間帯（利用開始時間と終了時間）（土曜日）



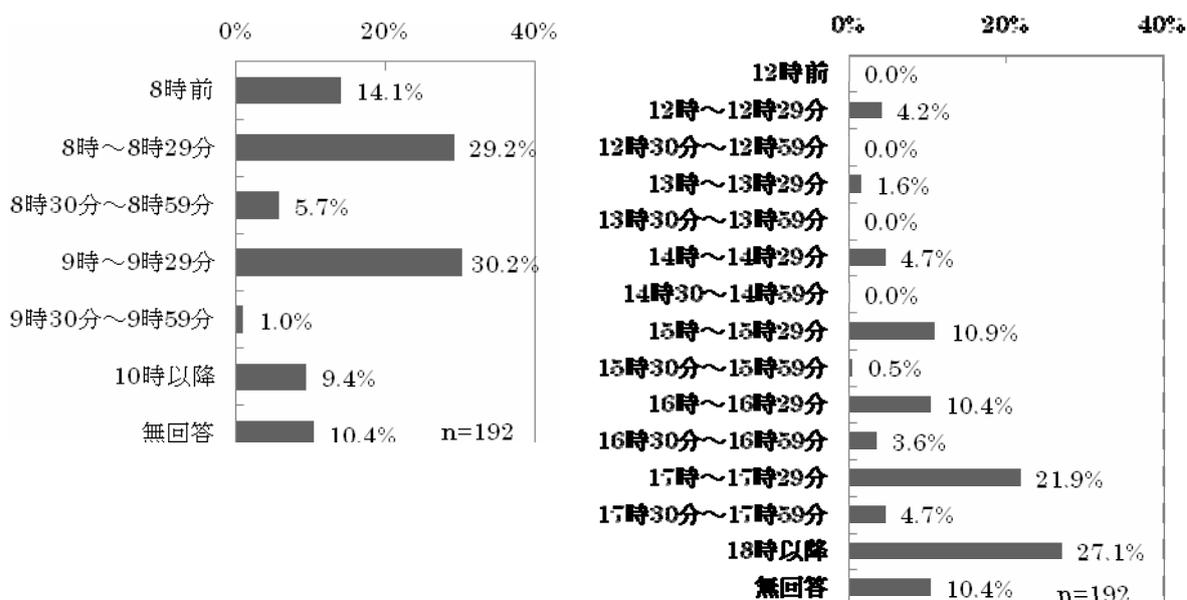
②日曜日・祝日

- ・ 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」(70.2%)が最も多く、次いで「月1～2回利用したい」(16.8%)、「ほぼ毎週利用したい」(4.8%)となった(図表42)。
- ・ 利用したい時間帯についてみると、開始時間は「9時～9時29分」(30.2%)が最も多く、次いで「8時～8時29分」(29.2%)となった。終了時間は「18時以降」(27.1%)が最も多く、次いで「17時～17時29分」(21.9%)となった(図表43)。

図表 42 定期的な教育・保育事業の利用希望（日曜日・祝日）



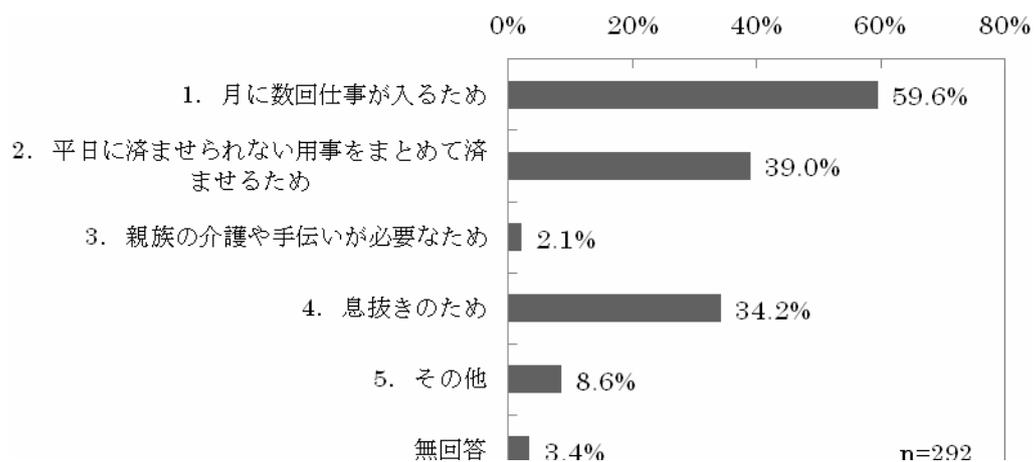
図表 43 利用したい時間帯（利用開始時間と終了時間）（日曜日・祝日）



③土曜日・日曜日・祝日にたまに利用したい理由

- 土曜日あるいは日曜日・祝日に「月1～2回利用したい」方のたまに利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」(59.6%)が最も多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(39.0%)、「息抜きのため」(34.2%)となった(図表44)。

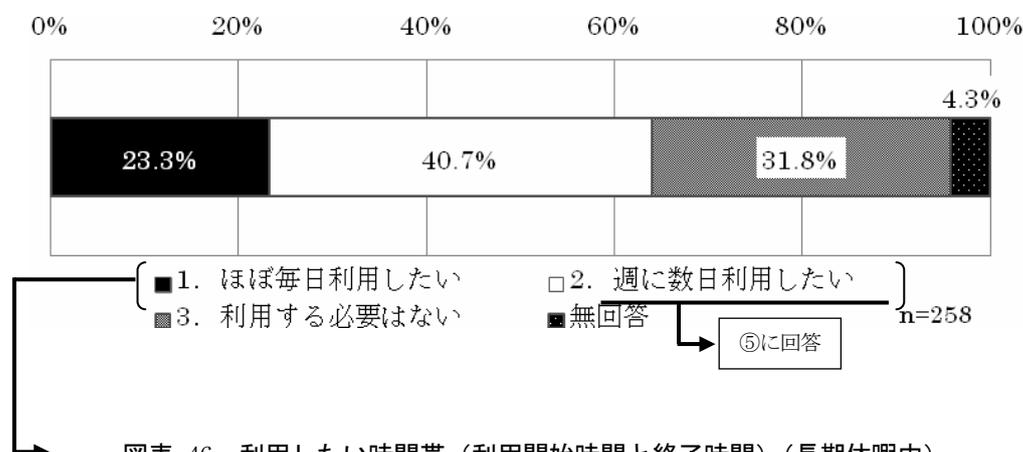
図表 44 たまに利用したい理由(土曜日・日曜日・祝日)



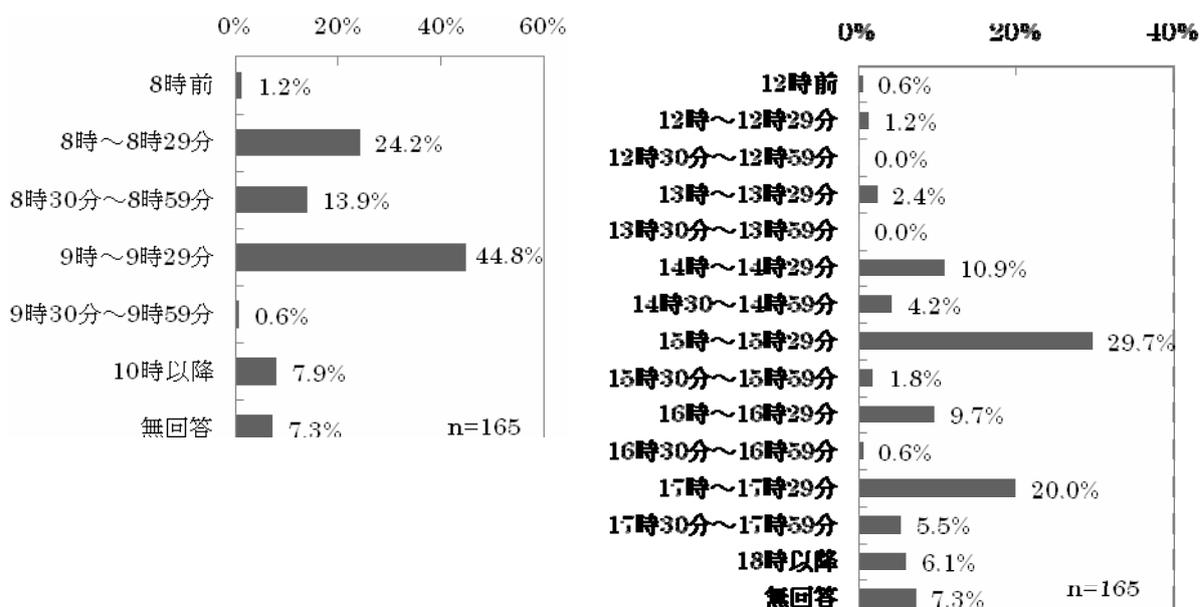
④長期休暇中（幼稚園利用者のみ）

- ・長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望は、「週に数日利用したい」（40.7％）が最も多く、次いで「利用する必要はない」（31.8％）、「ほぼ毎日利用したい」（23.3％）となった（図表 45）。
- ・利用したい時間帯についてみると、開始時間は「9時～9時29分」（44.8％）が最も多く、次いで「8時～8時29分」（24.2％）となった。終了時間は「15時～15時29分」（29.7％）が最も多く、次いで「17時～17時29分」（20.0％）となった（図表 46）。

図表 45 定期的な教育・保育事業の利用希望（長期休暇中）



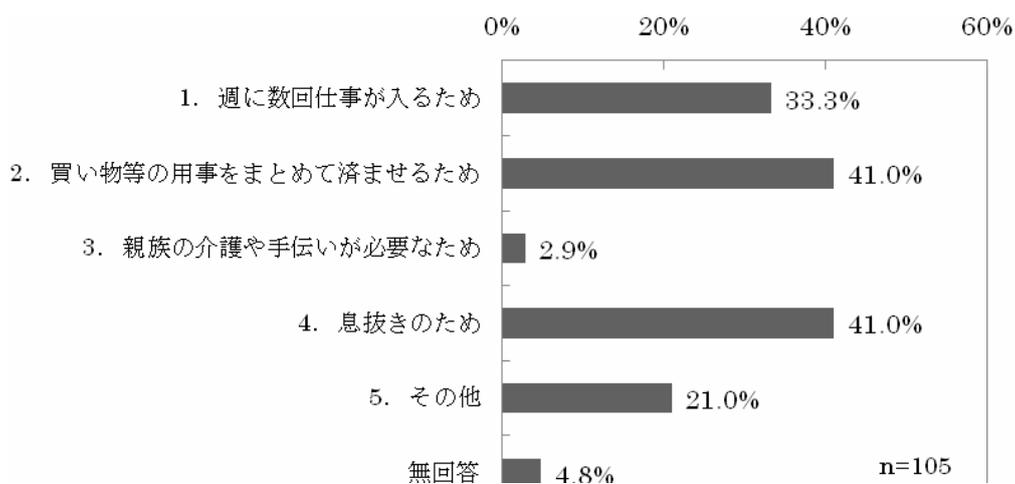
図表 46 利用したい時間帯（利用開始時間と終了時間）（長期休暇中）



⑤長期休暇中（幼稚園利用者のみ）にたまに利用したい理由

- ・長期休暇中に「週に数回利用したい」方のたまに利用したい理由は、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」（41.0%）と「息抜きのため（41.0%）」が最も多く、次いで「週に数回仕事が入るため」（33.3%）となった（図表 47）。

図表 47 たまに利用したい理由（長期休暇中）

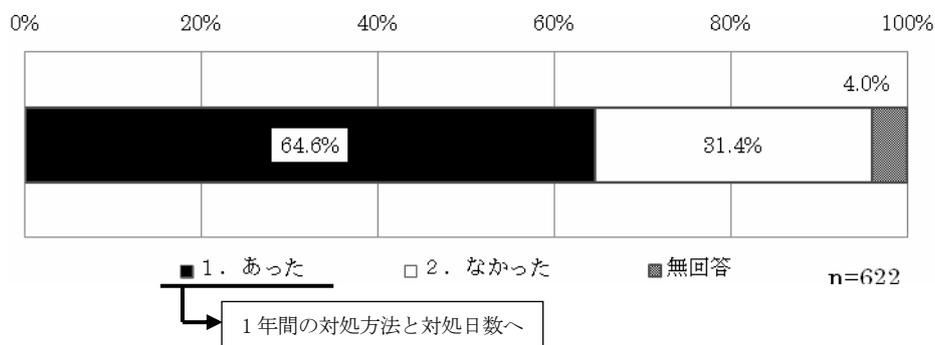


2. 7 お子さんの病気の際の対応

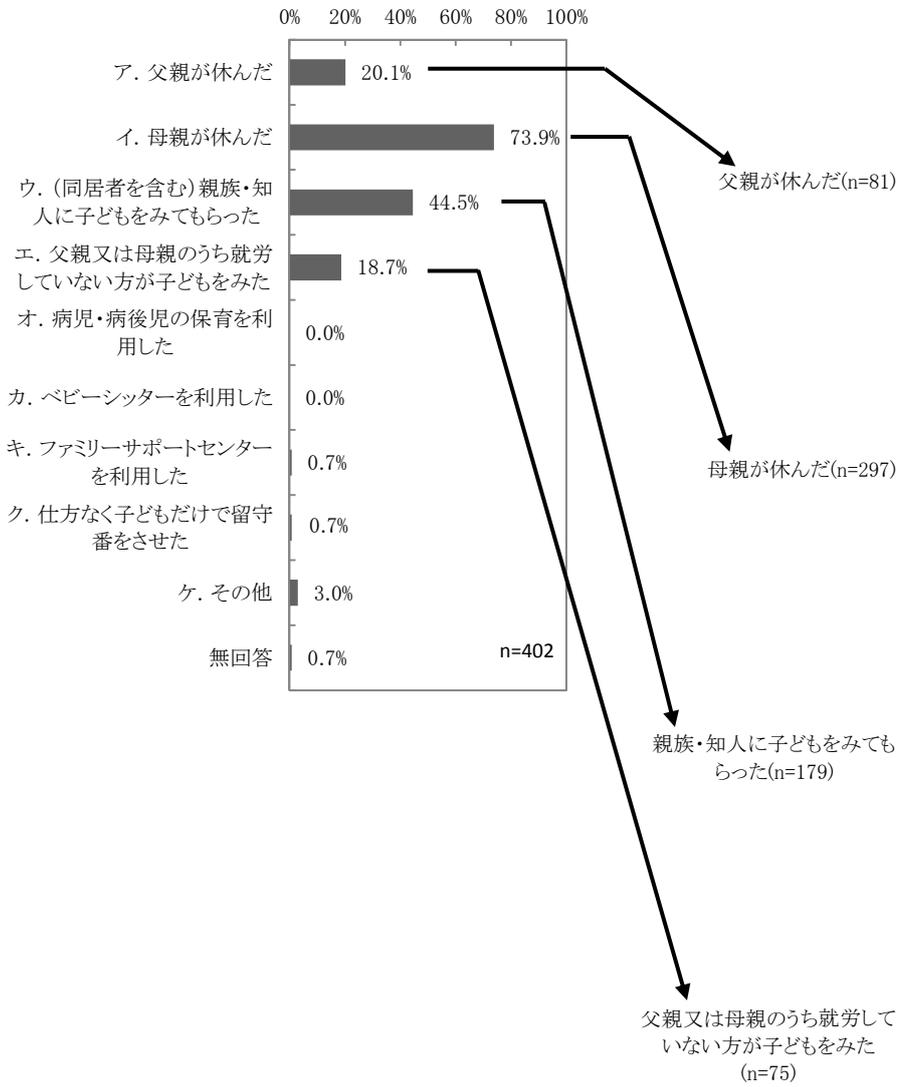
問 17 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方（問 14 で「1.」に○を付けた方）にうかがいます。利用していない方は問 18 にお進みください。
この 1 年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できず、特別な対応をとる必要がありましたか（1 つに○）？必要があった場合は、この 1 年間に行った対処方法を選択し（当てはまるもの全てに○）、それぞれの延べ日数をお答えください。

- ・この 1 年間にお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できず特別な対応をとる必要があったかについては、「あった」が 64.6%、「なかった」が 31.4%となった（図表 48）。
- ・「特別な対応をとる必要があった」方の対処方法は、「母親が休んだ」（73.9%）が最も多く、次いで「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（44.5%）となった（図表 49）。
- ・「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に子どもをみてもらった」「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」と回答した方の具体的な日数についてみると、いずれも「1～5 日」が最も多く、次いで「6～10 日」となった（図表 50）。

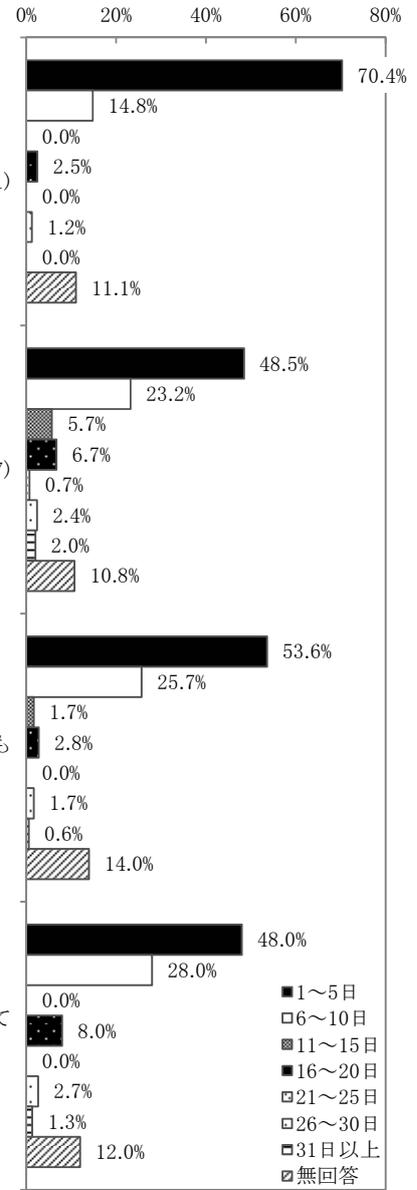
図表 48 特別な対応をとる必要があったか



図表 49 1年間の対処方法



図表 50 日数

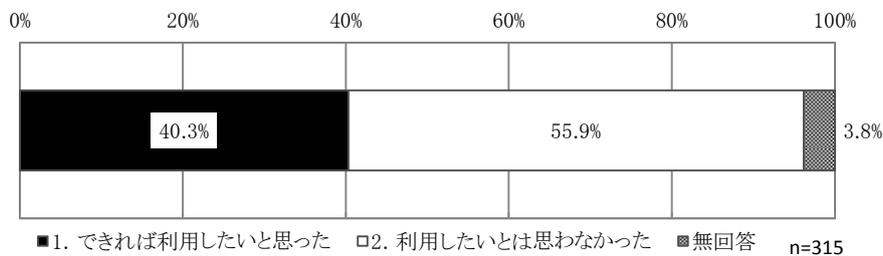


問17 ① 問17で「ア.」「イ.」のいずれかを回答した方にうかがいます。

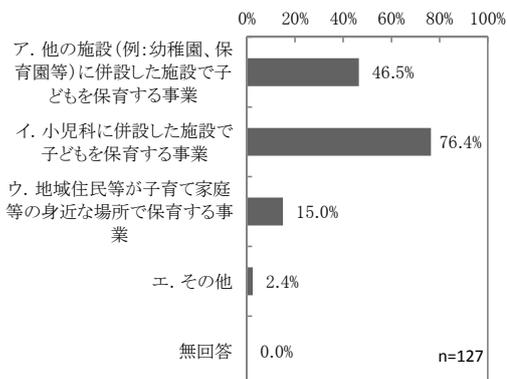
その際、できれば「病児・病後児保育事業」を利用したいと思われましたか？（1つに○）
 思われた場合は希望延べ日数と利用したい事業形態（当てはまるもの全てに○）を、思わなかった場合はその理由（当てはまるもの全てに○）をお答えください。

- ・対処方法として、「父親あるいは母親が休んだ」方の病児・病後児保育事業の利用意向は、「できれば利用したいと思った」が40.3%、「利用したいと思わなかった」が55.9%となった（図表51）。
- ・病児・病後児保育事業を「できれば利用したいと思った」方の希望する事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（76.4%）が最も多く、次いで「他の施設（例：幼稚園、保育園等）に併設した施設で子どもを保育する事業」（46.5%）となった（図表52）。また、希望延べ日数は、「1～5日」（46.5%）が最も多く、次いで「6～10日」（22.0%）となった（図表53）。
- ・病児・病後児保育事業を「利用したいとは思わなかった」方の理由は、「親が仕事を休んで対応する」（55.7%）が最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（55.1%）となった（図表54）。

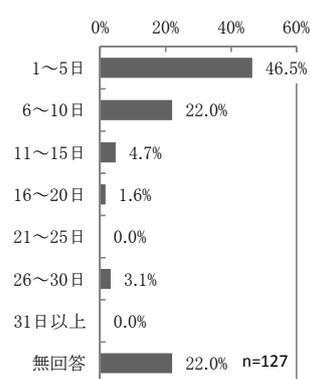
図表 51 病児・病後児保育事業の利用意向（父親あるいは母親が休んだ方）



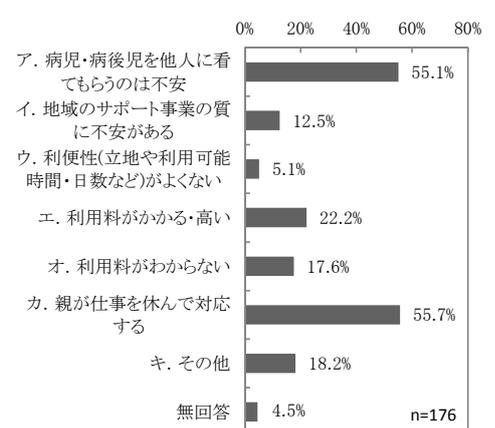
図表 52 希望する事業形態



図表 53 希望延べ日数



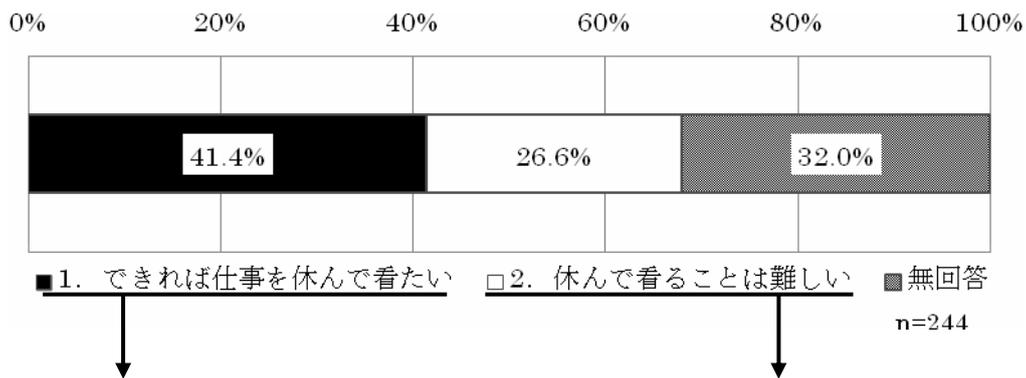
図表 54 理由



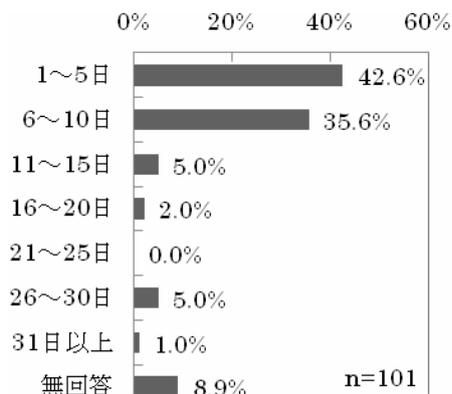
問17 ② 問17で「ウ.」から「ケ.」のいずれかを回答した方にうかがいます。
 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか？（1つに○）
 思われた場合は、できれば仕事を休んで看たいと思う延べ日数を、休んで看ることが難しい場合は、その理由（当てはまるもの全てに○）を合わせてお答えください。

- ・対処方法として、父親あるいは母親が休む以外の対処をした方の「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか」については、「できれば仕事を休んで看たい」が41.4%、「休んで看することは難しい」が26.6%となった（図表55）。
- ・「できれば仕事を休んで看たい」と回答した方の希望延べ日数は「1～5日」（42.6%）が最も多く、次いで「6～10日」（35.6%）となった（図表56）。
- ・「休んで看することは難しい」方の理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」が40.0%、「休暇日数が足りないので休めない」が21.5%となった（図表57）。

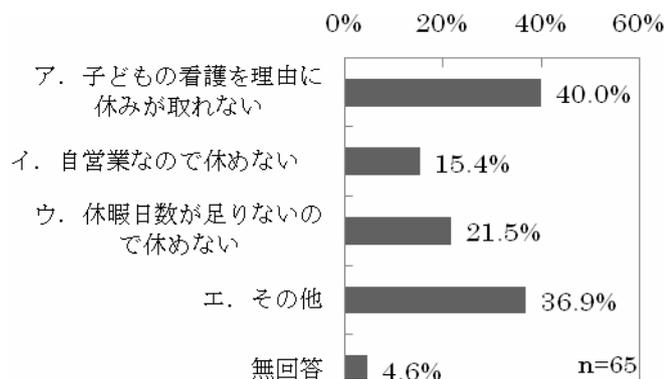
図表 55 できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか



図表 56 希望延べ日数



図表 57 理由

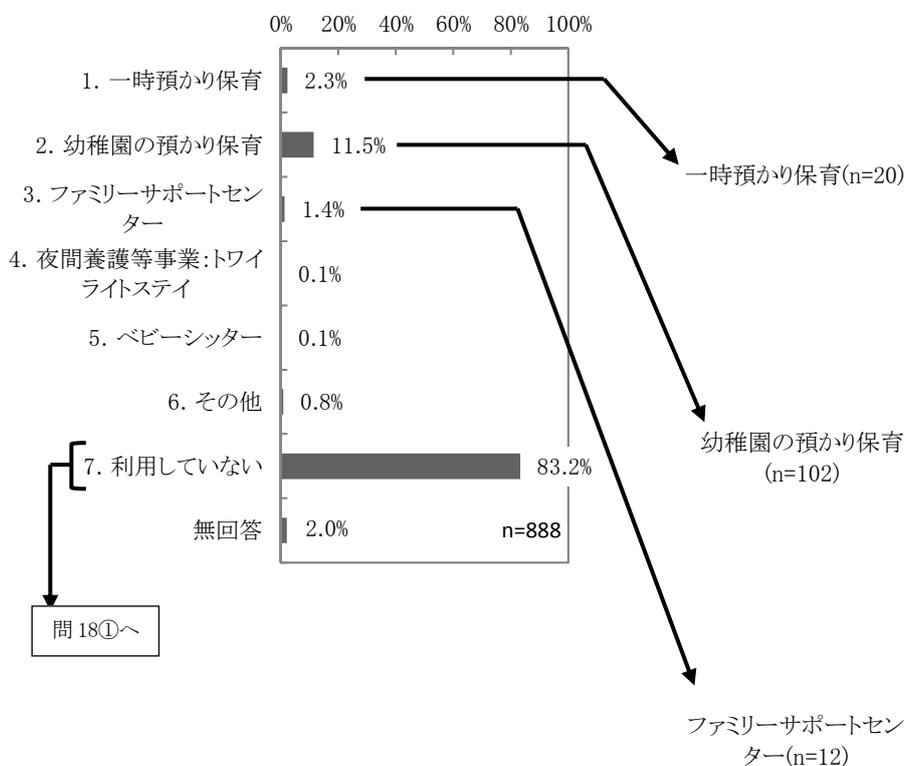


2. 8 お子さんの不定期な教育・保育事業や、宿泊を伴う一時預かり等の利用

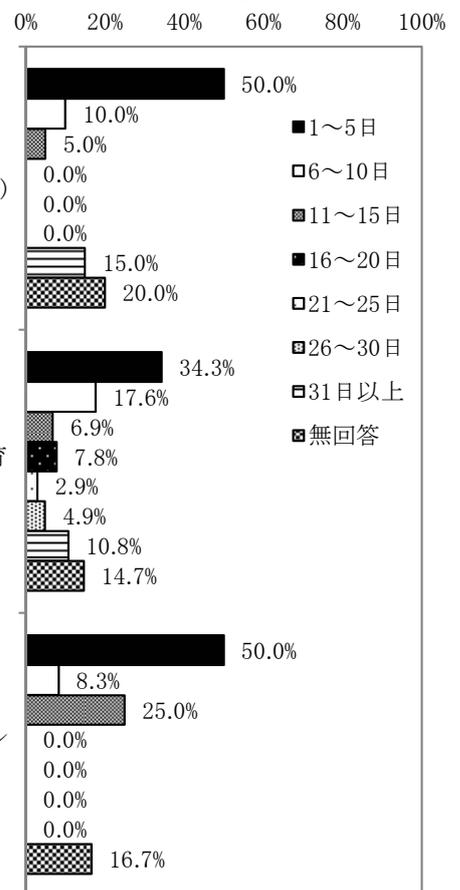
問 18 あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業ありますか？ある場合は、あてはまる番号すべてに○を付け、1年間の利用日数（おおよそ）もカッコ内に数字でご記入ください。

- ・不定期に利用している事業については、「利用していない」が 83.2%となり、「幼稚園の預かり保育」が 11.5%とやや多くなった（図表 58）。
- ・「一時預かり保育」「幼稚園の預かり保育」「ファミリーサポートセンター」と回答した方の実際に利用している日数は、いずれも「1～5日」が多くなった（図表 59）。

図表 58 不定期に利用している事業



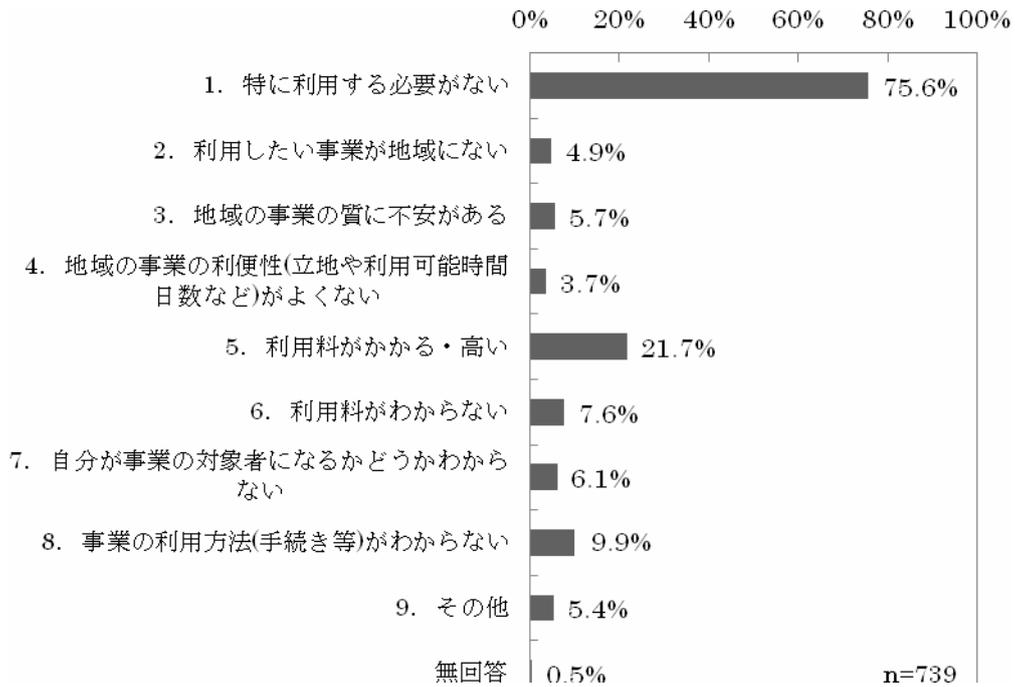
図表 59 利用日数



問18 ① 問18で「7.利用していない」に○を付けた方にかがいます。
 現在利用していない理由はなんですか？（当てはまるもの全てに○）

- ・「利用していない」方の理由は、「特に利用する必要がない」が75.6%と多くなり、「利用料がかかる・高い」が21.7%とやや多くなった（図表60）。

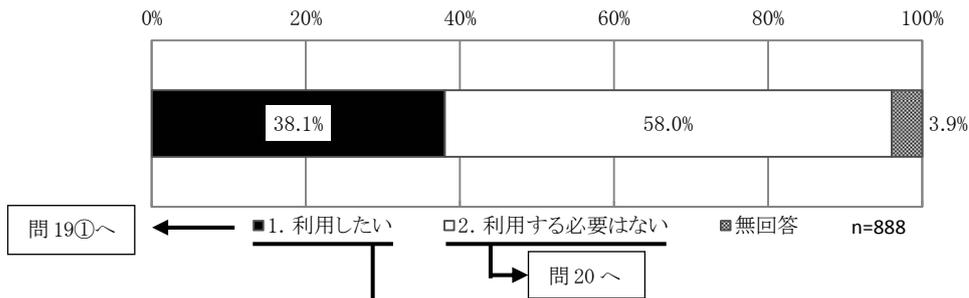
図表 60 利用していない理由



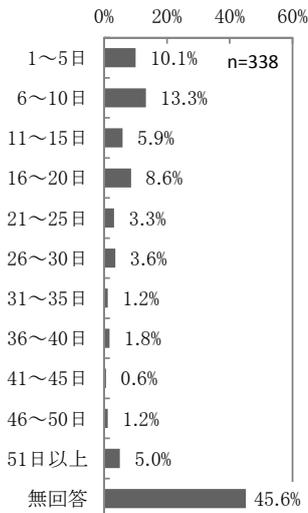
問 19 あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか？
 利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○を付け、必要な日数（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数）をご記入ください。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

- ・ 不定期な事業の利用希望は、「利用したい」が 38.1%、「利用する必要はない」が 58.0%となった（図表 61）。また、「利用したい」と回答した方の希望する利用日数は、「6～10 日」（13.3%）が最も多く、次いで「1～5 日」（10.1%）となった（図表 62）。
- ・ 「利用したい」方の理由は、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（67.8%）が最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（61.2%）となった（図表 63）。
- ・ 利用したい理由別の希望利用日数は、「私用・リフレッシュ目的」「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」「不定期な就労」では、「1～5 日」が最も多かった（図表 64）。

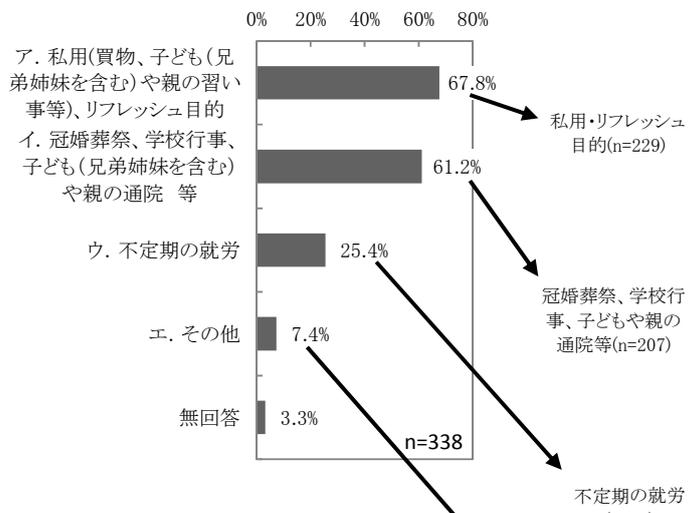
図表 61 不定期な事業の利用希望



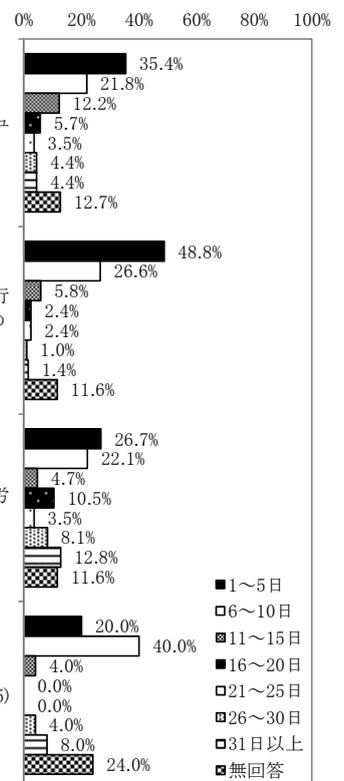
図表 62 利用希望日数



図表 63 利用したい理由



図表 64 希望利用日数

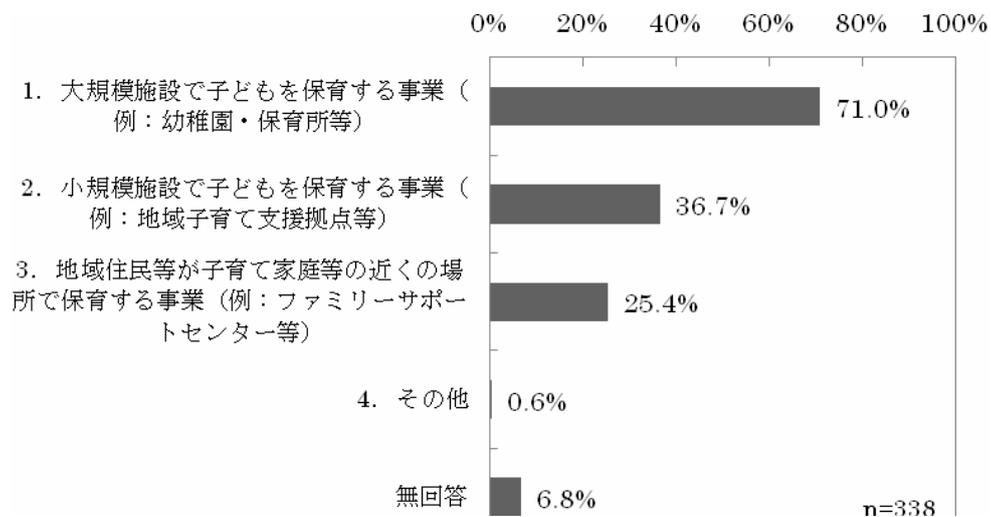


問 19 ① 問 19 で「1. 利用したい」に○を付けた方にうかがいます。

問 19 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか？（当てはまるもの全てに○）

- ・「利用したい」方が望む事業形態は、「大規模施設で子どもを保育する事業（例：幼稚園・保育所等）」（71.0%）が最も多く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業（例：地域子育て支援拠点等）」（36.7%）となった（図表 65）。

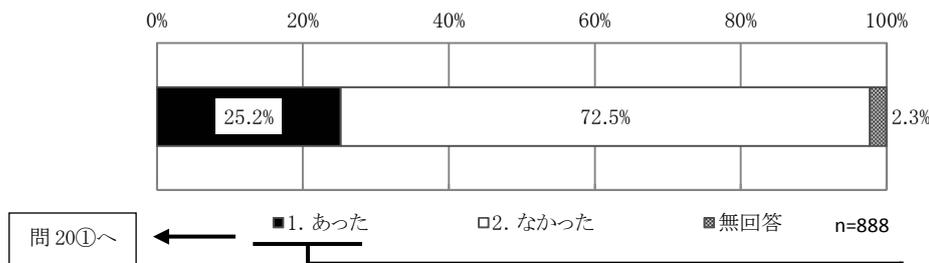
図表 65 望ましい事業形態



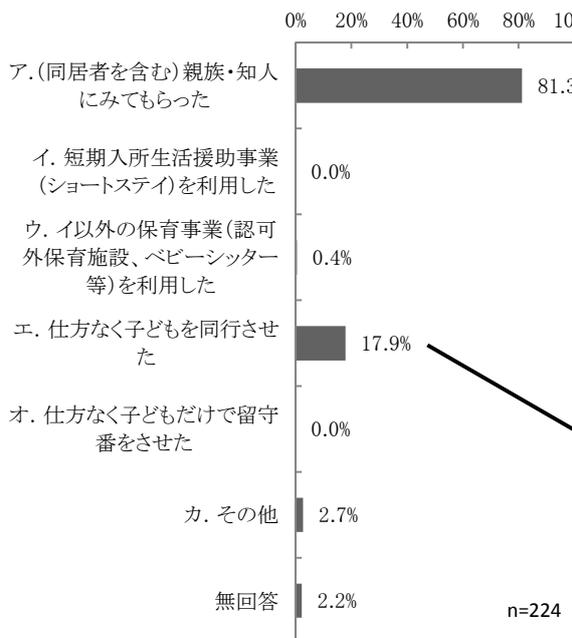
問 20 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか？（預け先が見つからなかった場合も含まれます）あった場合は、この1年間の対処方法として当てはまる番号すべてに○を付け、それぞれの日数もカッコ内に数字でご記入ください。

- ・保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）でお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことについては、「あった」が25.2%、「なかった」が72.5%となった（図表66）。
- ・家族以外にみてもらわなければならないことが「あった」方の対処方法は、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が81.3%と多くなり、「仕方なく子どもを同行させた」が17.9%とやや多くなった（図表67）。また、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」「仕方なく子どもを同行させた」と回答した方の日数はいずれも「1～5泊」が多かった（図表68）。

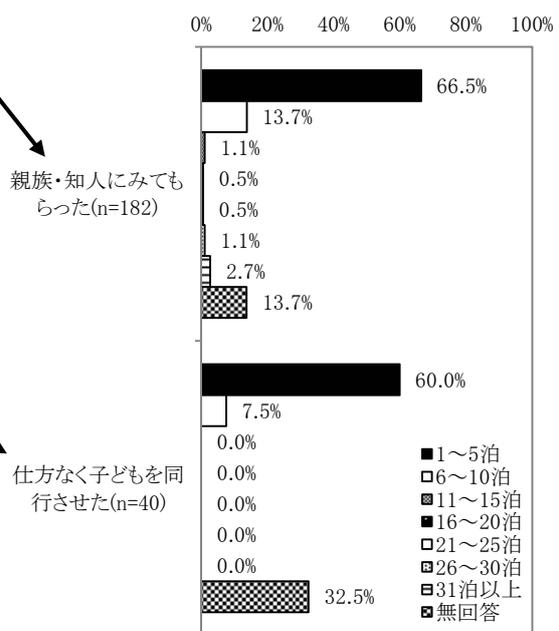
図表 66 泊りがけで家族以外にみてもらったこと



図表 67 対処方法



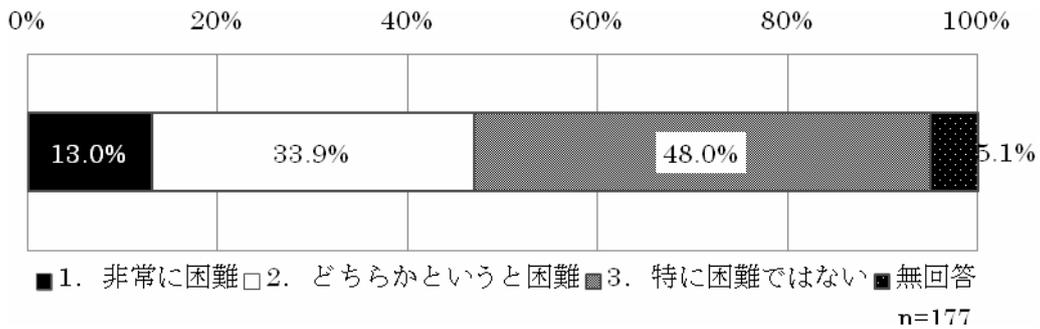
図表 68 対処日数



問 20 ① 問 20 で「1. あった ア. (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」に○を付けた方がうかがいます。(ア以外を選択した方は問 21 へ)
 その場合の困難度はどの程度でしたか? (1 つに○)

・「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」場合の困難度は、「非常に困難」が 13.0%、「どちらかというと困難」が 33.9%、「特に困難ではない」が 48.0%となった (図表 69)。

図表 69 「親族・知人にみてもらった」場合の困難度

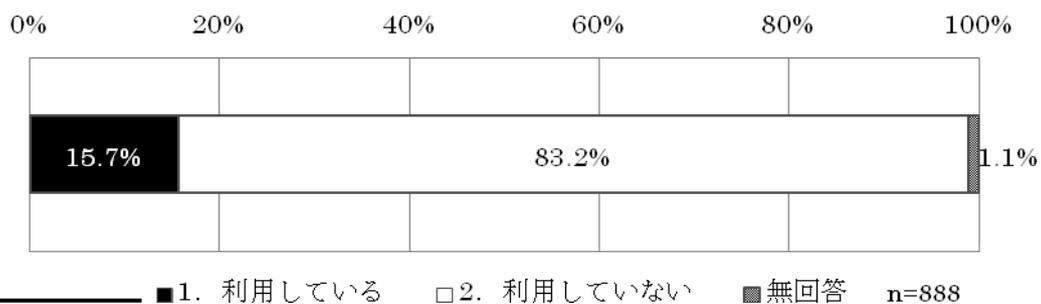


2. 9 お子さんの地域子育て支援事業の利用状況

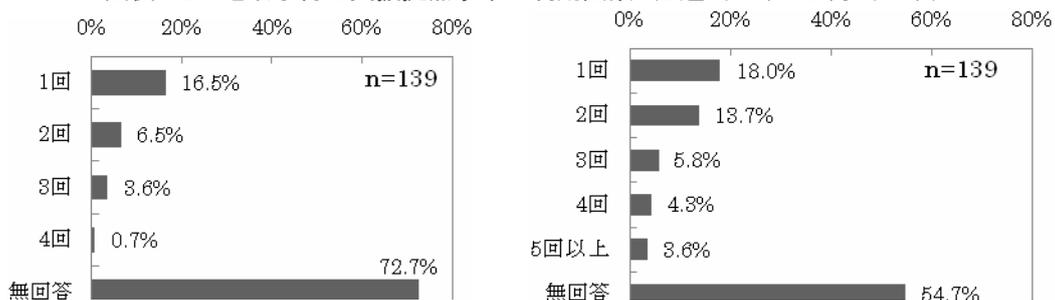
問 21 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で「子育て支援センター」「わくわく広場」等と呼ばれています。）を利用していますか？（1つに○）（これらの事業の内容により利用者負担が生じるものもあります。）利用している場合は、おおよその利用回数をお答えください。

- ・地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用している」が15.7%、「利用していない」が83.2%となった（図表70）。
- ・地域子育て支援拠点事業および類似事業の利用回数は1週当たり・1月当たりとも「1回」が最も多い（図表71、図表72）。

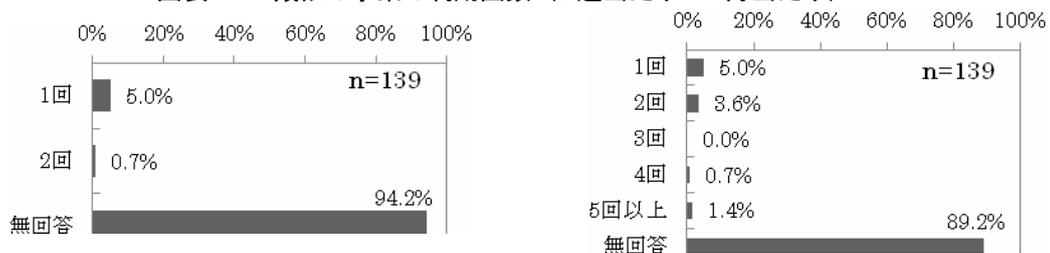
図表 70 地域子育て支援拠点事業の利用状況



図表 71 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1週当たり・1月当たり）



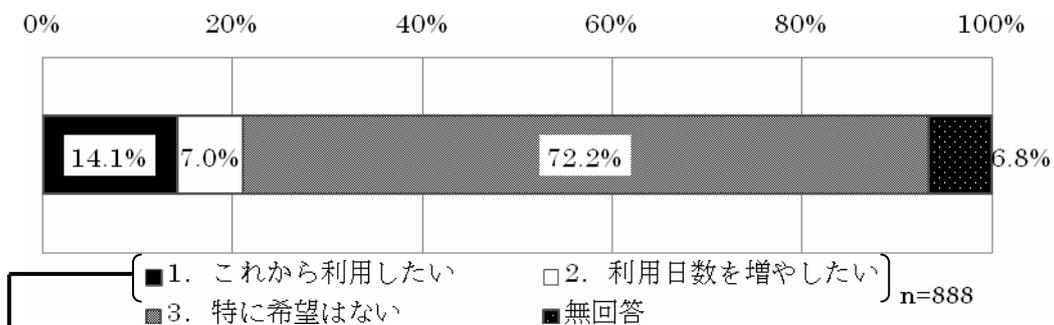
図表 72 類似の事業の利用回数（1週当たり・1月当たり）



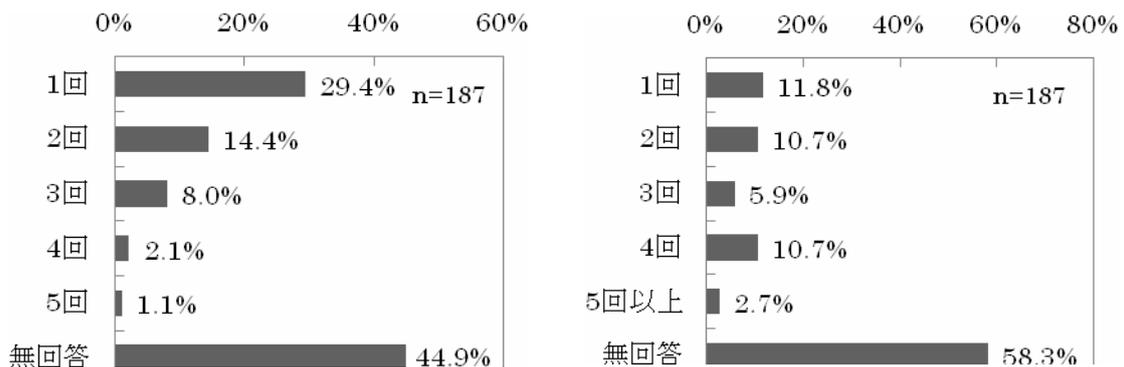
問 22 問 21 のような、地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいという希望はありますか？（1つに○）（これらの事業の内容により利用者負担が生じるものもあります。）
希望がある場合は、おおよその利用回数をお答えください。

- ・地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望は、「これから利用したい」が 14.1%、「利用日数を増やしたい」が 7.0%、「特に希望はない」が 72.2%となった（図表 73）。
- ・「これから利用したい」「利用日数を増やしたい」と回答した方の利用希望回数は、1 週あたりでは「1 回」（29.4%）が多く、1 月あたりでは「1 回」・「2 回」・「4 回」がそれぞれ 1 割以上となった（図表 74）。

図表 73 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望



図表 74 利用希望回数（1 週あたり・1 月あたり）

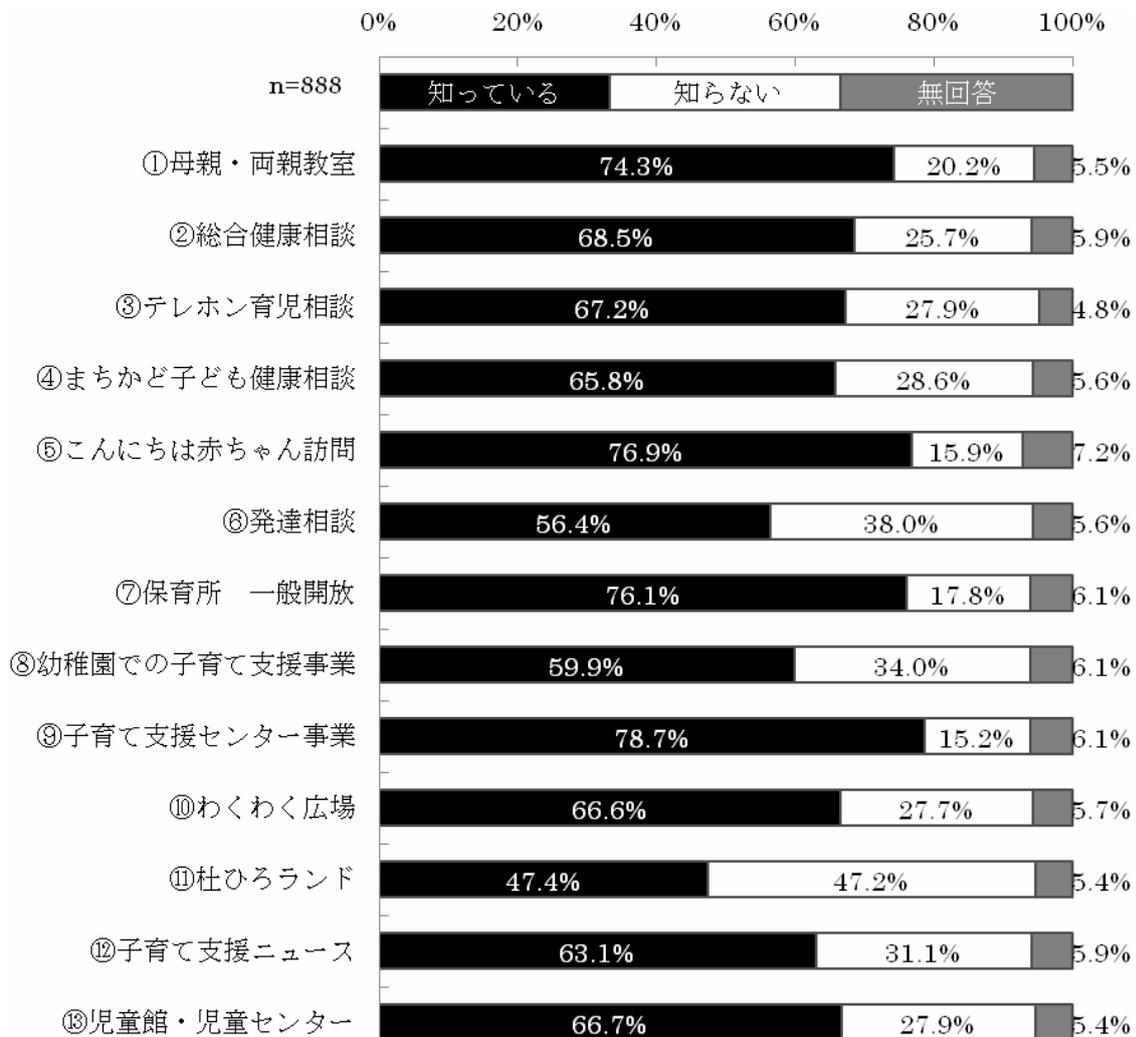


問 23 下記①～⑬の事業について、知っているものやこれまで利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものは何ですか？

①認知度

・「知っている」は、「母親・両親教室」(74.3%)、「こんにちは赤ちゃん訪問」(76.9%)、「保育所一般開放」(76.1%)、「子育て支援センター事業」(78.7%)が多い。一方で、「知らない」は「杜ひろランド」(47.2%)が多い(図表 75)。

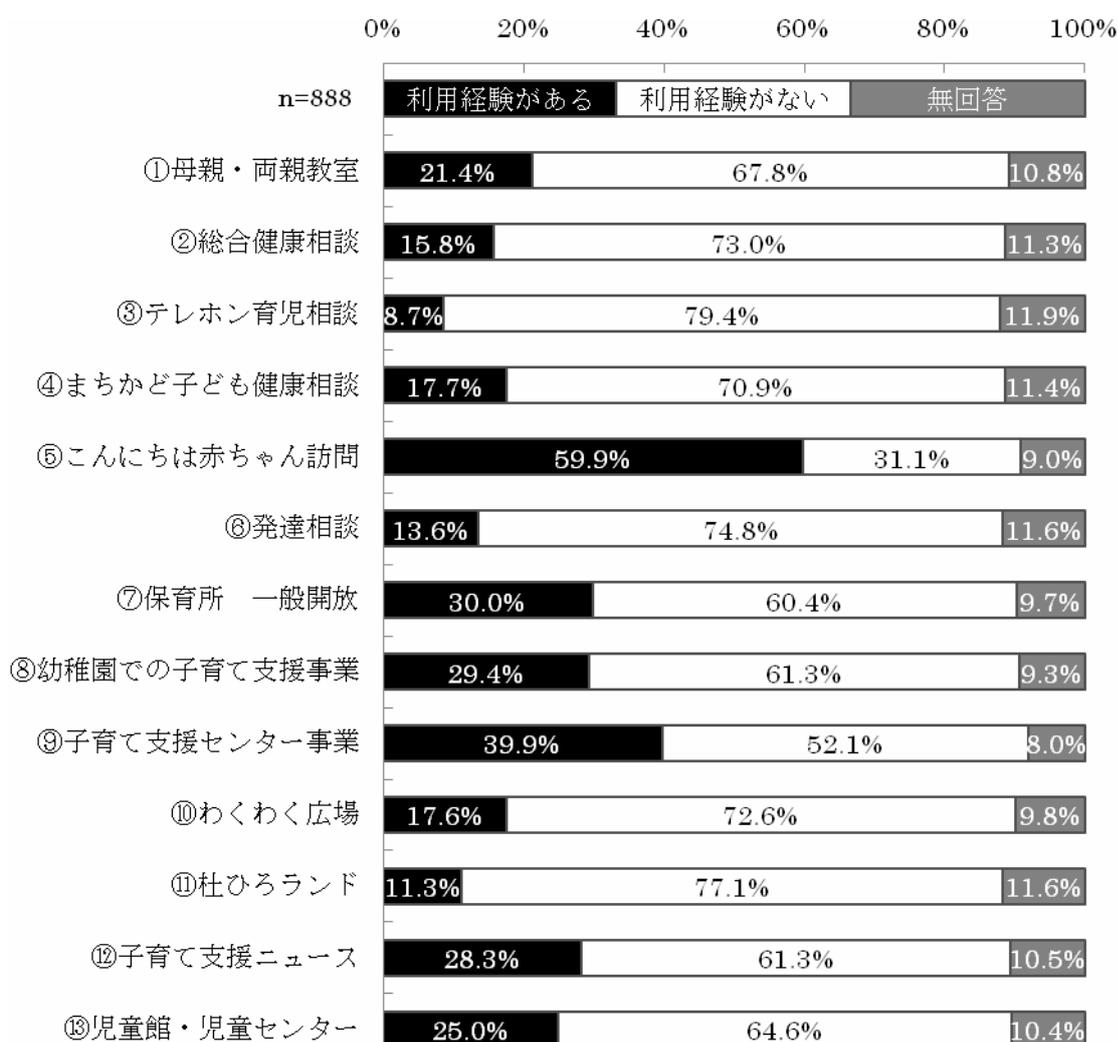
図表 75 認知度



②これまでの利用経験

- ・これまで「利用経験がある」は、「こんにちは赤ちゃん訪問」(59.9%)、「子育て支援センター事業」(39.9%)で多い。一方で「利用経験がない」は、「テレホン育児相談」(79.4%)、「杜ひろランド」(77.1%)で特に多い(図表 76)。

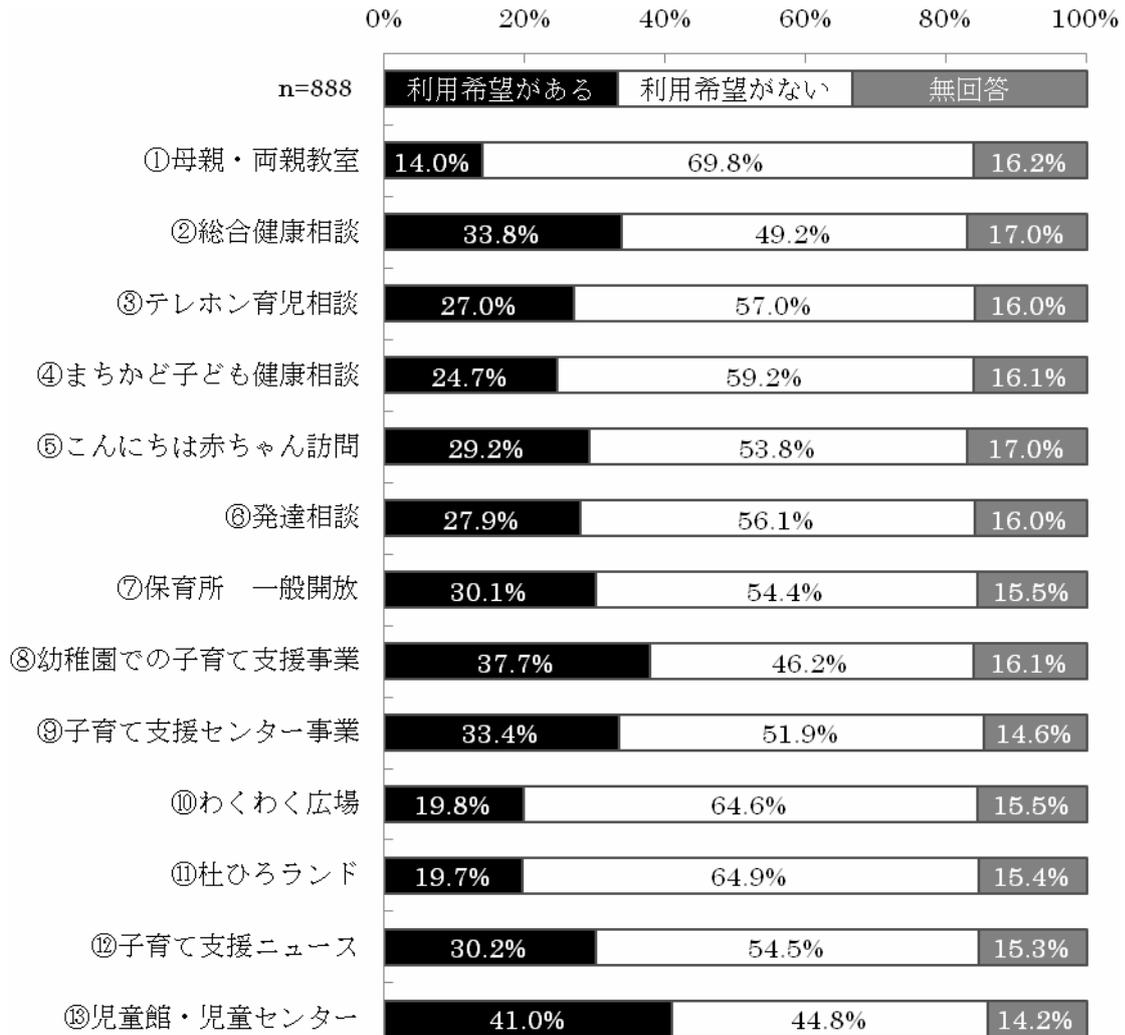
図表 76 利用経験



③今後の利用希望

・今後の「利用希望がある」は、「児童館・児童センター」(41.0%) が特に多い。一方で「利用希望がない」は、「母親・両親教室」(69.8%) で特に多い(図表 77)。

図表 77 利用希望



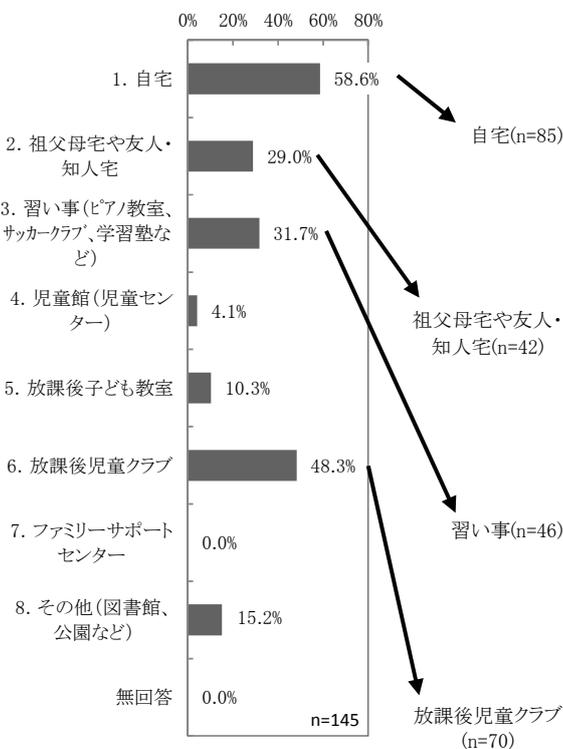
2. 10 お子さんの小学校就学後の放課後の過ごし方

問 24 あて名のお子さんが小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか？ 場所と日数について、それぞれご記入ください。

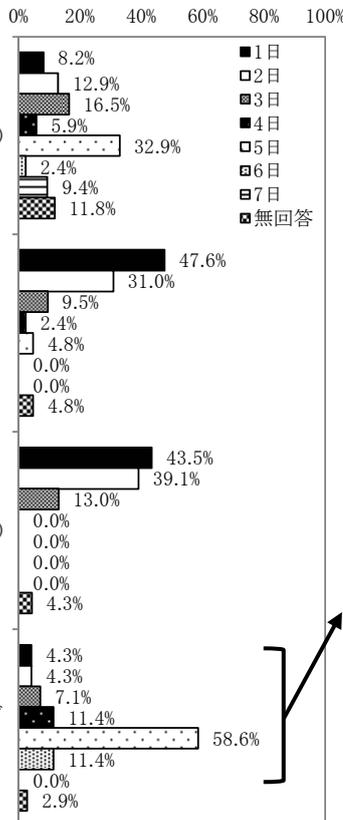
また、「放課後児童クラブ」の場合は、利用（希望）時間もカッコ内にご記入ください。時間は、必ず（例）16時30分のように24時間制でご記入ください。

- ・小学校低学年のうち放課後過ごさせたい場所は、「自宅」（58.6%）が最も多く、次いで「放課後児童クラブ」（48.3%）となった（図表 78）。
- ・「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「放課後児童クラブ」と回答した方の1週当たりの利用希望日数は、「自宅」では「5日」（32.9%）、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」（47.6%）、「習い事」では「1日」（43.5%）、「放課後児童クラブ」では「5日」（58.6%）が最も多かった（図表 79）。
- ・また、「放課後児童クラブ」と回答した方の利用希望時間は、下校時から「18時00分～18時29分」（31.4%）が最も多く、次いで「17時00分～17時29分」（28.6%）となった（図表 80）。

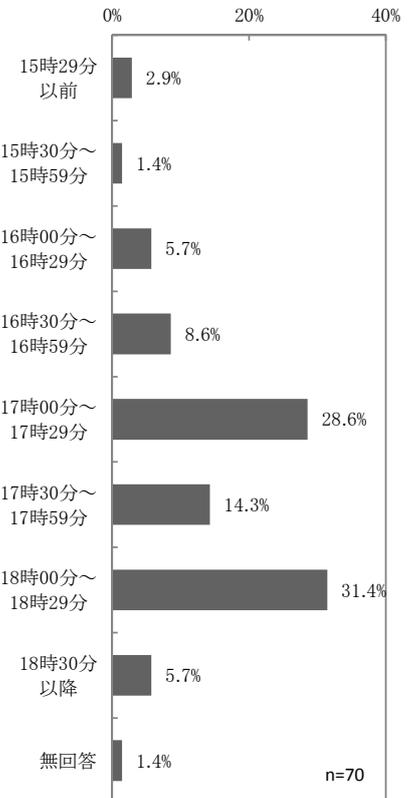
図表 78 放課後を過ごさせたい場所



図表 79 利用希望日数



図表 80 放課後児童クラブの利用希望時間（何時まで）

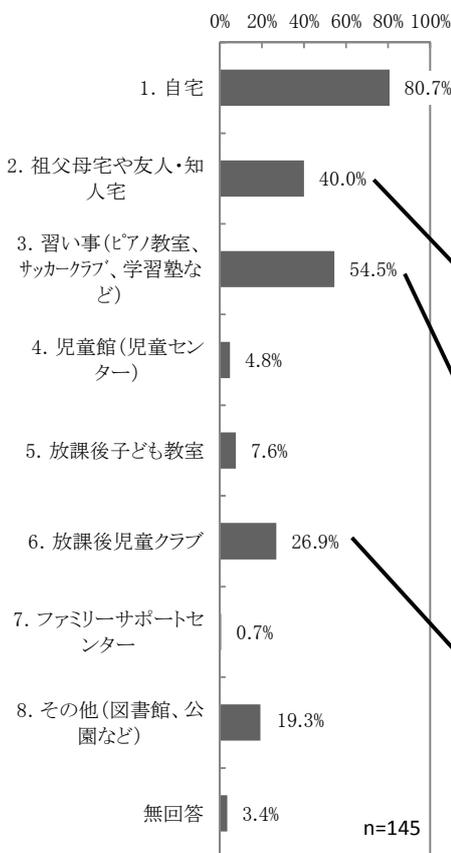


問 25 あて名のお子さんが 小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか？ 場所と日数について、それぞれご記入ください。

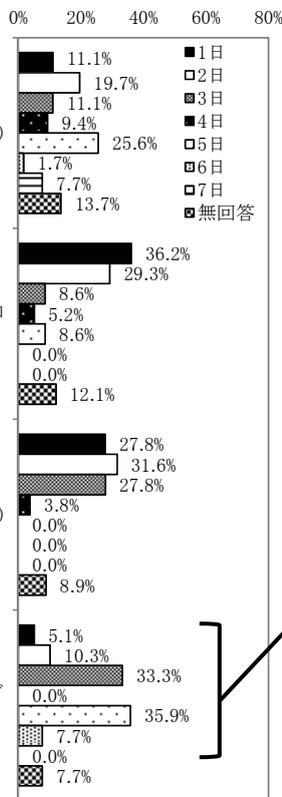
また、「放課後児童クラブ」の場合は、利用（希望）時間もカッコ内にご記入ください。時間は、必ず（例）16時30分のように24時間制でご記入ください。

- ・小学校高学年になったら放課後過ごさせたい場所は、「自宅」(80.7%) が最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(54.5%) となった（図表 81）。
- ・「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「放課後児童クラブ」と回答した方の1週間当たりの利用希望日数は、「自宅」では「5日」(25.6%)、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」(36.2%)、「習い事」では「2日」(31.6%)、「放課後児童クラブ」では「5日」(35.9%) が最も多かった（図表 82）。
- ・また、「放課後児童クラブ」と回答した方の利用希望時間は、下校時から「17時00分～17時29分」(28.2%) が最も多く、次いで「16時00分～16時29分」(17.9%)、「18時00分～18時29分」(17.9%) となった（図表 83）。

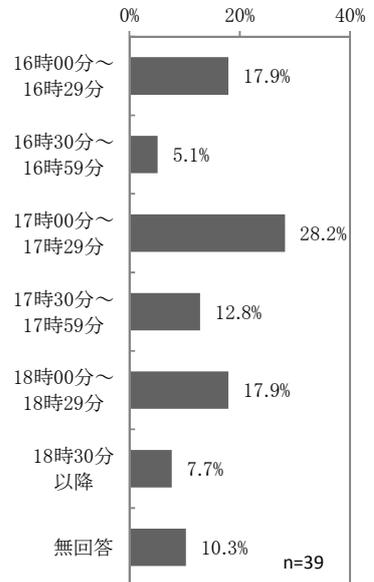
図表 81 放課後を過ごさせたい場所



図表 82 利用希望日数



図表 83 放課後児童クラブの利用希望時間（何時まで）

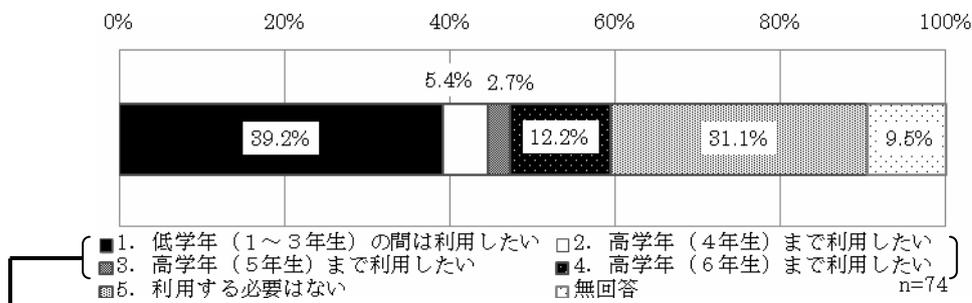


問 26 問 24 または問 25 で「6. 放課後児童クラブ」に○を付けた方にうかがいます。
 あて名のお子さんについて、土曜日、日曜日・祝日、長期休業期間（春・夏・冬休み）中の
 放課後児童クラブの利用希望はありますか？（それぞれ1つに○）（事業の利用には、前記
 のとおり一定の利用料がかかります。）
 利用希望の有無と利用したい時間帯について、それぞれご記入ください。

①土曜日

- ・土曜日の放課後児童クラブの利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（39.2%）が最も多く、次いで「利用する必要はない」（31.1%）となった（図表 84）。
- ・利用したい時間帯は、1～3年生では開始時間「9時～9時29分」（11名）、終了時間「17時～17時29分」（11名）が最も多い（図表 85）。

図表 84 土曜日の放課後児童クラブの利用希望



図表 85 利用したい時間帯（開始時間と終了時間）※表内は実数

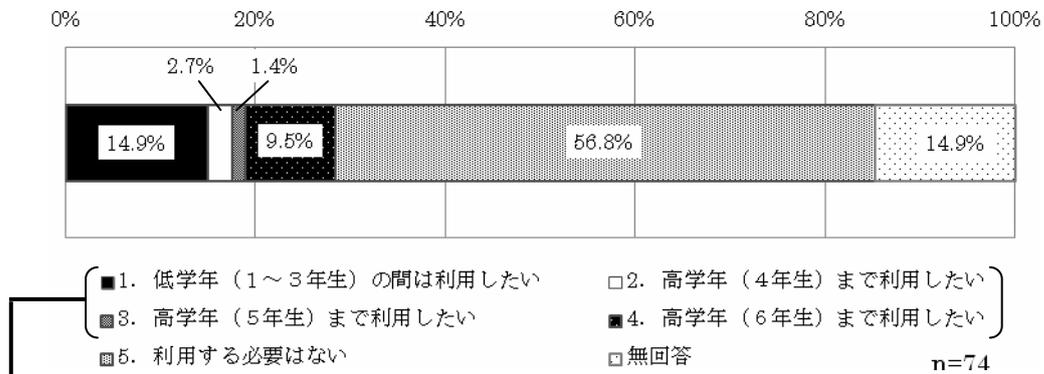
	1～3年生	4年生	5年生	6年生
8時前	1	0	0	1
8時～8時29分	9	3	1	1
8時30分～8時59分	5	1	0	1
9時～9時29分	11	0	1	4
9時30分～9時59分	0	0	0	0
10時以降	1	0	0	1
無回答	2	0	0	1
総計	29	4	2	9

	1～3年生	4年生	5年生	6年生
15時前	3	2	0	1
15時～15時29分	3	0	0	1
15時30分～15時59分	0	0	0	0
16時～16時29分	3	0	0	1
16時30分～16時59分	3	0	0	0
17時～17時29分	11	0	0	1
17時30分～17時59分	0	1	2	0
18時以降	4	1	0	4
無回答	2	0	0	1
総計	29	4	2	9

②日曜日・祝日

- ・日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望は、「利用する必要はない」(56.8%)が最も多く、ついで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が14.9%となった(図表86)。
- ・利用したい時間帯は、1～3年生では開始時間「8時～8時29分」(5名)、「9時～9時29分」(5名)、終了時間「17時～17時29分」(6名)が最も多い(図表87)。

図表 86 日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望



図表 87 利用したい時間帯(開始時間と終了時間) ※表内は実数

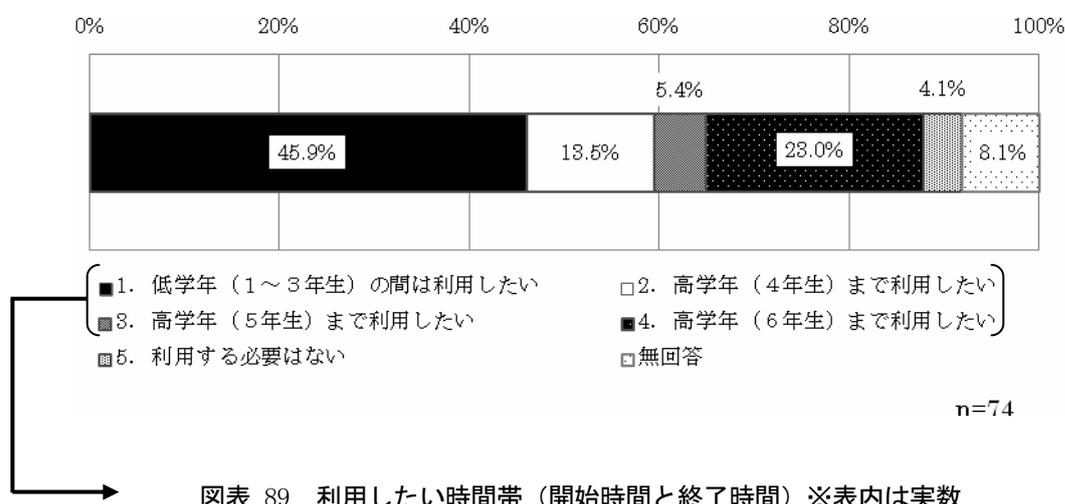
	1～3年生	4年生	5年生	6年生
8時前	0	0	0	1
8時～8時29分	5	1	0	0
8時30分～8時59分	1	0	0	1
9時～9時29分	5	0	1	3
9時30分～9時59分	0	0	0	0
10時以降	0	0	0	1
無回答	0	1	0	1
総計	11	2	1	7

	1～3年生	4年生	5年生	6年生
15時前	1	0	0	0
15時～15時29分	0	0	0	0
15時30分～15時59分	0	0	0	0
16時～16時29分	2	0	0	1
16時30分～16時59分	1	0	0	0
17時～17時29分	6	0	0	2
17時30分～17時59分	0	0	1	0
18時以降	1	1	0	3
無回答	0	1	0	1
総計	11	2	1	7

③ 長期休業期間

- ・長期休業期間の放課後児童クラブの利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（45.9%）が最も多く、次いで「高学年（6年生）まで利用したい」（23.0%）となった（図表 88）。
- ・利用したい時間帯については、開始時間が1～3年生では「8時～8時29分」（13名）、4年生では「8時～8時29分」（8名）、6年生では「8時30分～8時59分」（7名）が最も多く、終了時間が1～3年生では「17時～17時29分」（14名）、4年生では「18時以降」（6名）、6年生では「18時以降」（5名）が最も多い（図表 89）。

図表 88 長期休業期間の放課後児童クラブの利用希望



図表 89 利用したい時間帯（開始時間と終了時間）※表内は実数

	1～3年生	4年生	5年生	6年生
8時前	1	0	0	1
8時～8時29分	13	8	2	3
8時30分～8時59分	6	0	0	7
9時～9時29分	12	2	2	4
9時30分～9時59分	0	0	0	0
10時以降	0	0	0	1
無回答	2	0	0	1
総計	34	10	4	17

	1～3年生	4年生	5年生	6年生
15時前	0	0	0	1
15時～15時29分	0	0	0	0
15時30分～15時59分	0	0	0	1
16時～16時29分	6	1	0	2
16時30分～16時59分	3	0	0	2
17時～17時29分	14	1	2	3
17時30分～17時59分	0	2	2	2
18時以降	9	6	0	5
無回答	2	0	0	1
総計	34	10	4	17

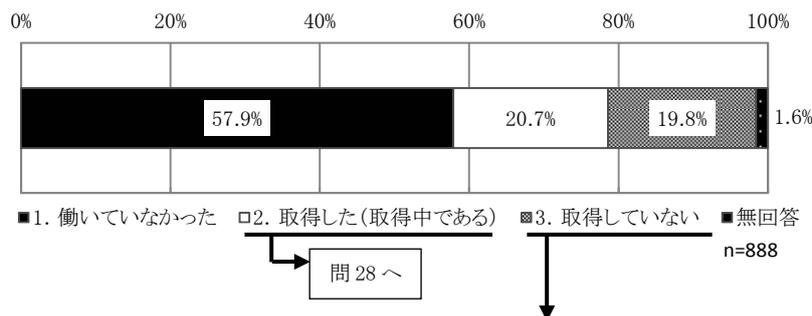
2. 11 育児休業や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度について

問 27 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか？（母親、父親それぞれについて、1つに○） また、取得していない方はその理由をご記入ください。

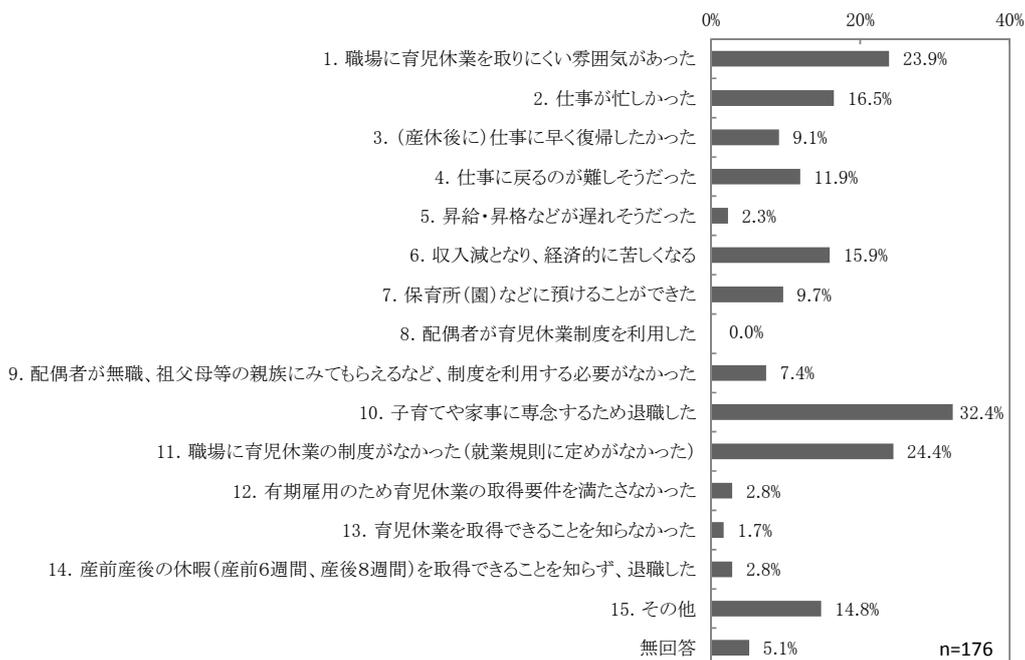
①母親

- ・育児休業の取得状況は、「働いていなかった」（57.9%）が最も多く、次いで「取得した（取得中である）」（20.7%）となった（図表 90）。
- ・「取得していない」方の取得していない理由は、「子育てや家事に専念するために退職した」（32.4%）が最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」（24.4%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（23.9%）となった（図表 91）。

図表 90 育児休業の取得状況（母親）



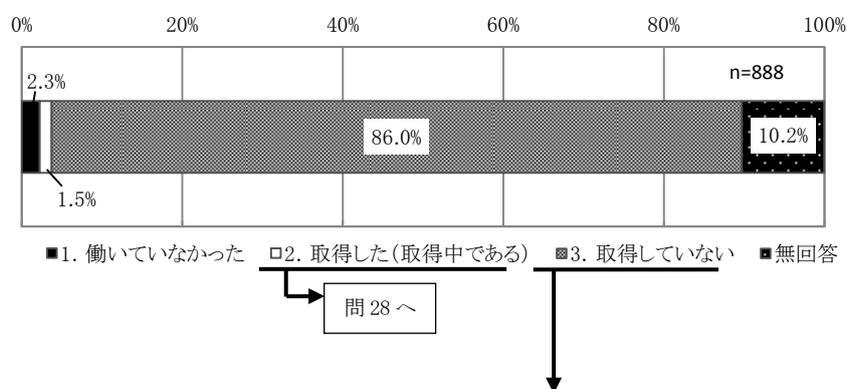
図表 91 育児休業を取得していない理由（母親）



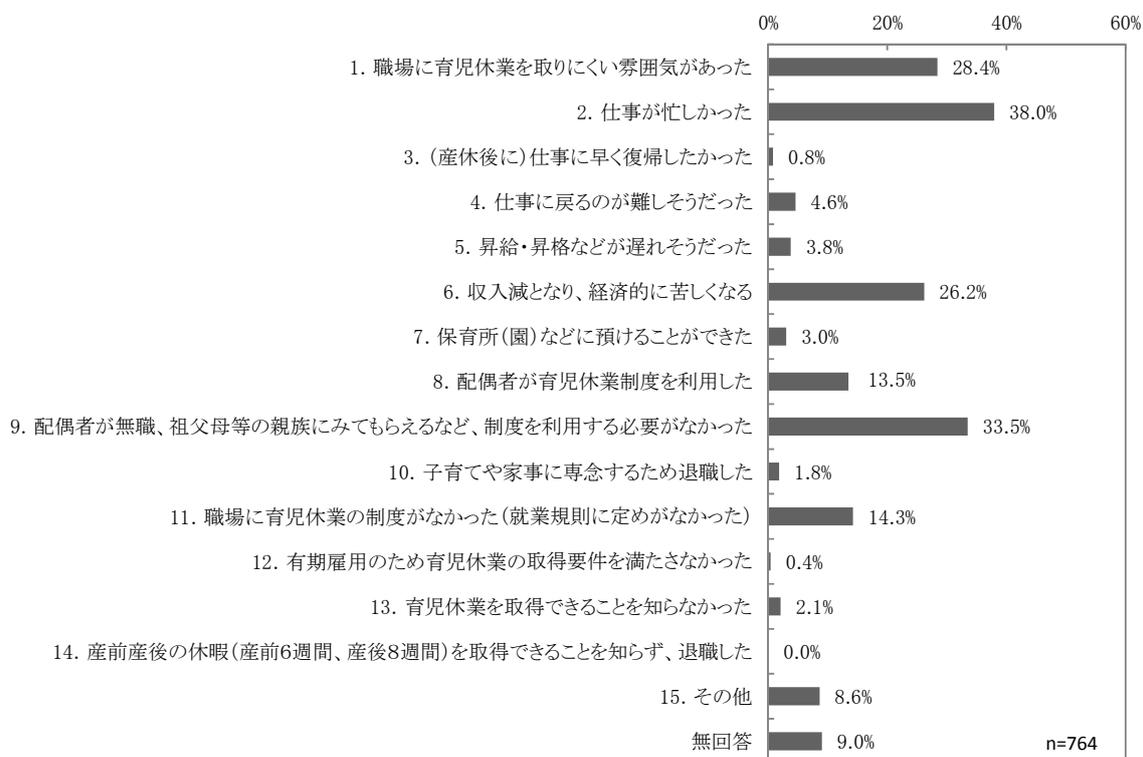
②父親

- ・育児休業の取得状況は、「取得していない」が86.0%と圧倒的に多かった（図表92）。
- ・「取得していない」方の取得していない理由は、「仕事が忙しかった」（38.0%）が最も多く、次いで「配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（33.5%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（28.4%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（26.2%）となった（図表93）。

図表 92 育児休業の取得状況（父親）



図表 93 育児休業を取得していない理由（父親）

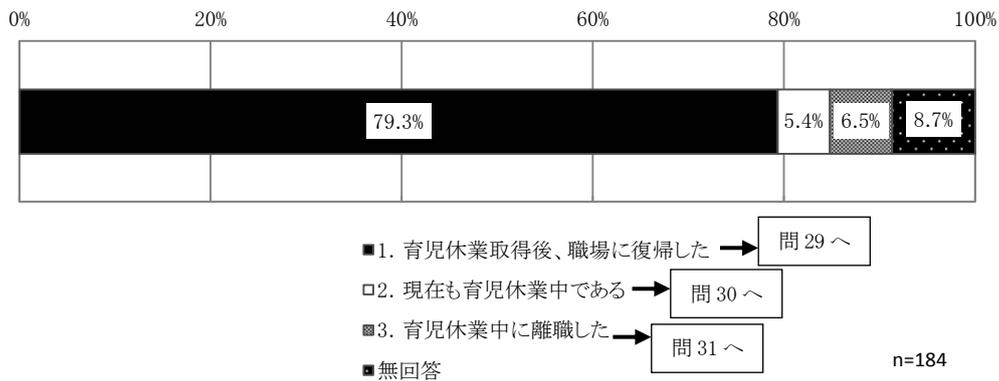


問 28 問 27 で「2. 取得した（取得中である）」と答えた方にうかがいます。（該当しない方は問 31 へ）育児休業取得後、職場に復帰しましたか？（1つに〇）

①母親

- ・育児休業を「取得した（取得中である）」方の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 79.3%と圧倒的に多い（図表 94）。

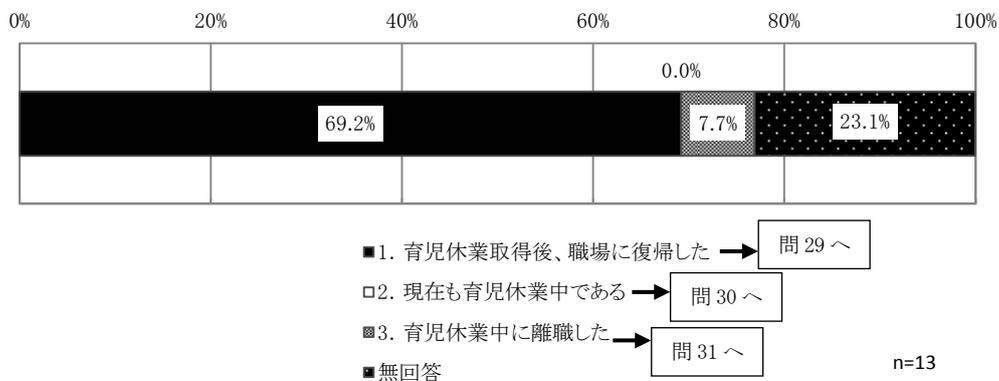
図表 94 育児休業取得後の職場復帰について（母親）



②父親

- ・育児休業を「取得した（取得中である）」方の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 69.2%となった（図表 95）。

図表 95 育児休業取得後の職場復帰について（父親）



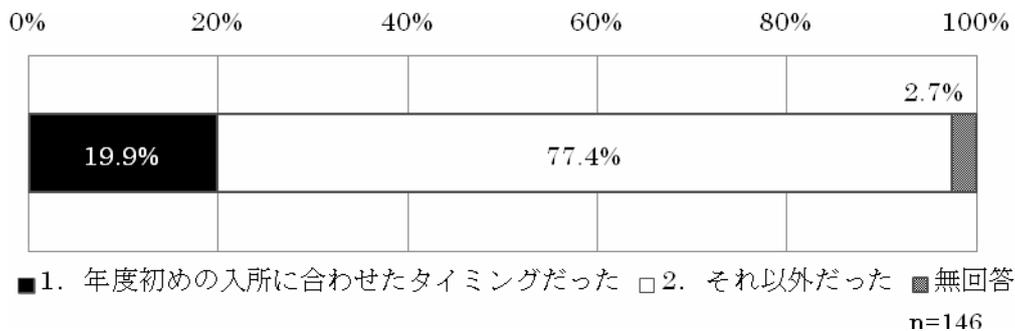
問 29 問 29①～問 29⑥までは、問 28 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」に○を付けた方
にうかがいます。

問 29 ① 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでした
か、あるいはそれ以外でしたか？（1つに○）
年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育施設に
入所した場合なども「1.」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰した
が、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1.」を選択してください。

①母親

- ・「育児休業取得後、職場に復帰した」方の職場復帰のタイミングは、「年度初めの入所のタイミン
グだった」が 19.9%、「それ以外だった」が 77.4%となった（図表 96）。

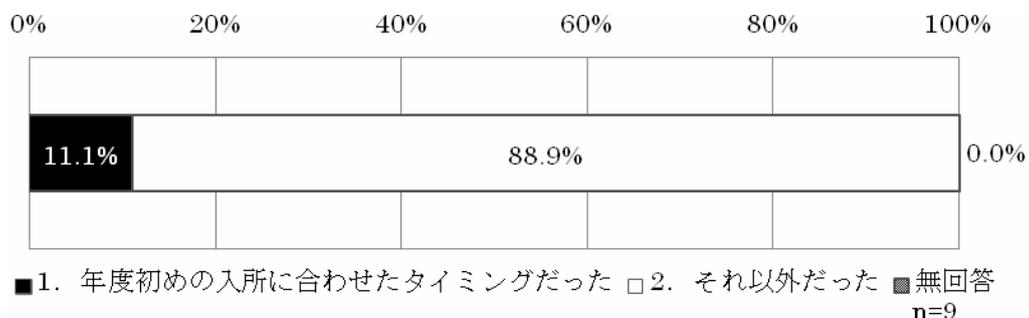
図表 96 育児休業取得後の職場復帰のタイミング（母親）



②父親

- ・「育児休業取得後、職場に復帰した」方の職場復帰のタイミングは、「年度初めの入所のタイミン
グだった」が 11.1%、「それ以外だった」が 88.9%となった（図表 97）。

図表 97 育児休業取得後の職場復帰のタイミング（父親）



問 29 ② 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか？ また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか？ カッコ内に数字でご記入ください。

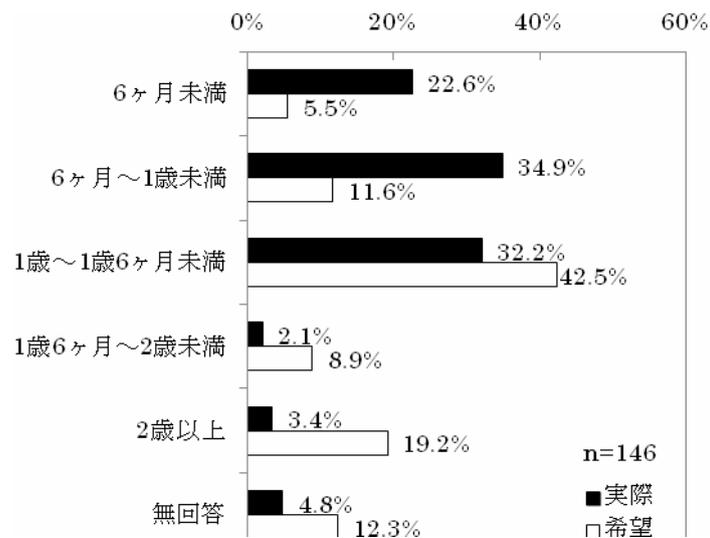
①母親

- ・職場復帰した時期は、子どもが「6ヶ月～1歳未満」(34.9%)が最も多く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」(32.2%)となった。希望する育児休業は、「1歳～1歳6ヶ月」(42.5%)が最も多く、次いで「2歳以上」(19.2%)となった(図表98)。

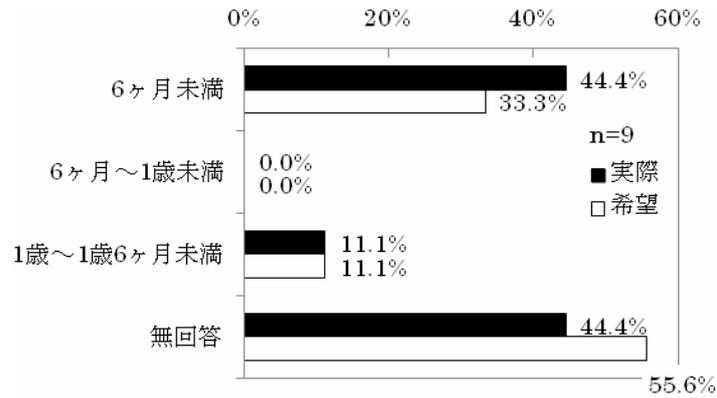
②父親

- ・職場復帰した時期は、子どもが「6ヶ月未満」が4名、希望する育児休業の取得期間は、子どもが「6ヶ月未満」が3名となった(図表99)。

図表 98 育児休業取得後の職場復帰時期（母親）



図表 99 育児休業取得後の職場復帰時期（父親）

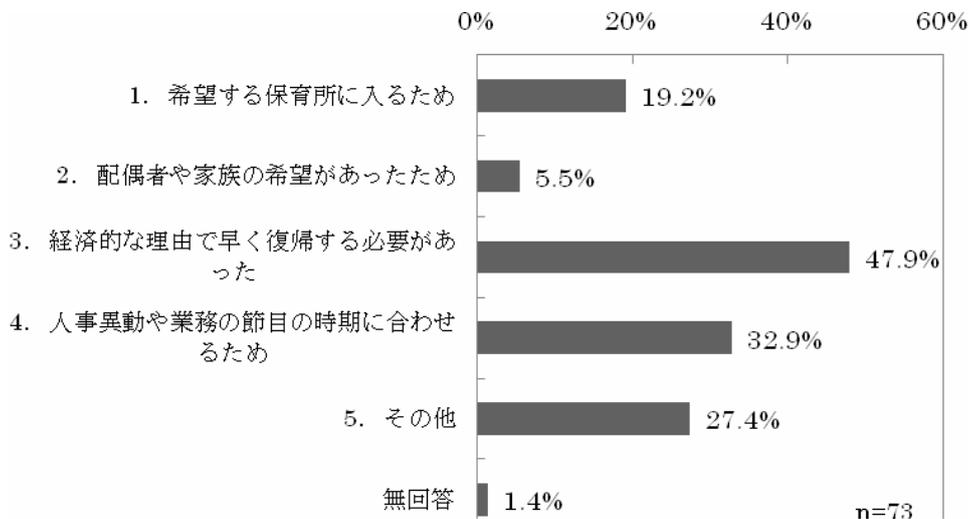


問 29 ③ 問 29 ②で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。
希望の時期に職場復帰しなかった理由について、当てはまる番号すべてに○を付けてください。

①-1 【希望より早く復帰した方】(母親)

- ・希望より早く復帰した理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(47.9%) が最も多く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(32.9%) となった(図表 100)。

図表 100 希望時期に職場復帰しなかった理由(希望より早く復帰した母親)



①-2 【希望より早く復帰した方】(父親)

- ・希望より早く復帰した理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が2名となった。

②-1 【希望より遅く復帰した方】(母親)

- ・希望より遅く復帰した理由は、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」が1名となった。

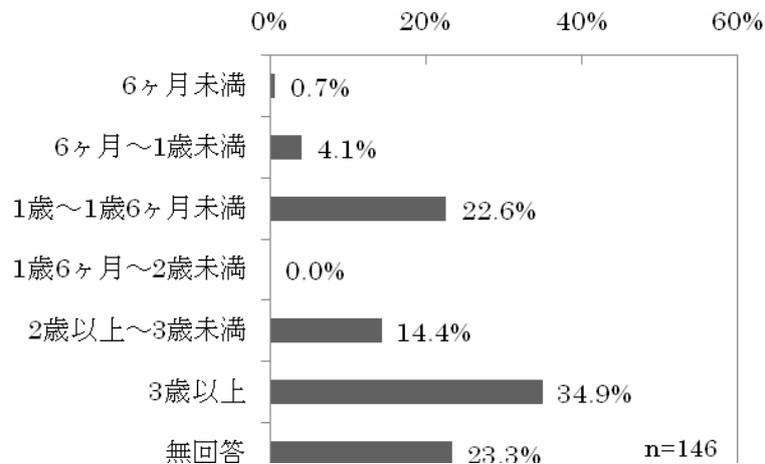
②-2 【希望より遅く復帰した方】(父親)

- ・希望より遅く復帰した理由は、「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が1名となった。

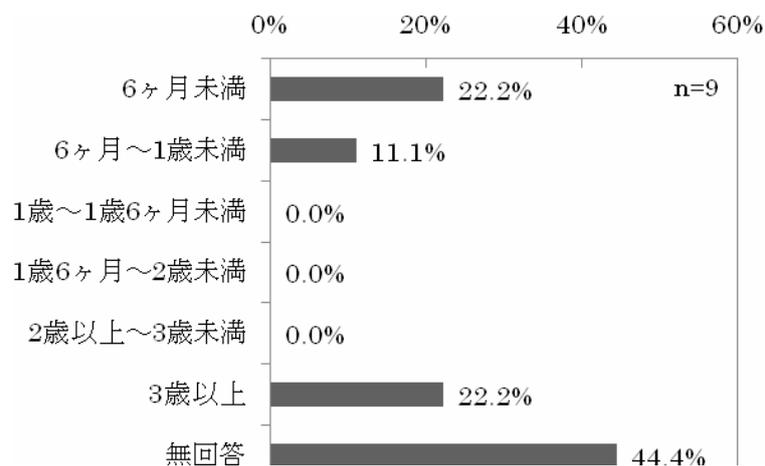
問 29 ④ お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか？ カッコ内に数字でご記入ください。

- ・母親では、「3歳以上」(34.9%)が最も多く、次いで「1歳～1歳6ヶ月」(22.6%)となった(図表101)。
- ・父親では、「6ヶ月未満」が22.2%、「3歳以上」が22.2%となった(図表102)。

図表 101 希望する育児休業期間（母親）



図表 102 希望する育児休業期間（父親）

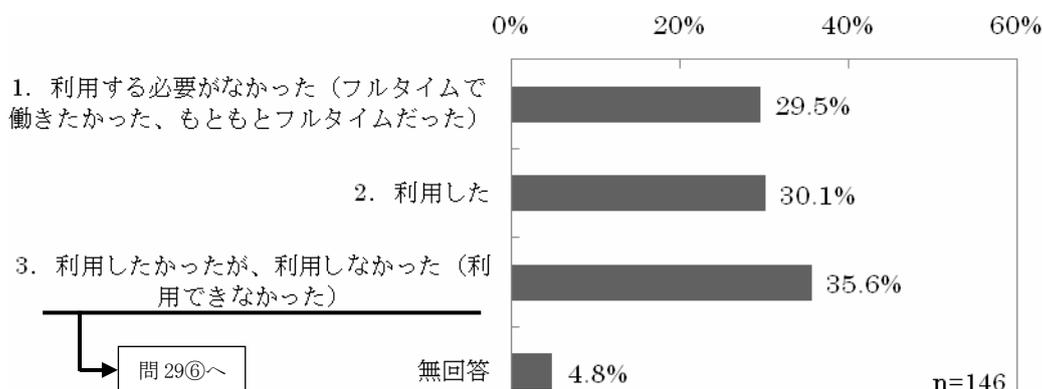


問 29 ⑤ 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか？（1つに〇）

①短時間勤務制度を利用しましたか(母親)

・短時間勤務制度の利用状況は「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」（35.6%）が最も多く、ついで「利用した」（30.1%）、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともとフルタイムだった）」（29.5%）となった（図表 103）。

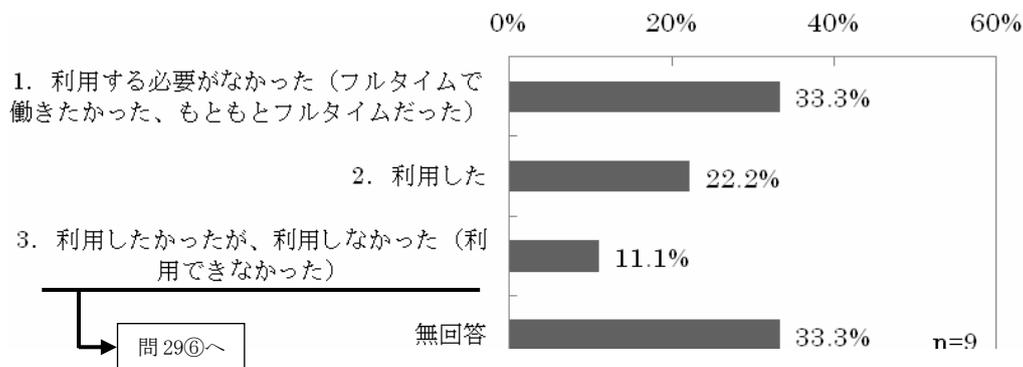
図表 103 短時間勤務制度の利用状況（母親）



②短時間勤務制度を利用しましたか(父親)

・短時間勤務制度の利用状況は「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともとフルタイムだった）」が3名、「利用した」が2名、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が1名となった（図表 104）。

図表 104 短時間勤務制度の利用状況（父親）

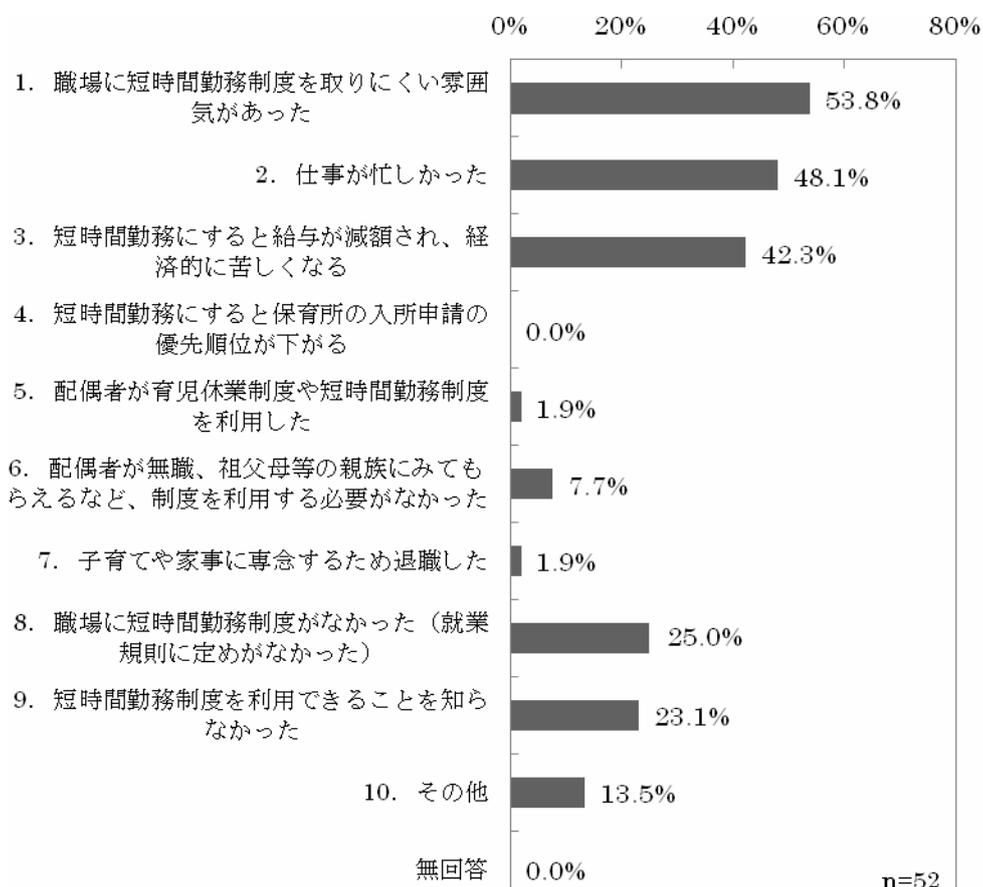


問 29 ⑥ 問 29 ⑤で「3. 利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した方にかかっています。短時間勤務制度を利用しなかった理由は何ですか？（当てはまるもの全てに○）

①短時間勤務制度を利用しなかった理由（母親）

- ・短時間勤務制度の利用状況は「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」方の理由は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」（53.8%）が最も多く、ついで「仕事が忙しかった」（48.1%）、「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」（42.3%）となった（図表 105）。

図表 105 短時間勤務制度を利用しなかった理由（母親）



②短時間勤務制度を利用しなかった理由（父親）

- ・短時間勤務制度の利用状況は「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」方の理由は、「配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した」が1名となった。

問 30 問 28 で「2. 現在も育児休業中である」と回答した方にうかがいます。
 あて名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか？ または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか？
 (1つに○)

①母親

- ・「現在も育児休業中である」方の子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合の1歳なるまでの育児休業の取得希望は、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が90.0%となった(図表106)。

図表 106 子どもが1歳になるまでの育児休業の取得希望(母親)



②父親

該当者なし

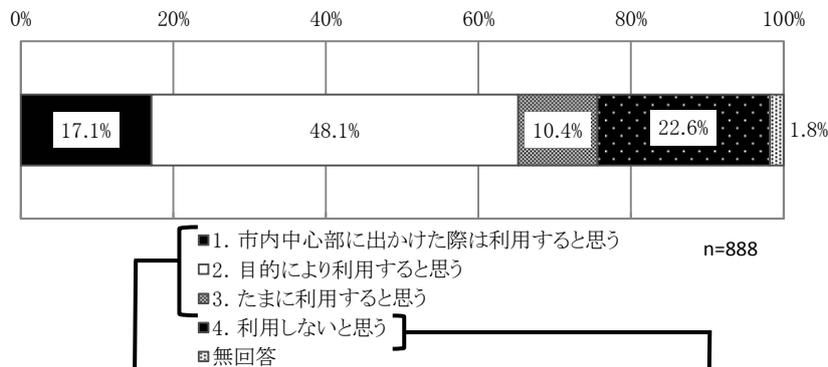
2. 12 市内中心部の活性化と「子育てまちなか拠点スペース」について

問 31 市内中心部に子育て中の親子が買い物や用事で外出した際に活用できる「子育てまちなかスペース」が整備された場合、利用しますか？（利用意向は1つに○、理由は当てはまるもの全てに○）

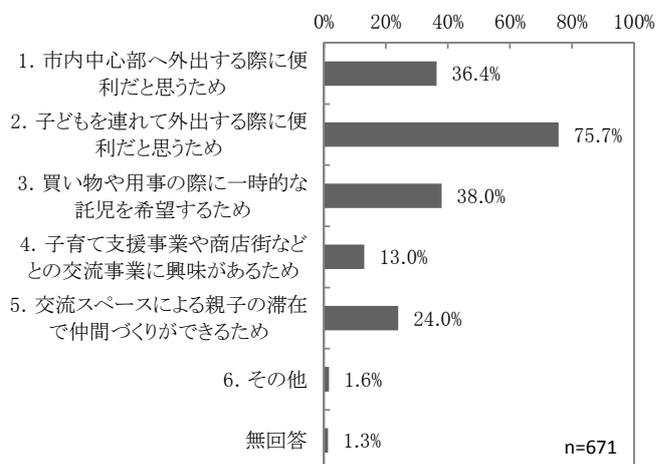
（子どもの一時預かりなどは託児料金を伴う場合があります）

- ・「子育てまちなか拠点スペース」が整備された場合の利用意向は、「目的により利用すると思う」（48.1%）が最も多く、次いで「利用しないと思う」（22.6%）となった（図表 107）。
- ・利用する理由は「子どもを連れて外出する際に便利だと思うため」（75.7%）が最も多く、次いで「買い物や用事の際に一時的な託児を希望するため」（38.0%）、「市内中心部へ外出する際に便利だと思うため」（36.4%）となった（図表 108）。
- ・利用しない理由は、「あまり興味を引かれないため」（40.8%）が最も多く、次いで「市内中心部には、あまり出かけないため」（31.3%）となった（図表 109）。

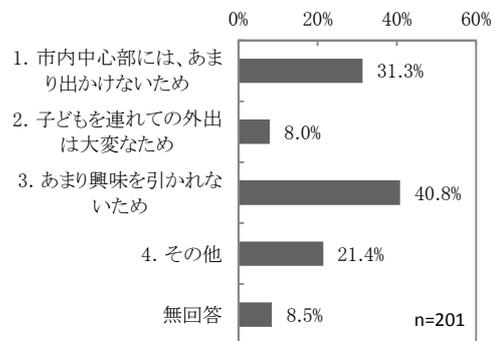
図表 107 子育てまちなか拠点スペースの利用意向



図表 108 利用理由



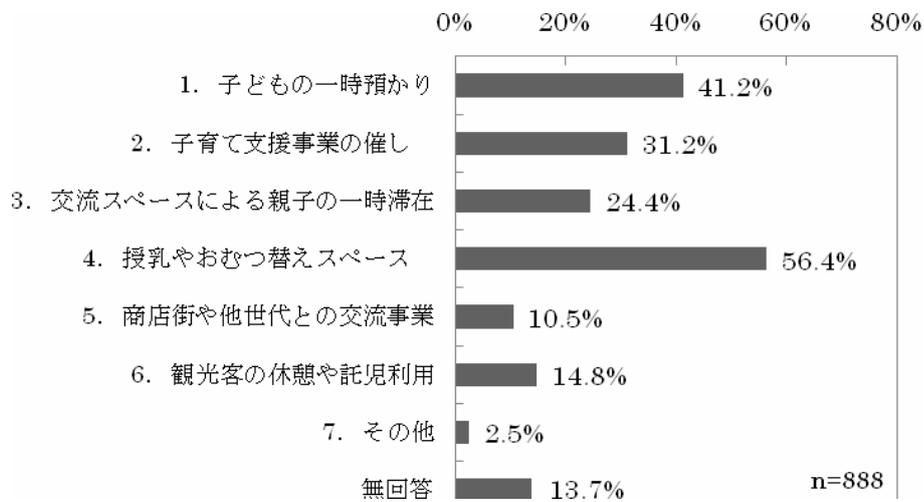
図表 109 利用しない理由



問 32 全国の自治体の事例で、「子育てまちなか拠点スペース」では、子どもの一時預かり、子育て支援事業の催し、交流スペースによる親子の一時滞在、授乳やおむつ替えスペースの設置、商店街や他世代との交流事業の開催、観光客の休憩や託児業務などを整備している事例があります。利用してみたい事業はありますか？（当てはまるもの全てに○）
（子どもの一時預かりなどは託児料金を伴う場合があります。）

- ・利用してみたい事業は、「授乳やおむつ替えスペース」（56.4%）が最も多く、次いで「子どもの一時預かり」（41.2%）、「子育て支援事業の催し」（31.2%）となった（図表 110）。

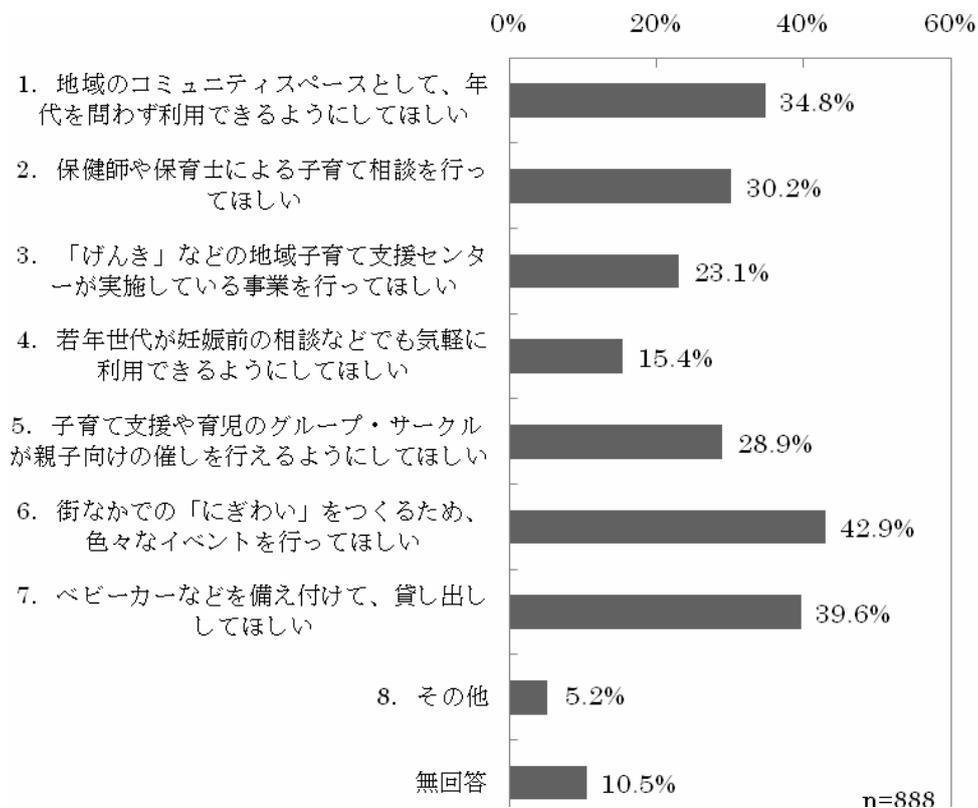
図表 110 自治体事例の中で利用してみたい事業



問 33 本市において、市内中心部に「子育てまちなか拠点スペース」を設けた場合、具体的な事業について、どのような内容を希望しますか？（当てはまるもの全てに○）

- ・期待する内容は、「街なかでの「にぎわい」をつくるため、いろいろなイベントを行ってほしい」（42.9%）が最も多く、次いで「ベビーカーなどを備え付けて、貸し出ししてほしい」（39.6%）、「地域のコミュニティスペースとして、年代を問わず利用できるようにしてほしい」（34.8%）、「保健師や保育士による子育て相談を行ってほしい」（30.2%）となった（図表 111）。

図表 111 子育てまちなか拠点スペースに期待する内容



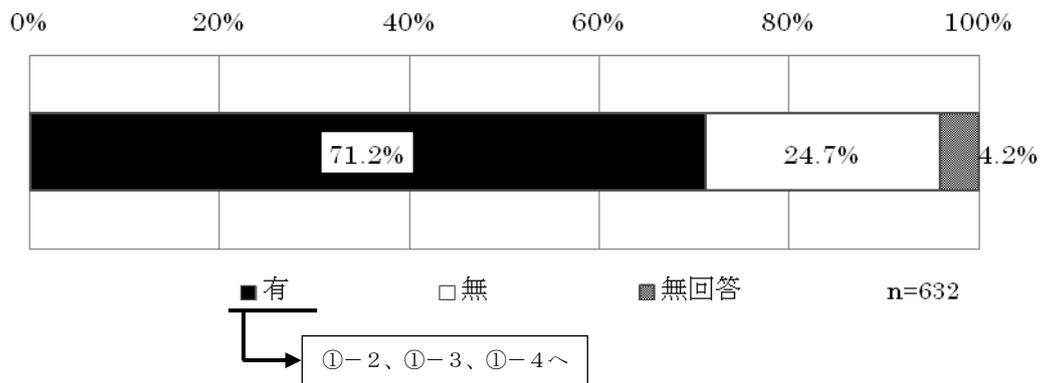
2. 13 教育・保育事業の広域利用について

問 34 あて名のお子さんの利用されている施設・事業及び今後利用を希望する施設・事業を提供する場所（市町村）についてうかがいます。なお、現在は利用していても、今後利用希望がある場合には回答してください。

①-1 現在の利用状況

・利用している施設・事業の有無は、「有」が71.2%、「無」が24.7%となった（図表 112）。

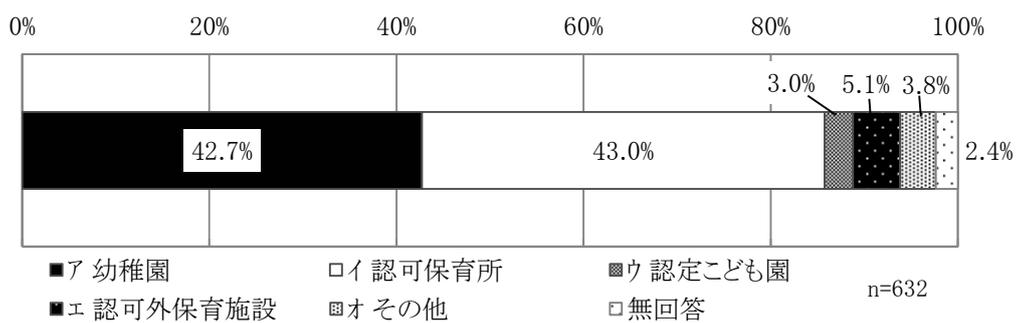
図表 112 利用している施設・事業の有無



①-2 現在、利用している施設

・現在、利用している施設は「認可保育所」(43.0%) が最も多く、次いで「幼稚園」(42.7%) となった（図表 113）。

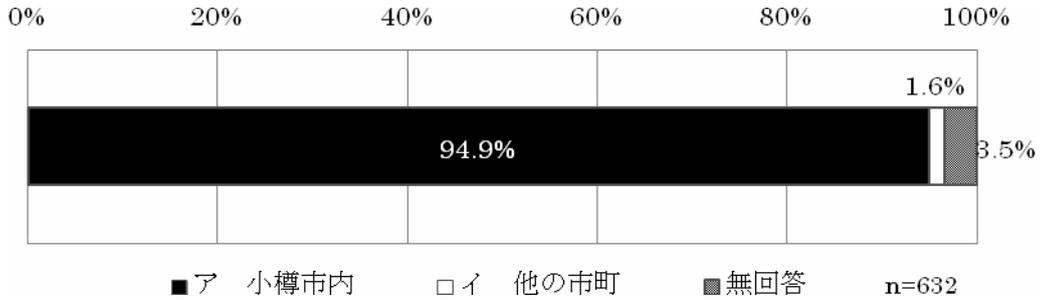
図表 113 利用している施設



①-3 現在利用している施設の所在地

- ・現在、利用している施設の所在地は、「小樽市内」が94.9%と圧倒的に多い（図表114）。

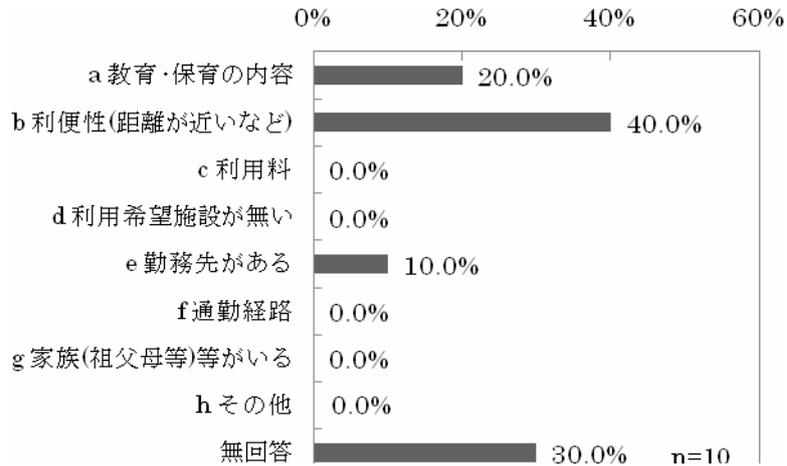
図表 114 現在利用している施設の所在地



①-4 他市町村で利用している理由

- ・現在、他市町村で利用している理由は、「利便性（距離が近い）」が40.0%、「教育・保育の内容」が20.0%、「勤務先がある」が10.0%となった（図表115）。

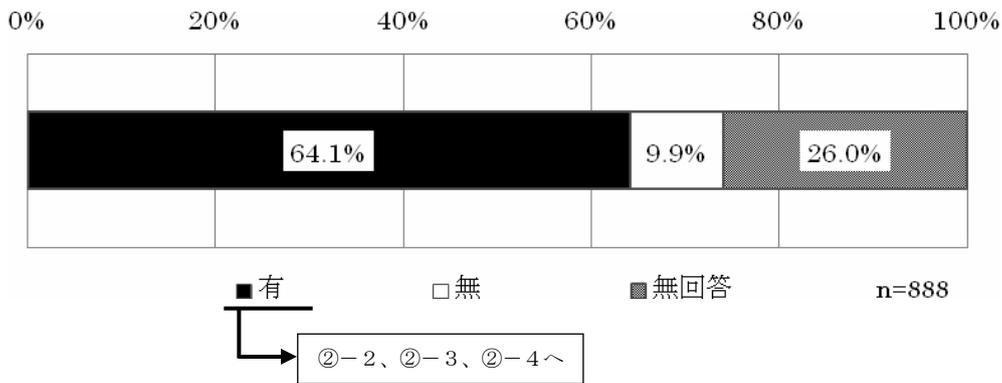
図表 115 他市町村で利用している理由



②-1 今後の利用希望

・今後の利用希望については、希望が「有」が64.1%、「無」が9.9%となった（図表116）。

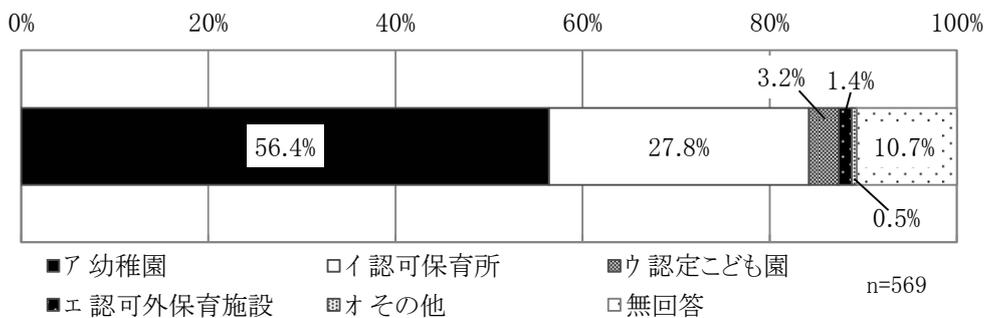
図表 116 今後の利用希望



②-2 今後利用したい施設

・今後、利用したい施設は「幼稚園」(56.4%)が最も多く、次いで「認可保育所」(27.8%)となった（図表117）。

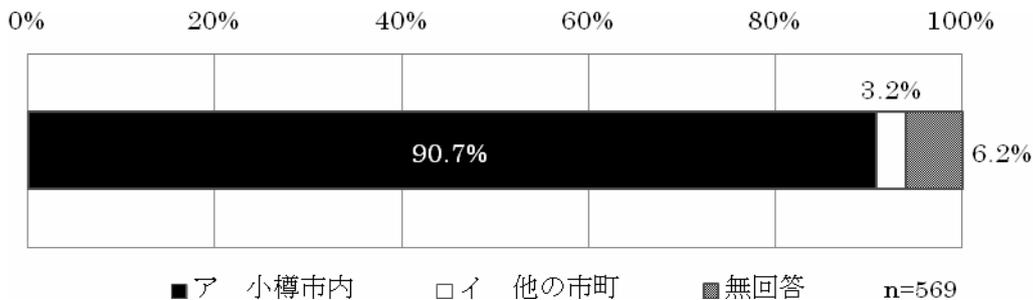
図表 117 今後利用したい施設



②-3 今後利用したい施設の所在地

・今後、利用したい施設の所在地は、「小樽市内」(90.7%)が圧倒的に多かった(図表118)。

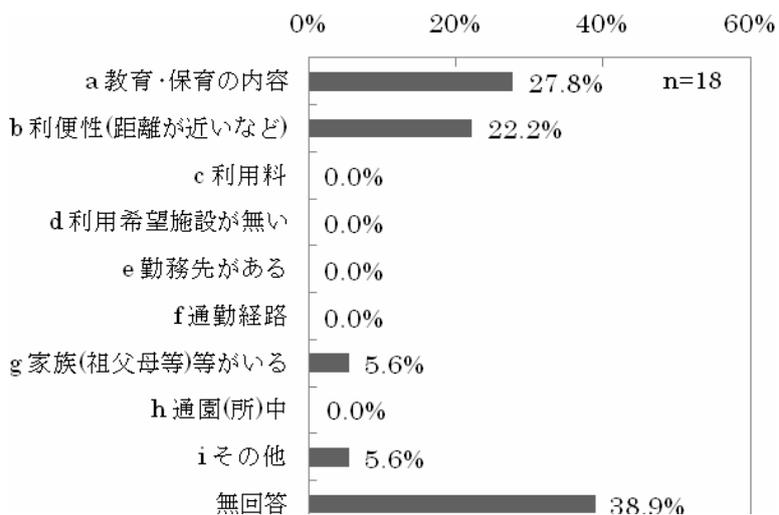
図表 118 今後利用したい施設の所在地



②-4 他市町村で利用したい理由

・他市町村で利用したい理由は、「教育・保育の内容」が27.8%、「利便性(距離が近い)」が22.2%、「家族(祖父母等)等がいる」が5.6%となった(図表119)。

図表 119 他市町村で利用したい理由

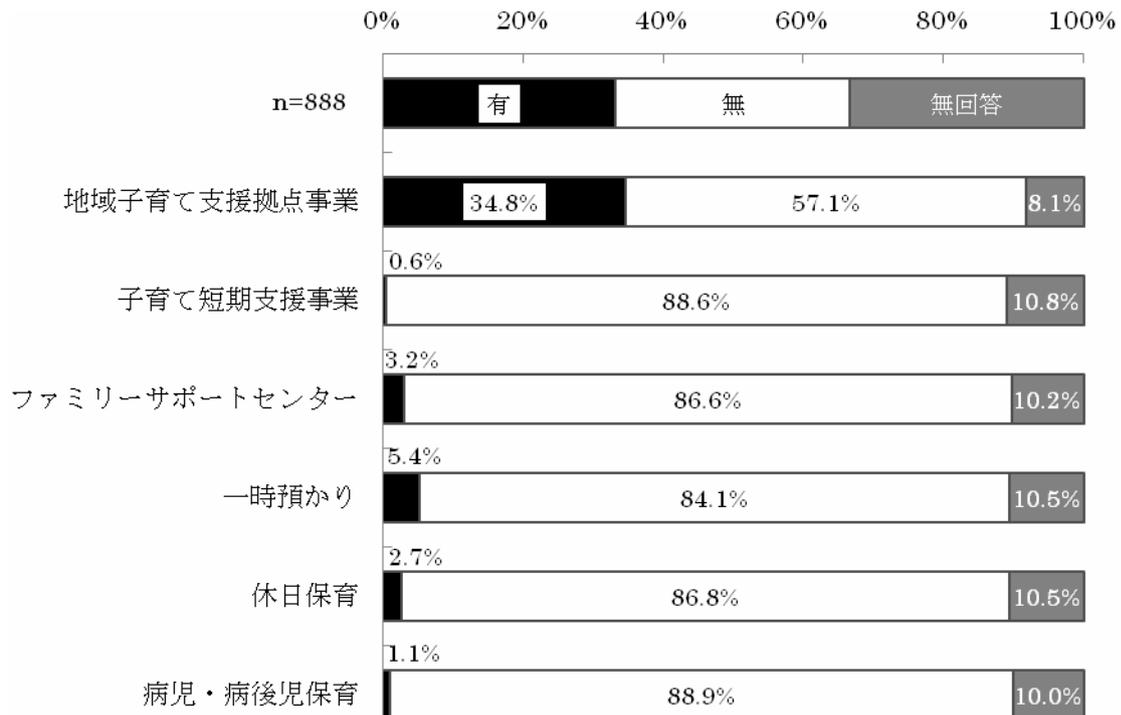


問 35 あて名のお子さんについて、現在利用している（したことがある）及び今後利用したい子育て支援事業についてうかがいます。

①－ 1 現在の利用実績

・利用実績がある子育て支援事業は、「地域子育て支援拠点事業」が 34.8%と多かった（図表 120）。

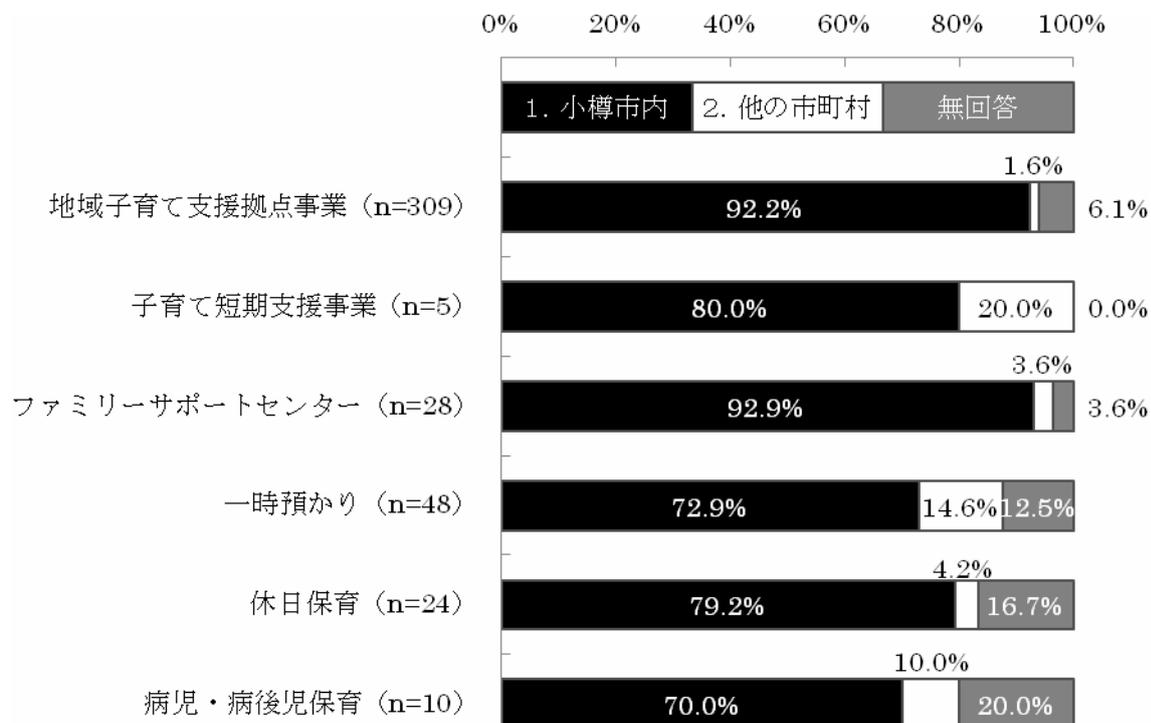
図表 120 子育て支援事業の利用実績



①-2 現在利用している事業の実施場所

・現在利用している事業の実施場所は、いずれの事業も小樽市内が多い（図表 121）。

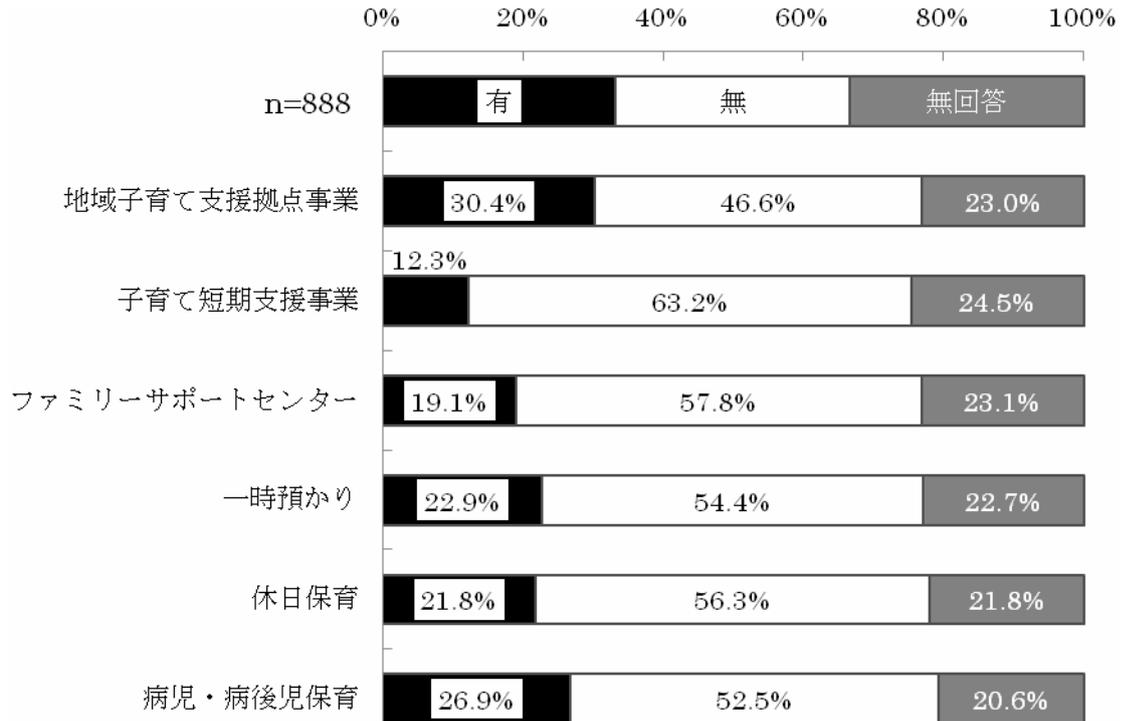
図表 121 現在利用している事業の実施場所



②-1 今後の利用希望

- ・今後、利用希望のある事業は、「地域子育て支援拠点事業」(30.4%)が最も多く、次いで「病児・病後児保育」(26.9%)となった(図表122)。

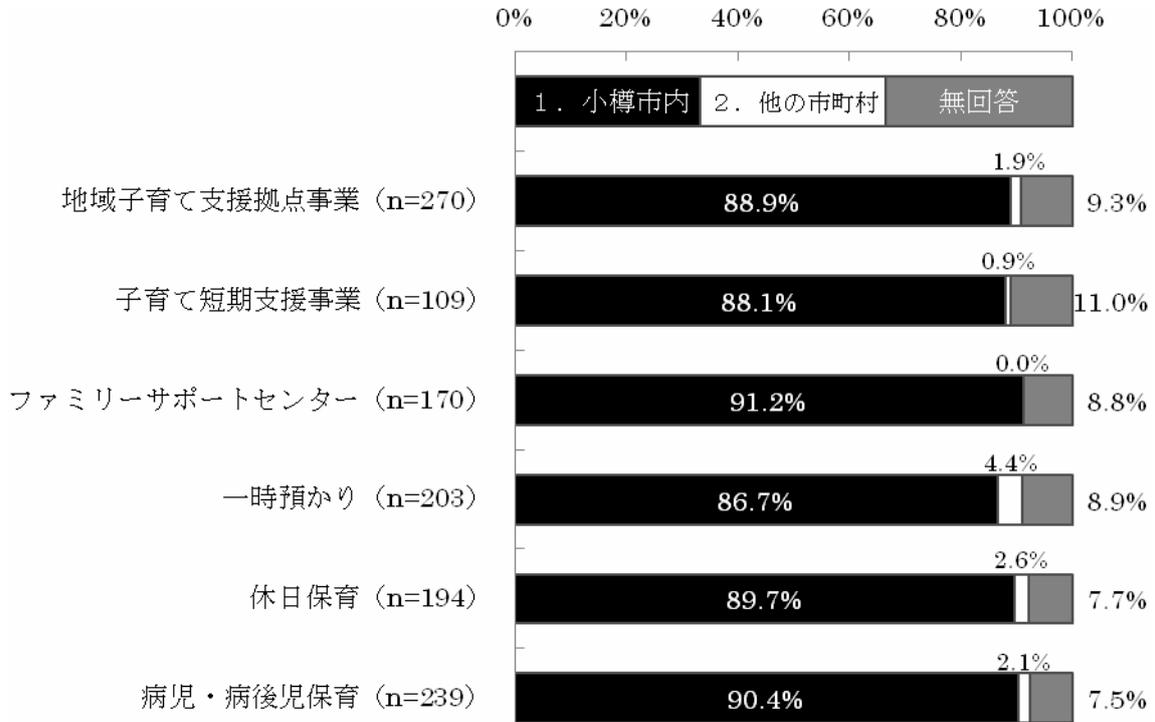
図表 122 利用希望のある子育て支援事業



②-2 今後利用したい事業の実施場所

・今後利用したい事業の実施場所は、いずれの事業も小樽市内が多い（図表 123）。

図表 123 利用したい事業の実施場所

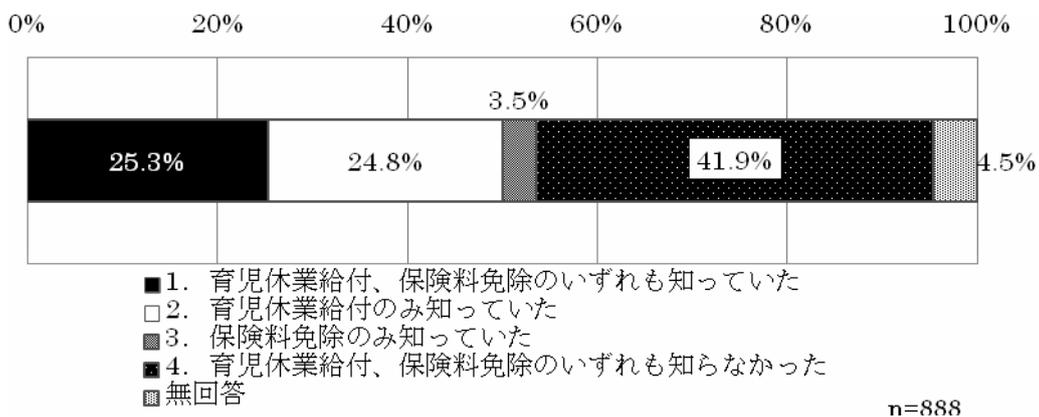


2. 14 その他

問 36 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか？（1つに○）

- ・制度の認知度は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（41.9%）が最も多く、次いで、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（25.3%）、「育児休業給付のみ知っていた」（24.8%）となった（図表 124）。

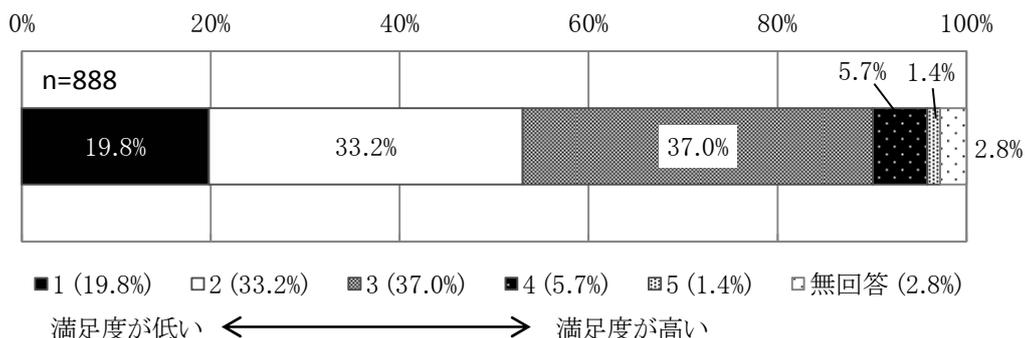
図表 124 育児休業給付および保険料免除制度の認知度



問 37 本市の子育ての環境や支援への満足度について、当てはまる番号1つに○を付けてください。

- ・本市の子育て環境や支援への満足度は、半数以上が満足度中間「3」よりも低かった（図表 125）。

図表 125 子育て環境や支援に対する満足度



問 38 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご記入ください。

教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関するご意見を尋ねたところ、888 件中 402 件の回答が得られ、① 行政の子育て支援サービスが 195 件、②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備が 97 件、③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）が 85 件、④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）が 10 件、⑤その他が 15 件となった。

各項目の詳細については、次頁以降に示す通り。

項目	件数
①行政の子育て支援サービス	195
②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備	97
③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）	85
④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）	10
⑤その他	15
合計	402

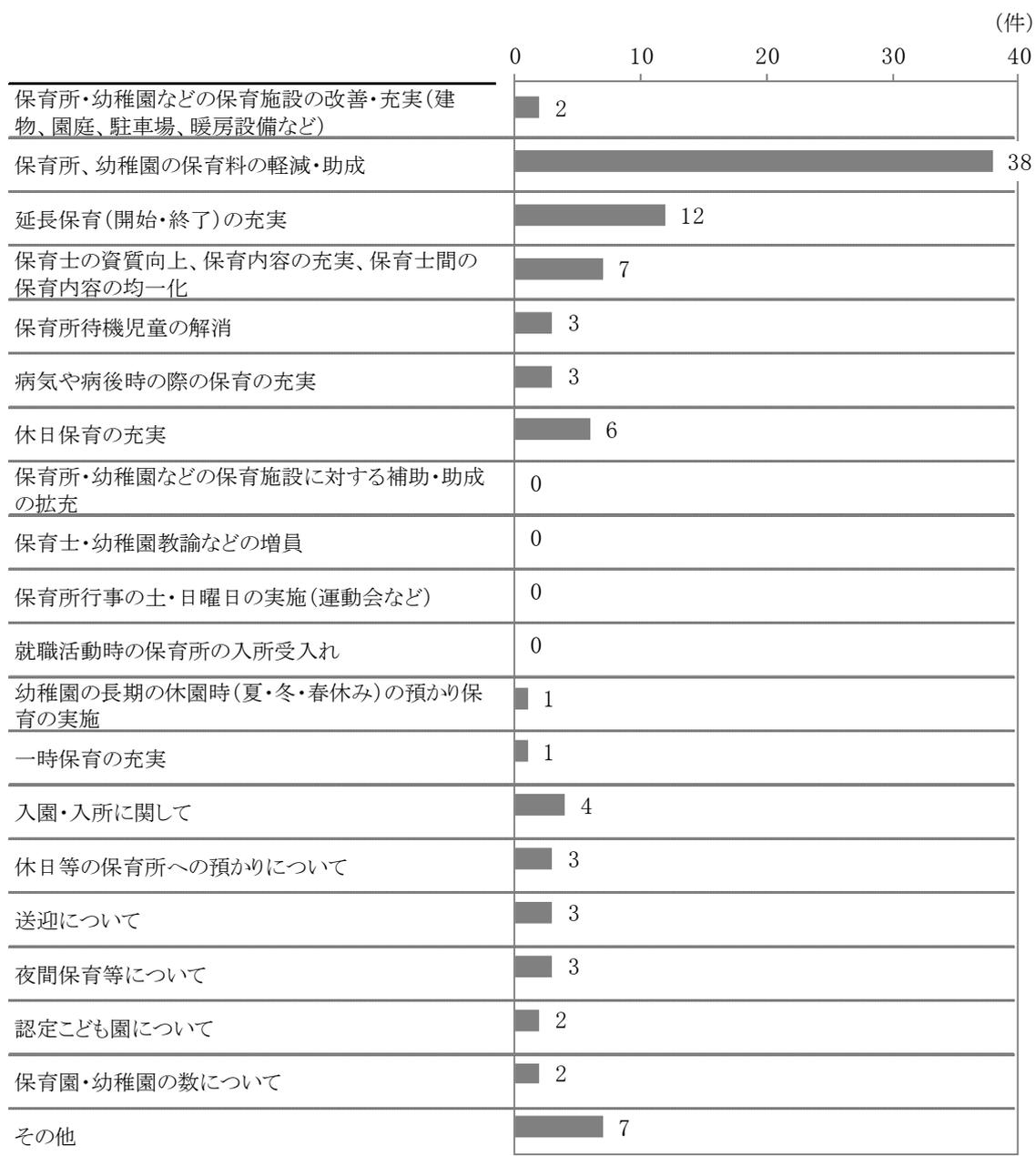
①行政の子育て支援サービスに関する意見

行政の子育て支援サービスに関する意見についてみると、「子育て支援情報の提供・周知方法の工夫充実」が24件、「乳幼児医療等の医療費助成の拡大」が16件、「遊び場について」が15件と特に多くなった。

	(件)
	0 10 20 30
冬期間(雨の日)の屋内遊技施設の整備・充実	13
乳幼児医療等の医療費助成の拡大	16
地区児童館・コミュニティセンターの整備・充実	4
子育て支援情報の提供・周知方法の工夫充実	24
子育て支援センターの整備・拡充 (地域分散、利便性など)	11
児童手当等の拡充	7
緊急の場合などの託児サービスの充実	4
子育てサークルなどの活動場所の提供	0
同年齢児の親子の集う交流の場の提供	3
夜間・休日小児科医療の充実支援(夜間救急病院 への小児科専門医の常設、休日開院など)	5
ファミリーサポートセンター事業	3
地区小児科病院の充実支援	0
乳幼児健診など地域への出張健診の実施	0
遊び場について	15
イベントについて	10
子ども・子育て世帯に優しい環境づくりについて	10
放課後児童クラブの充実	6
サークルについて	4
障がい児支援について	4
通学環境について	4
預かりについて	4
教育機関について	3
行政の対応について	3
施設の充実について	3
相談窓口の充実	3
多子世帯に対する支援	3
保健師・保育士等の資質について	3
ひとり親家庭への支援	2
各種審査・実態調査の強化について	2
金銭的支援	2
語学・スポーツ等の能力向上に向けた支援	2
就学児童に対する支援の拡大	2
地域との交流の場の充実	2
保育士等の資質の向上	2
保育料について	2
放課後児童クラブの拡充	1
その他	13

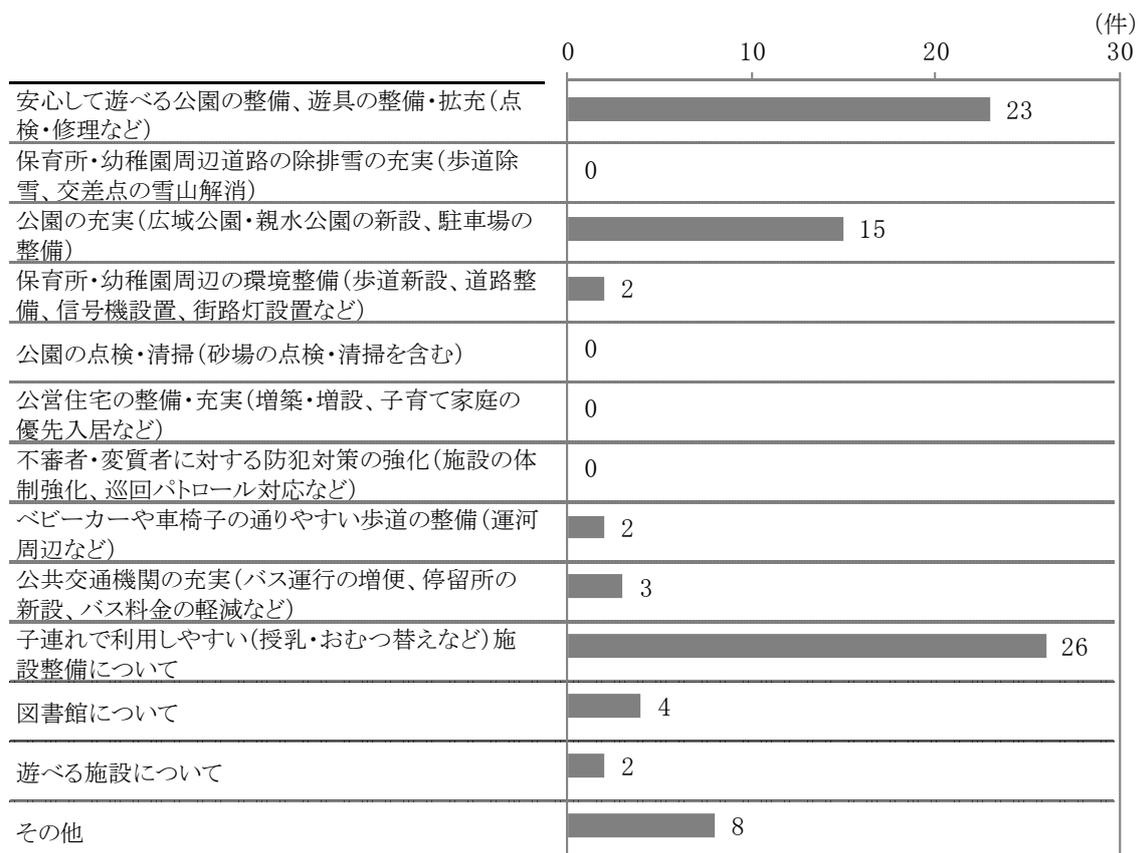
②保育所・幼稚園などの保育環境等の整備に関する意見

保育所・幼稚園などの保育環境等の整備に関する意見についてみると、「保育所、幼稚園の保育料の軽減・助成」が38件、「延長保育(開始・終了)の充実」が12件となった。



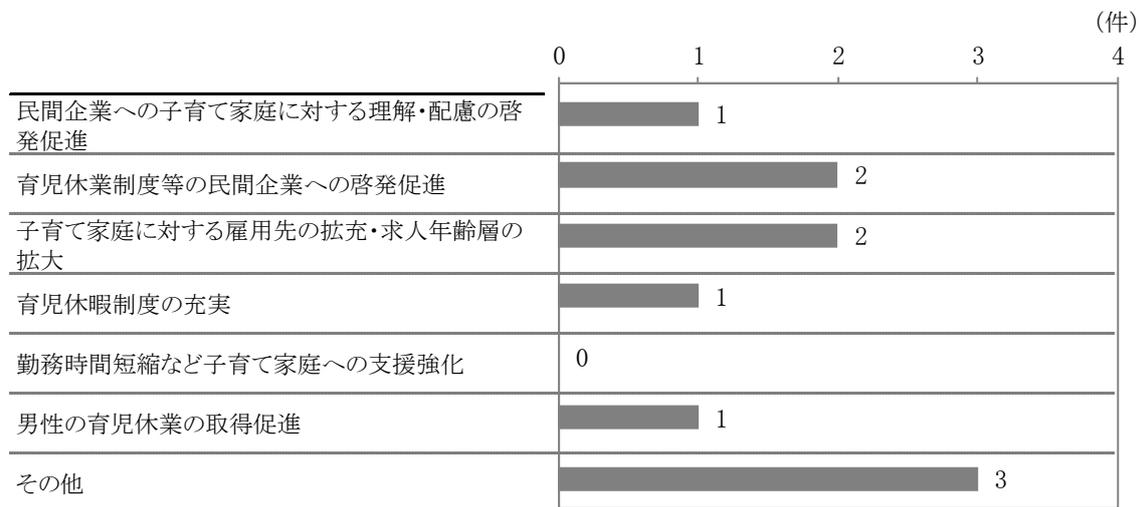
③生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）に関する意見

生活環境（住宅、道路、公園、公共交通機関、公的建築物など）に関する意見についてみると、「子連れで利用しやすい（授乳・おむつ替えなど）施設整備について」が26件、「安心して遊べる公園の整備、遊具の整備・拡充（点検・修理など）」が23件、「公園の充実（広域公園・親水公園の新設、駐車場の整備）」が15件となった。



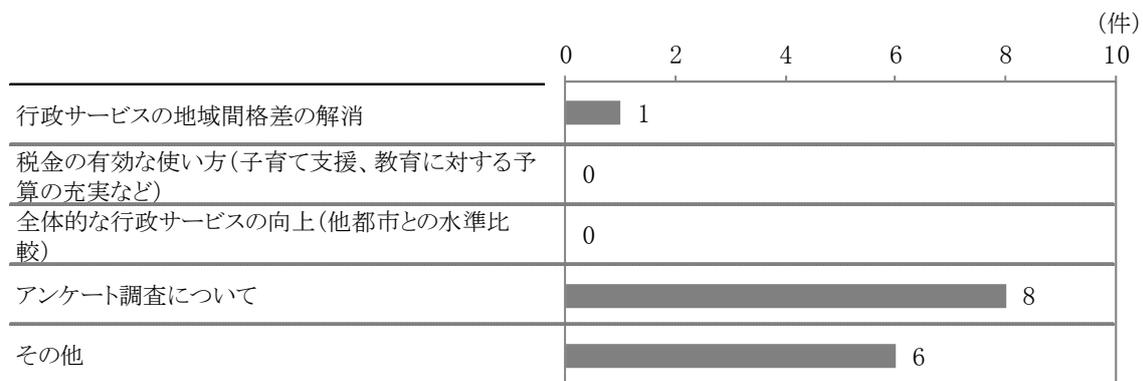
④労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）に関する意見

労働環境（働きやすい環境づくり、育児休業等の制度の充実など）に関する意見についてみると、「育児休業制度等の民間企業への啓発促進」が2件、「子育て家庭に対する雇用先の拡充・求人年齢層の拡大」が2件となった。



⑤その他

その他の意見についてみると、「アンケート調査について」が8件となった。



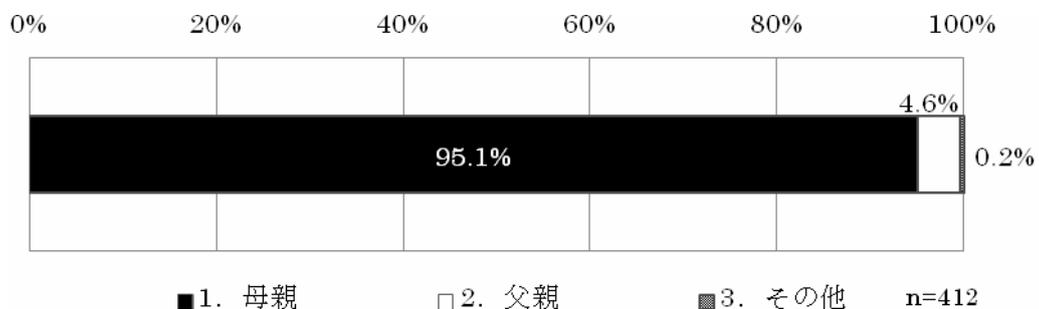
3 放課後児童クラブ利用児童を対象としたニーズ調査の結果

3. 1 お子さんと家族の状況について

問1 この調査票にご回答いただく方はどなたですか？ あて名のお子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

- 回答者は「母親」が95.1%、「父親」が4.6%となった(図表126)。

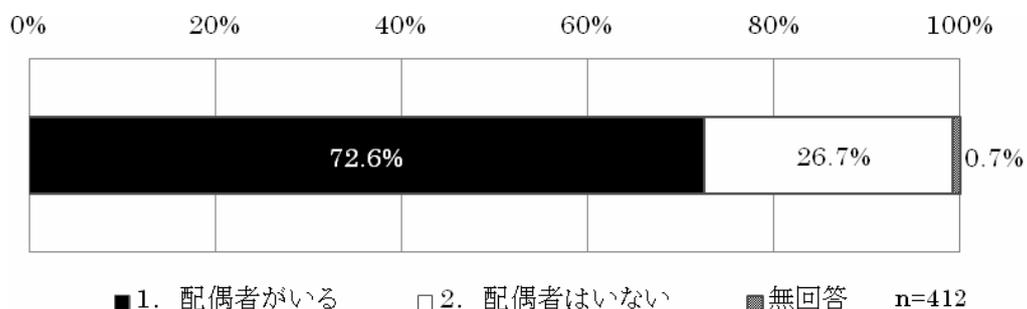
図表 126 回答者



問2 この調査票にご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。(1つに○)

- 回答者の配偶関係については、「配偶者がいる」が72.6%、「配偶者がいない」が26.7%となった(図表127)。

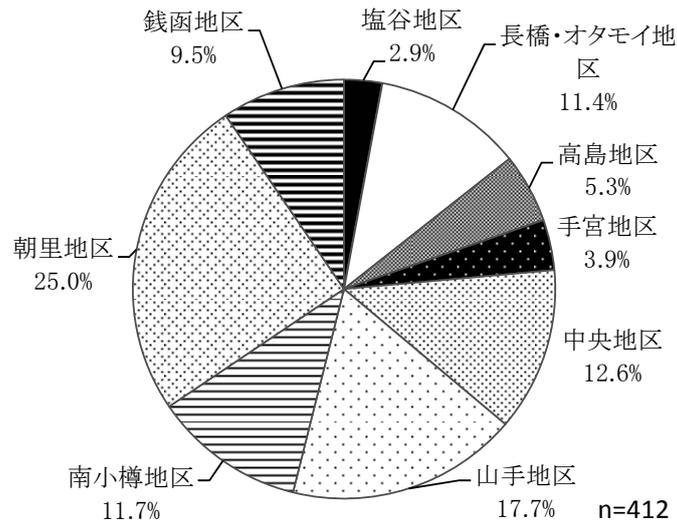
図表 127 回答者の配偶関係



問3 お住まいの地区はどちらですか？ (1つに○)

- ・ お住まいの地区は、「朝里地区」(25.0%) が最も多く、次いで「山手地区」(17.7%)、「中央地区」(12.6%)、「南小樽地区」(11.7%)、「長橋・オタモイ地区」(11.4%) となった(図表 128)。

図表 128 お住まいの地区



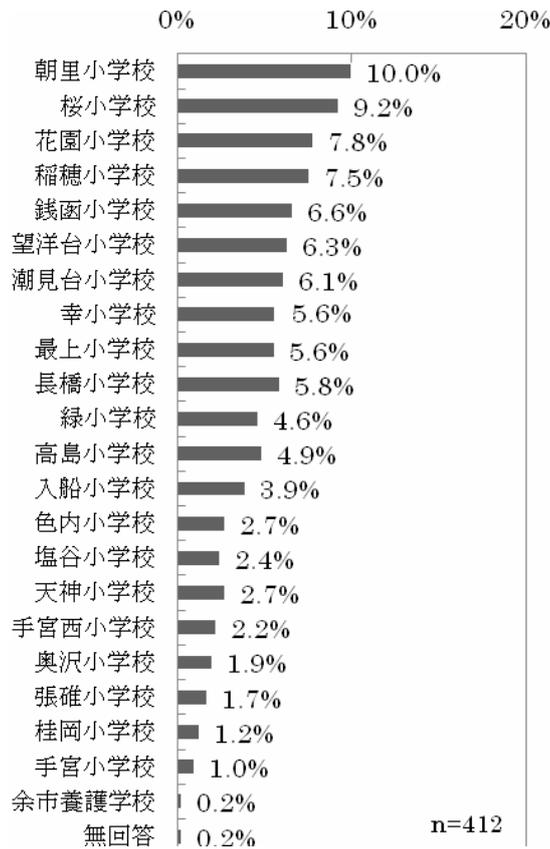
【備考】

塩谷地区	1. 蘭島、2. 忍路、3. 桃内、4. 塩谷
長橋・オタモイ地区	5. オタモイ、6. 幸、7. 長橋、8. 旭町
高島地区	9. 祝津、10. 赤岩、11. 高島
手宮地区	12. 手宮、13. 末広町、14. 梅ヶ枝町、15. 錦町、16. 清水町、17. 豊川町、18. 石山町、19. 色内3丁目
中央地区	21. 稲穂、22. 花園、23. 色内1・2丁目、24. 港町、25. 堺町、26. 東雲町、27. 山田町、28. 相生町、29. 入船1・2丁目
山手地区	30. 富岡、31. 緑、32. 最上、33. 松ヶ枝、34. 入船3~5丁目、35. 天狗山
南小樽地区	36. 住ノ江、37. 住吉町、38. 有幌町、39. 信香町、40. 若松、41. 奥沢、42. 天神、43. 真栄、44. 潮見台、45. 新富町、46. 勝納町、47. 若竹町、48. 築港
朝里地区	49. 桜、50. 船浜町、51. 朝里、52. 新光、53. 望洋台、54. 新光町、55. 朝里川温泉
銭函地区	56. 張碓町、57. 春香町、58. 桂岡町、59. 銭函、60. 見晴町、61. 星野町

問4 あて名のお子さんはどちらの小学校に通っていますか？ 小学校名をご記入ください。

- お子さんが通っている小学校は、「朝里小学校」(10.0%)が最も多く、次いで「桜小学校」(9.2%)、「花園小学校」(7.8%)、「稲穂小学校」(7.5%)となった(図表 129)。

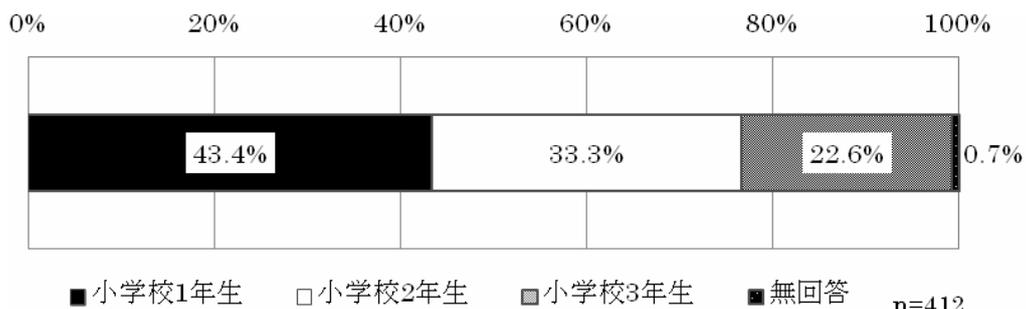
図表 129 お子さんが通っている小学校



問5 あて名のお子さんの学年をご記入ください

- お子さんの学年は、「小学校1年生」(43.4%)が最も多く、次いで「小学校2年生」(33.3%)、「小学校3年生」(22.6%)となった(図表 130)。

図表 130 お子さんの学年



3. 2 お子さんの放課後の過ごし方

問6 あて名のお子さんは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか？（当てはまるもの全てに○）また、希望としてはどのような場所で過ごさせたいですか？ 場所と日数について、それぞれ現状と希望をご記入ください。
また、「放課後児童クラブ」の場合は、利用（希望）時間もカッコ内にご記入ください。時間は必ず（例）16時30分のように24時間制でご記入ください。

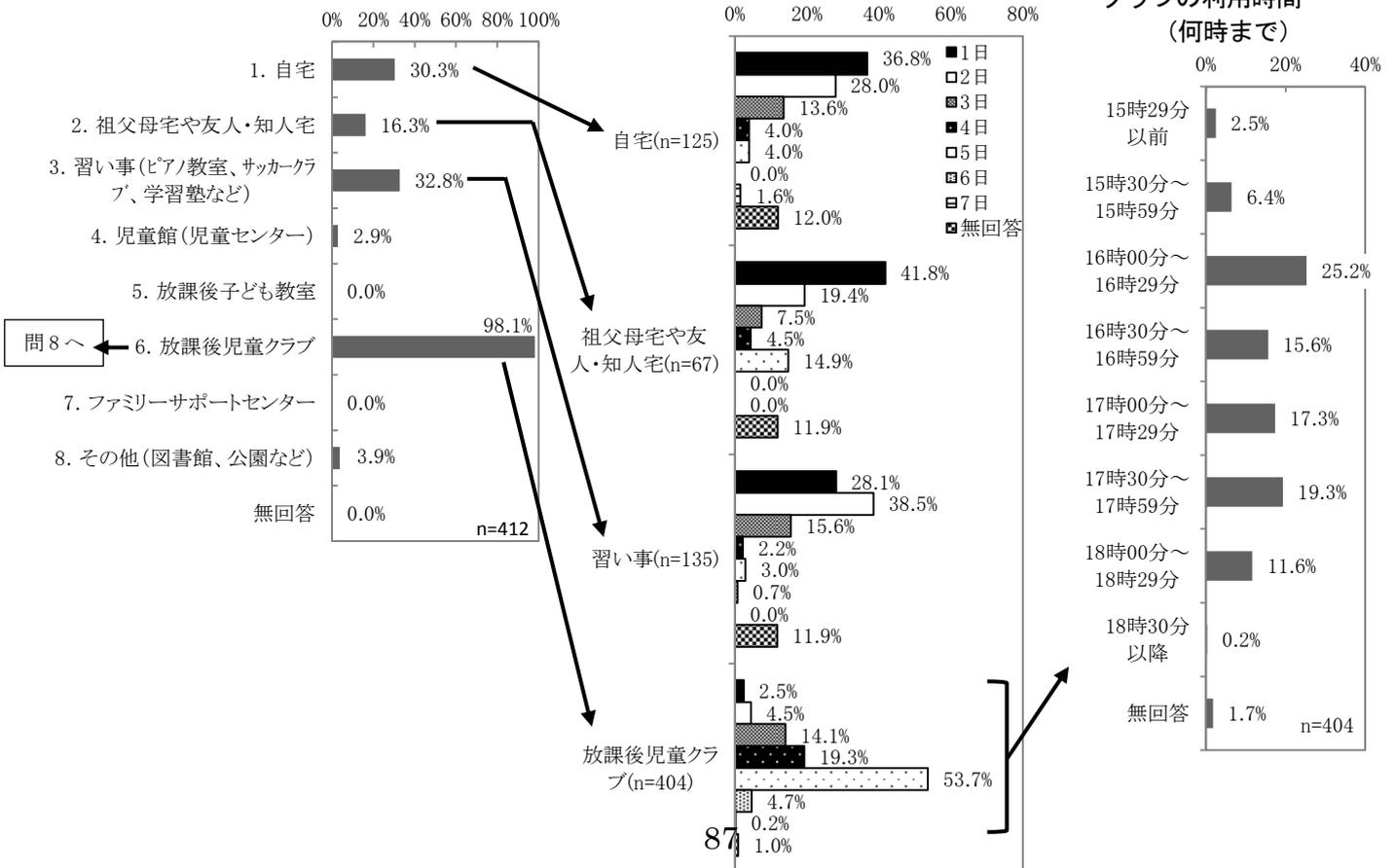
①現在、過ごしている場所

- ・ お子さんが現在、放課後の時間を過ごしている場所は、「放課後児童クラブ」（98.1%）が最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（32.8%）、「自宅」（30.3%）となった（図表 131）。
- ・ 「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「放課後児童クラブ」と回答した方の1週間当たりの利用日数は、「自宅」では「1日」（36.8%）、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」（41.8%）、「習い事」では「2日」（38.5%）、「放課後児童クラブ」では「5日」（53.7%）が最も多かった（図表 132）。
- ・ 放課後児童クラブと回答した方の下校時からの利用時間は、「16時00分～16時29分」（25.2%）が最も多かった（図表 133）。

図表 131 放課後を過ごしている場所

図表 132 1週間当たりの利用日数

図表 133 放課後児童クラブの利用時間（何時まで）

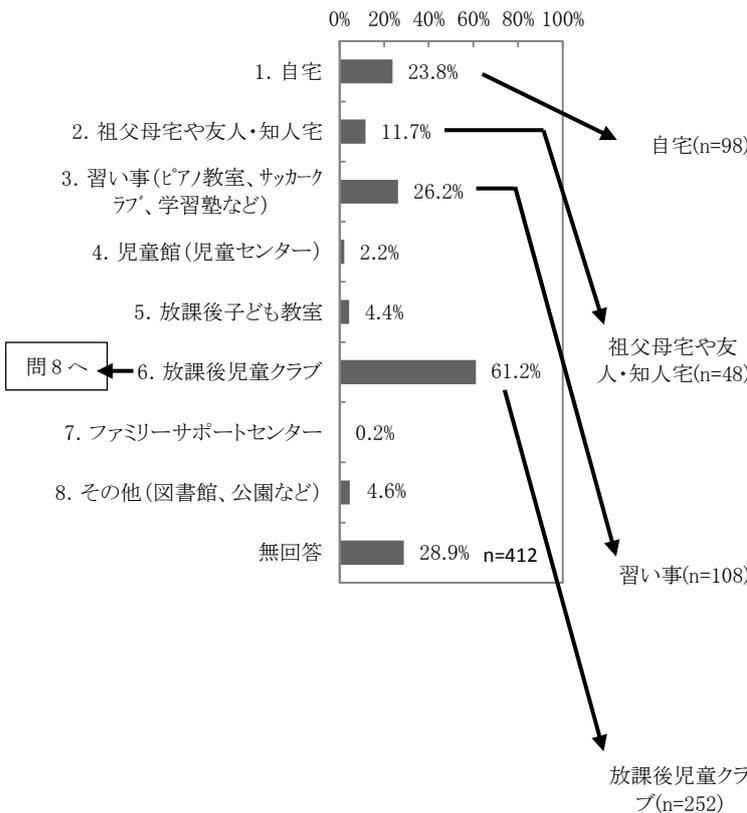


問8へ

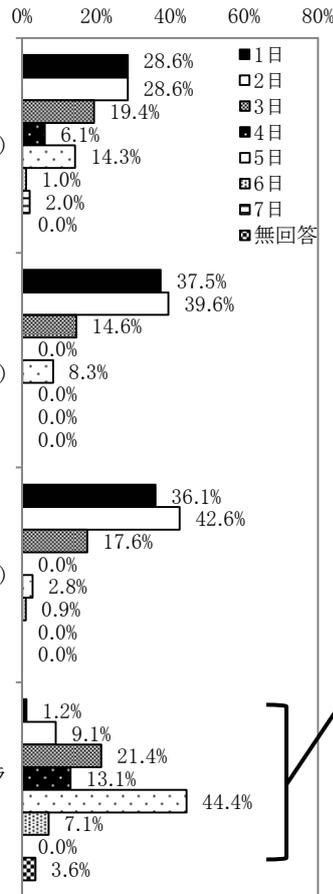
②希望として過ごさせたい場所

- 希望として、放課後お子さんを過ごさせたい場所は、「放課後児童クラブ」(61.2%)が最も多く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(26.2%)、「自宅」(23.8%)となった(図表134)。
- 「自宅」「祖母宅や友人・知人宅」「習い事」「放課後児童クラブ」と回答した方の1週間当たりの希望利用日数は、「自宅」では「1日」「2日」(28.6%)、「祖母宅や友人・知人宅」では「2日」(39.6%)、「習い事」では「2日」(42.6%)、「放課後児童クラブ」では「5日」(44.4%)が最も多かった(図表135)。
- 放課後児童クラブと回答した方の下校時からの利用希望時間は、「16時00分～16時29分」(21.0%)が最も多かった(図表136)。

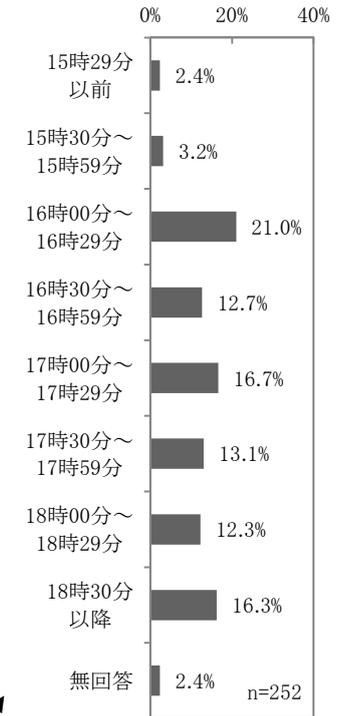
図表 134 放課後を過ごさせたい場所



図表 135 1週間当たりの利用日数



図表 136 利用希望時間(何時まで)

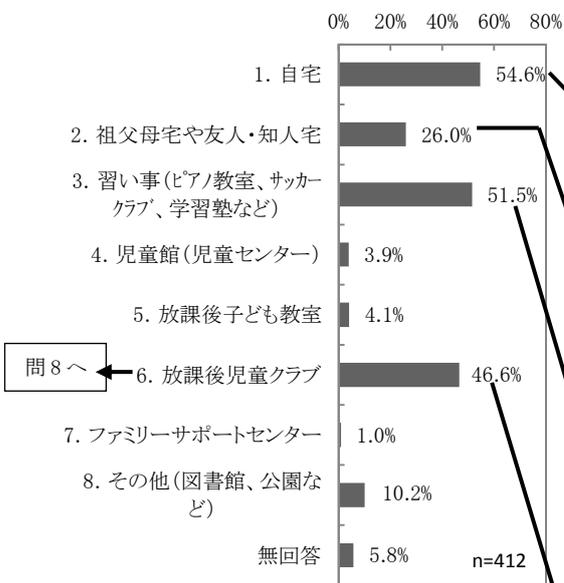


問7 あて名のお子さんが 小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか？（当てはまるもの全てに○）場所と日数について、それぞれご記入ください。
 また、「放課後児童クラブ」の場合は、利用（希望）時間もカッコ内にご記入ください。時間は、必ず（例）16時30分のように24時間制でご記入ください。

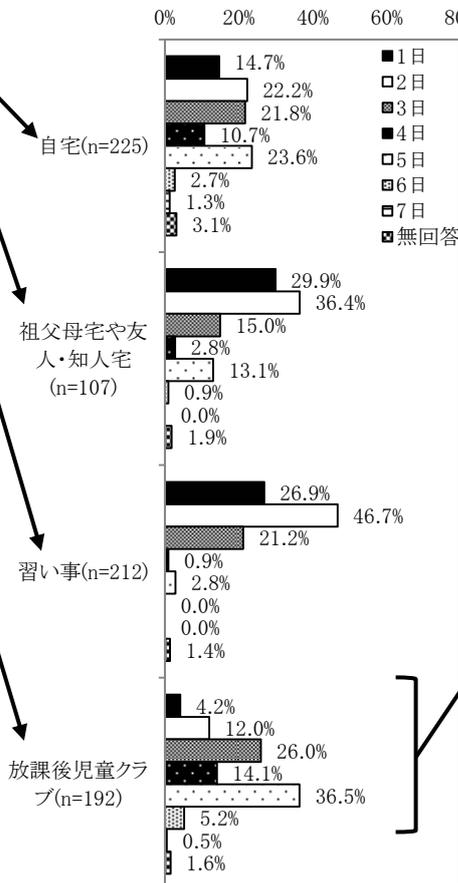
①小学校高学年になったら希望として過ごさせたい場所

- ・ 小学校高学年時、希望として放課後お子さんを過ごさせたい場所は、「自宅」（54.6%）が最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（51.5%）、「放課後児童クラブ」（46.6%）となった（図表 137）。
- ・ 「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「放課後児童クラブ」と回答した方の1週間当たりの希望利用日数は、「自宅」では「2日」「3日」「5日」がいずれも20%以上、「祖父母宅や友人・知人宅」では「2日」（36.4%）、「習い事」では「2日」（46.7%）、「放課後児童クラブ」では「5日」（36.5%）が最も多かった（図表 138）。
- ・ 放課後児童クラブと回答した方の下校時からの利用希望時間は、「17時00分～17時29分」（23.4%）が最も多かった（図表 139）。

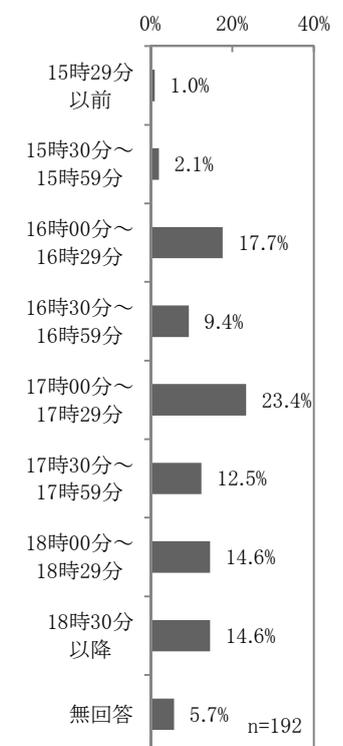
図表 137 放課後を過ごさせたい場所



図表 138 1週間当たりの利用日数



図表 139 利用希望時間(何時まで)

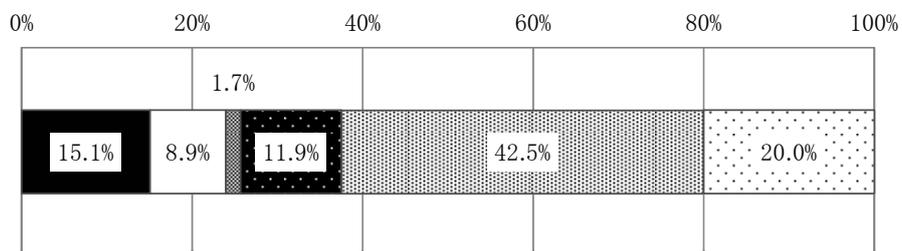


問8 問6または問7で「6. 放課後児童クラブ」に○を付けた方にうかがいます。
あて名のお子さんについて、土曜日、日曜日・祝日、長期休業期間（春・夏・冬休み）中の放課後児童クラブの利用希望はありますか？（それぞれ1つに○）（事業の利用には、前記のとおり一定の利用料がかかります。）利用希望の有無と利用したい時間帯をご記入ください。

- ・ 小学校1～3年生の期間および小学校4～6年生の期間に放課後を「放課後児童クラブ」で過ごしている（過ごさせたい）と回答した方の土曜日、日曜日・祝日、長期休業期間（春・夏・冬休み）中の放課後児童クラブの利用希望は、以下のとおり。
- ・ 土曜日は「利用する必要はない」（42.5%）が最も多く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（15.1%）となった。また、利用したい時間帯の利用開始時間は、「8時～8時29分」「8時30分～8時59分」「9時～9時29分」が多く、終了時間は「17時～17時29分」「18時以降」が多かった（図表140、図表141）。
- ・ 日曜日・祝日は「利用する必要はない」（61.7%）が最も多く、次いで「高学年（6年生）まで利用したい」（6.7%）、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（5.7%）となった。また、利用したい時間帯は、「1～3年生」では、利用開始時間は「8時～8時29分」「8時30分～8時59分」が多く、終了時間は「18時以降」が多かった。「6年生」では、利用開始時間は「8時～8時29分」が多く、終了時間は「18時以降」が多かった（図表142、図表143）。
- ・ 長期休業期間は、「高学年（6年生）まで利用したい」（28.1%）が最も多く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（25.4%）、「高学年（4年生）まで利用したい」（20.7%）となった。また、利用したい時間帯の利用開始時間は、「8時～9時29分」が多く、終了時間は「17時～17時29分」「18時以降」が多かった（図表144、図表145）。

①土曜日

図表 140 土曜日の放課後児童クラブの利用希望

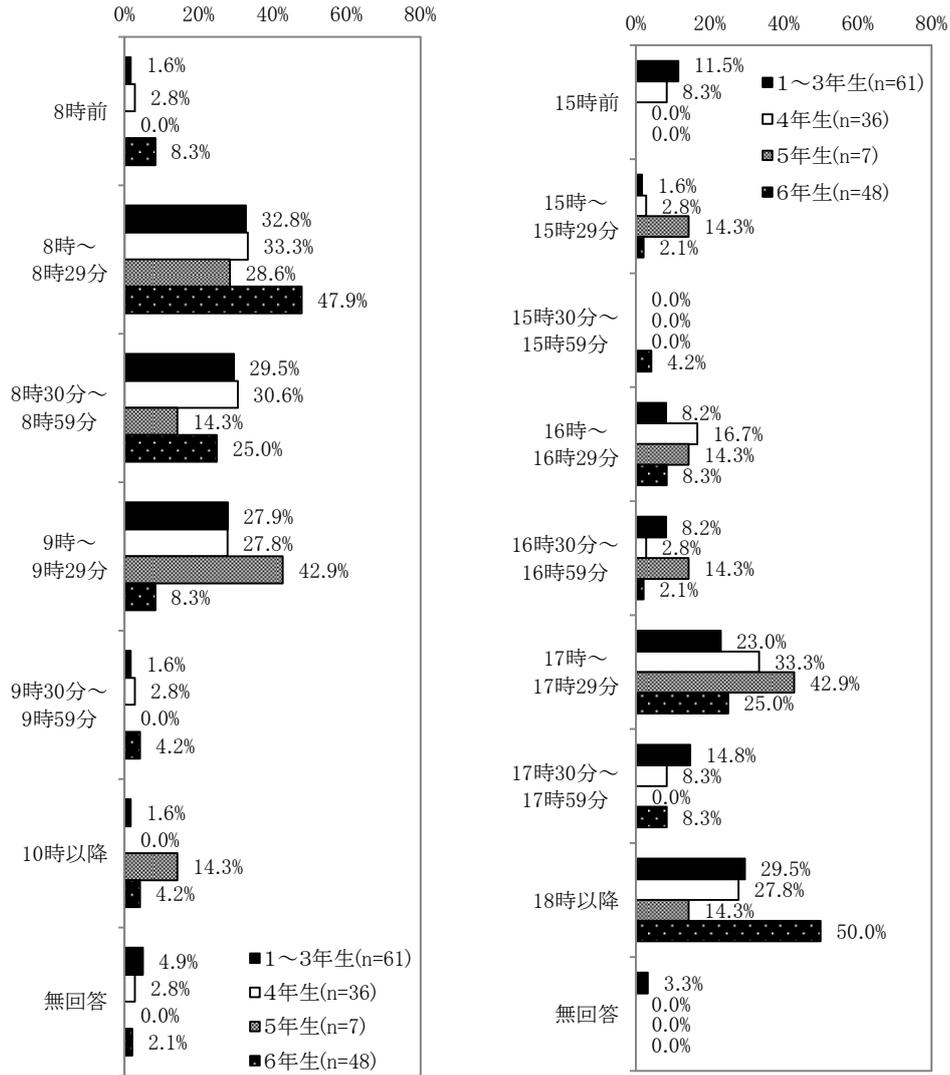


- 1. 低学年(1~3年生)の間は利用したい
- 2. 高学年(4年生)まで利用したい
- ▨3. 高学年(5年生)まで利用したい
- 4. 高学年(6年生)まで利用したい
- 5. 利用する必要はない
- 無回答

n=405

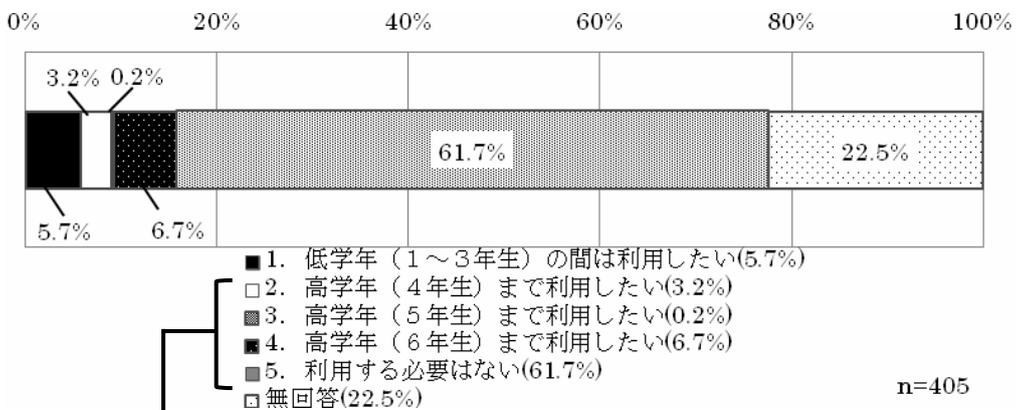


図表 141 利用希望時間(開始時間・終了時間)

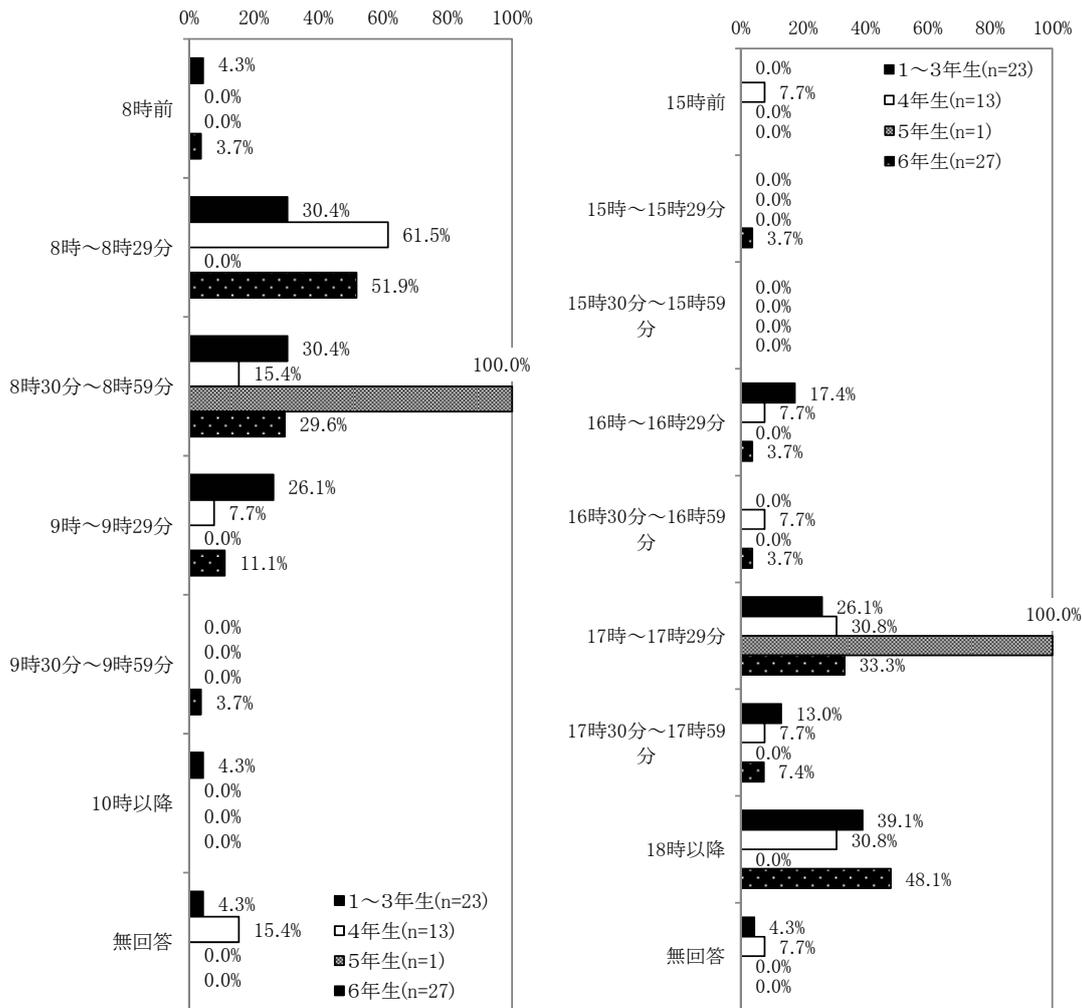


②日曜日・祝日

図表 142 日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望

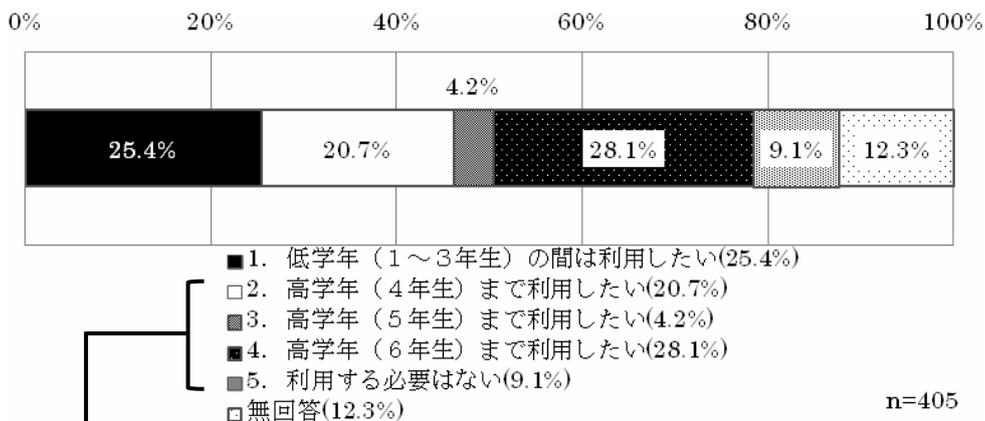


図表 143 利用希望時間（開始時間・終了時間）

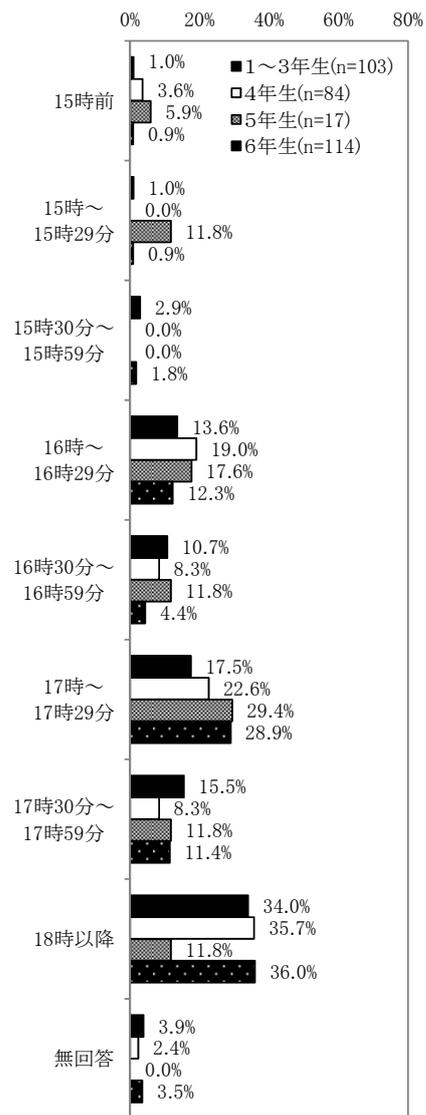
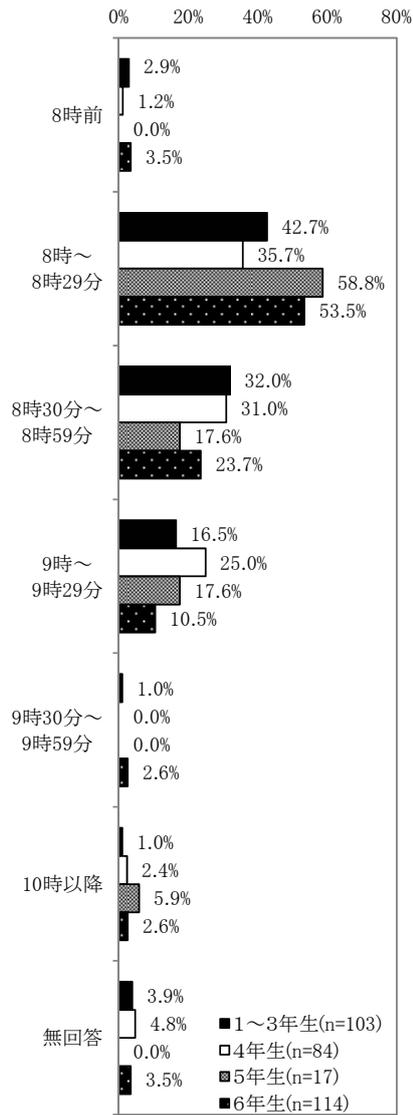


③長期休業期間

図表 144 長期休業期間の放課後児童クラブの利用希望



図表 145 利用希望時間（開始時間・終了時間）



問9 最後に、放課後児童クラブに関してご意見がございましたら、ご記入ください。

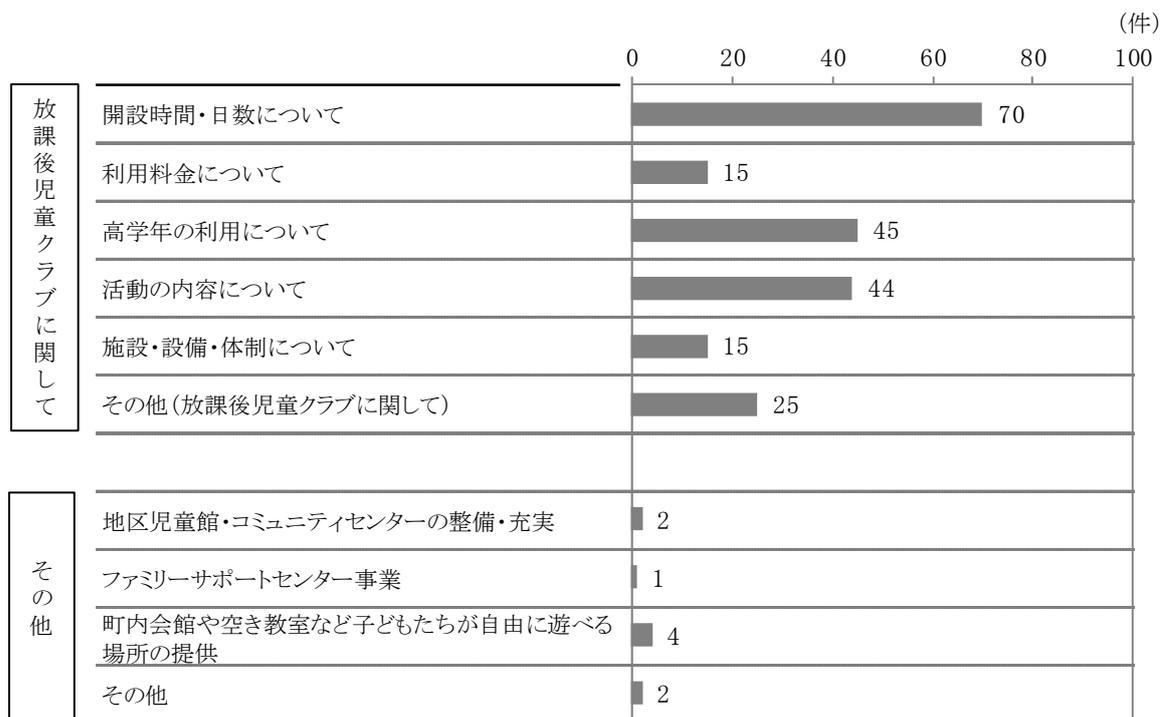
放課後児童クラブに関する意見を尋ねたところ、412 件中 223 件の回答が得られ、放課後児童クラブに関してが 214 件、その他が 9 件となった。

各項目の詳細については、下記に示すとおり。

項目	件数
放課後児童クラブに関して	214
その他	9
合計	223

放課後児童クラブに関しての意見をみると、「開設時間・日数について」が 70 件、「高学年の利用について」が 45 件、「活動の内容について」が 44 件と特に多くなった。

その他に関しての意見をみると、「町内会館や空き教室など子どもたちが自由に遊べる場所の提供」が 4 件となった。



《資料編》 小樽市における子ども・子育て環境について

1 人口構造

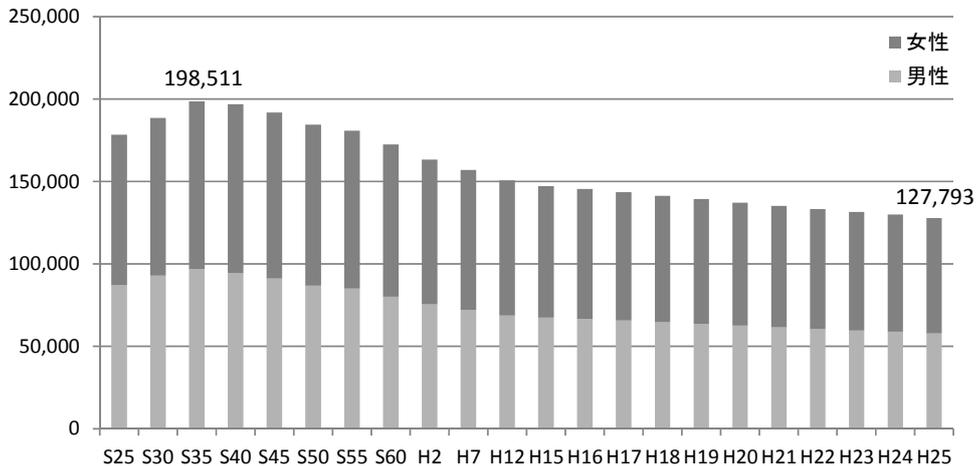
(1) 人口推移

①男女別人口の推移

国勢調査等による本市の総人口は昭和 35 年をピークに減少傾向となっており、平成 24 年 9 月末時点では、13 万人を下回り、平成 25 年 9 月には 127,793 名となった。

なお、内訳は男性が 57,765 名 (45.2%)、女性が 70,028 名 (54.8%) となった。

図表 146 人口推移



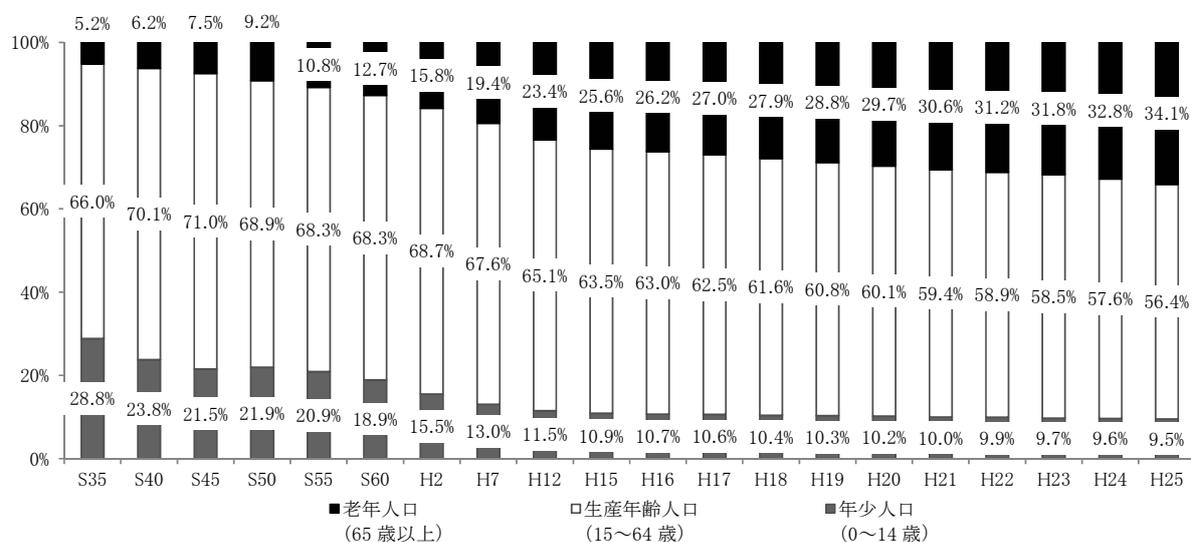
区分	総人口	性別	
		男性	女性
昭和25年	178,330	87,163	91,167
昭和30年	188,448	92,754	95,694
昭和35年	198,511	96,807	101,704
昭和40年	196,771	94,477	102,294
昭和45年	191,856	91,134	100,722
昭和50年	184,406	86,738	97,668
昭和55年	180,728	84,981	95,747
昭和60年	172,486	80,170	92,316
平成2年	163,211	75,453	87,758
平成7年	157,022	71,914	85,108
平成12年	150,687	68,687	82,000
平成15年	147,124	67,428	79,696
平成16年	145,493	66,535	78,958
平成17年	143,490	65,600	77,890
平成18年	141,322	64,540	76,782
平成19年	139,267	63,505	75,762
平成20年	137,120	62,470	74,650
平成21年	135,168	61,483	73,685
平成22年	133,168	60,412	72,756
平成23年	131,444	59,585	71,859
平成24年	129,947	58,873	71,074
平成25年	127,793	57,765	70,028

②年齢別人口の推移

国勢調査等による本市の総人口に占める年齢別人口のうち、0～14歳の人口（年少人口）と15～64歳の人口（生産年齢人口）は、減少傾向が続いている。一方で、65歳以上の人口（老年人口）は増加傾向が続いている。

平成21年には老年人口が30%を上回り、生産年齢人口が60%を下回った。また、平成22年には年少人口が10%を下回った。

図表 147 年齢別人口推移



	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合
昭和35年	57,100	28.8%	131,067	66.0%	10,344	5.2%
昭和40年	46,740	23.8%	137,929	70.1%	12,102	6.2%
昭和45年	41,208	21.5%	136,245	71.0%	14,403	7.5%
昭和50年	40,411	21.9%	127,028	68.9%	16,945	9.2%
昭和55年	37,726	20.9%	123,488	68.3%	19,514	10.8%
昭和60年	32,675	18.9%	117,821	68.3%	21,988	12.7%
平成2年	25,242	15.5%	112,165	68.7%	25,804	15.8%
平成7年	20,352	13.0%	106,146	67.6%	30,524	19.4%
平成12年	17,398	11.5%	98,035	65.1%	35,253	23.4%
平成15年	16,001	10.9%	93,459	63.5%	37,664	25.6%
平成16年	15,577	10.7%	91,727	63.0%	38,189	26.2%
平成17年	15,149	10.6%	89,627	62.5%	38,714	27.0%
平成18年	14,739	10.4%	87,090	61.6%	39,493	27.9%
平成19年	14,389	10.3%	84,735	60.8%	40,143	28.8%
平成20年	13,935	10.2%	82,427	60.1%	40,758	29.7%
平成21年	13,554	10.0%	80,297	59.4%	41,317	30.6%
平成22年	13,170	9.9%	78,435	58.9%	41,563	31.2%
平成23年	12,786	9.7%	76,874	58.5%	41,784	31.8%
平成24年	12,499	9.6%	74,820	57.6%	42,628	32.8%
平成25年	12,111	9.5%	72,086	56.4%	43,596	34.1%

(2) 出生状況

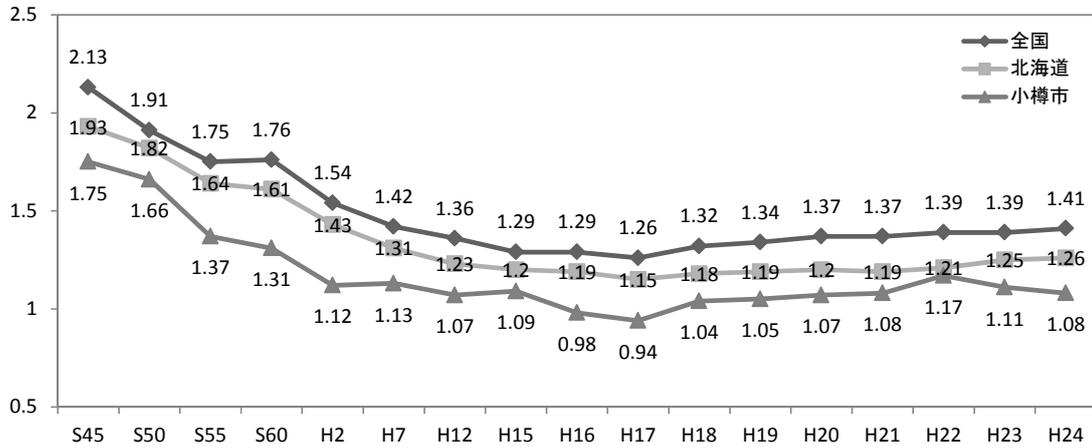
国勢調査等による本市の出生数は、昭和 45 年以降、減少傾向にあり平成 23 年には 700 人を下回り 688 人となった。

本市の出生率は、平成 23 年に 5.0 となり、昭和 45 年の 3 分の 1 以下にまで減少し、全国や北海道と比較しても低い数値となっている。

また、本市の合計特殊出生率[※]は、昭和 45 年から平成 17 年にかけて減少傾向にあったが、その後、平成 22 年まではわずかに増加傾向にあった。しかしながら平成 23 年以降は再び減少傾向に転じている。

※合計特殊出生率…15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が一生の間に生む子どもの数を示します。

図表 148 合計特殊出生率の推移



	出生数 (人)	出生率 (人口千対)			合計特殊出生率		
		全国	北海道	小樽市	全国	北海道	小樽市
昭和45年	2,978	18.8	17.7	15.5	2.13	1.93	1.75
昭和50年	2,705	17.1	16.8	14.7	1.91	1.82	1.66
昭和55年	1,906	13.6	13.6	10.5	1.75	1.64	1.37
昭和60年	1,467	11.9	11.7	8.5	1.76	1.61	1.31
平成2年	1,068	10	9.7	6.5	1.54	1.43	1.12
平成7年	1,045	9.6	8.8	6.7	1.42	1.31	1.13
平成12年	976	9.5	8.3	6.5	1.36	1.23	1.07
平成15年	935	8.9	8	6.4	1.29	1.2	1.09
平成16年	815	8.8	7.8	5.7	1.29	1.19	0.98
平成17年	756	8.4	7.4	5.3	1.26	1.15	0.94
平成18年	810	8.7	7.6	5.7	1.32	1.18	1.04
平成19年	780	8.6	7.5	5.7	1.34	1.19	1.05
平成20年	758	8.7	7.4	5.6	1.37	1.2	1.07
平成21年	729	8.5	7.3	5.5	1.37	1.19	1.08
平成22年	733	8.5	7.3	5.6	1.39	1.21	1.17
平成23年	688	8.3	7.2	5.0	1.39	1.25	1.11
平成24年	646	8.2	7.1	5.0	1.41	1.26	1.08

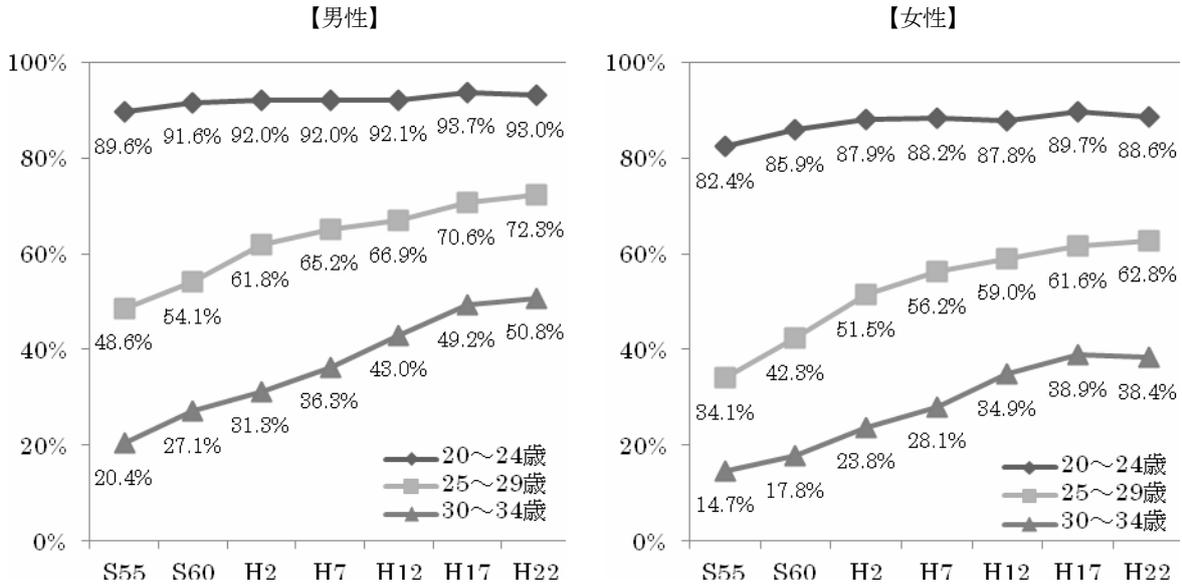
(3) 未婚率の推移

①年齢別未婚率の推移

国勢調査による本市の年齢別未婚率は、平成22年において男女とも20～24歳、女性の30～34歳の割合がわずかに減少しているが、全体的には増加傾向にある。

特に男女とも30～34歳において増加傾向が著しく、平成22年では男性の5割以上、女性の約4割が未婚となっている。

図表 149 年齢別未婚率の推移



【男性】

	20～24歳			25～29歳			30～34歳		
	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率
昭和55年	5,290	4,738	89.6%	5,630	2,738	48.6%	7,100	1,448	20.4%
昭和60年	5,005	4,586	91.6%	4,078	2,207	54.1%	5,206	1,413	27.1%
平成2年	4,786	4,404	92.0%	3,758	2,323	61.8%	3,704	1,161	31.3%
平成7年	5,246	4,825	92.0%	3,820	2,492	65.2%	3,676	1,334	36.3%
平成12年	4,451	4,099	92.1%	4,395	2,942	66.9%	3,819	1,642	43.0%
平成17年	3,583	3,356	93.7%	3,432	2,424	70.6%	4,034	1,986	49.2%
平成22年	2,761	2,569	93.0%	2,568	1,856	72.3%	3,123	1,585	50.8%

【女性】

	20～24歳			25～29歳			30～34歳		
	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率
昭和55年	6,174	5,086	82.4%	6,710	2,288	34.1%	8,076	1,184	14.7%
昭和60年	5,801	4,982	85.9%	4,864	2,058	42.3%	6,145	1,092	17.8%
平成2年	5,557	4,882	87.9%	4,460	2,299	51.5%	4,285	1,018	23.8%
平成7年	5,920	5,221	88.2%	4,508	2,534	56.2%	4,205	1,183	28.1%
平成12年	4,806	4,219	87.8%	4,868	2,873	59.0%	4,289	1,497	34.9%
平成17年	3,733	3,350	89.7%	3,743	2,305	61.6%	4,314	1,677	38.9%
平成22年	2,826	2,505	88.6%	2,691	1,690	62.8%	3,298	1,267	38.4%

資料：小樽市統計「国勢調査」

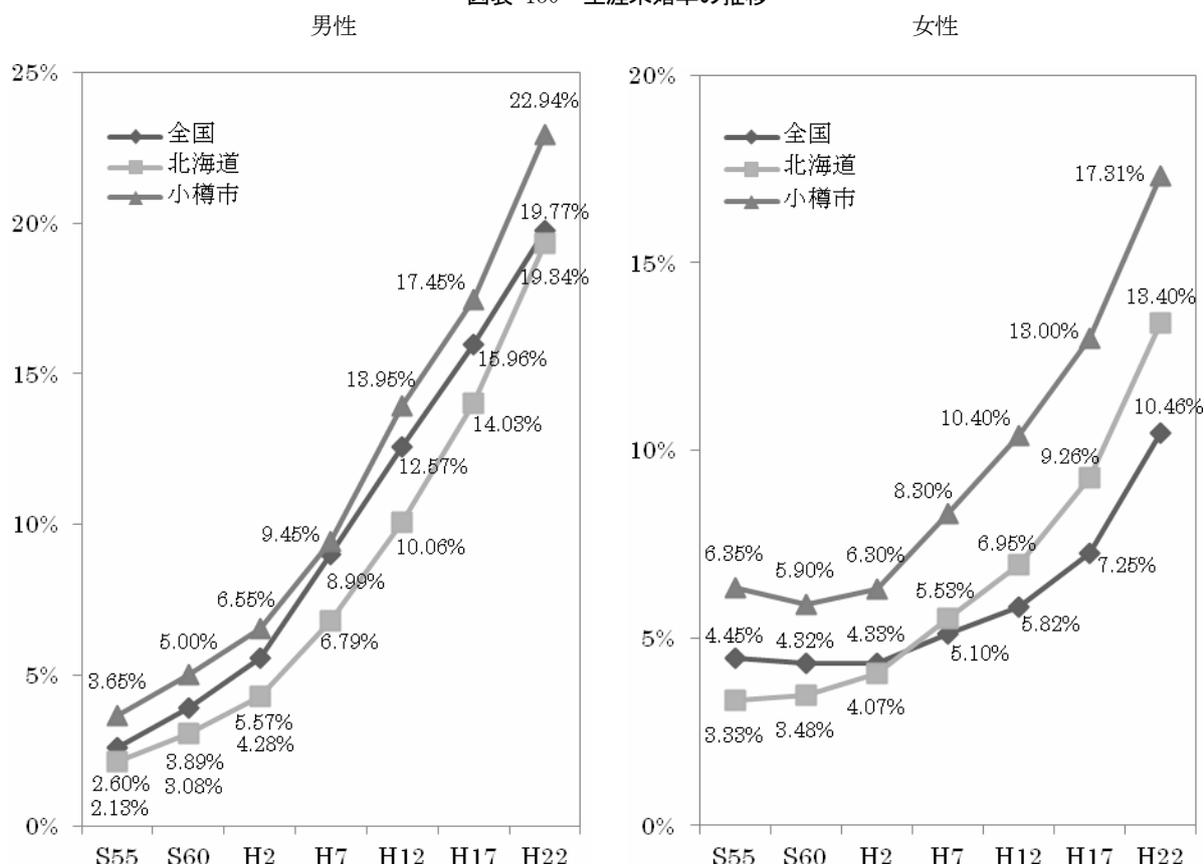
②生涯未婚率の推移

国勢調査による本市の生涯未婚率は、男性については著しい増加傾向にあり、平成22年では2割を超え、全国や北海道と比較してもその割合は高くなっている。

また、女性の生涯未婚率も増加傾向にあり、平成22年では17.31%となっており、全国や北海道と比較してもその割合は著しく高くなっている。

※生涯未婚率…45～49歳と50歳～54歳の未婚率の平均であり、50歳時の未婚率を示すものです。

図表 150 生涯未婚率の推移



	全国		北海道		小樽市	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
昭和55年	2.60%	4.45%	2.13%	3.33%	3.65%	6.35%
昭和60年	3.89%	4.32%	3.08%	3.48%	5.00%	5.90%
平成2年	5.57%	4.33%	4.28%	4.07%	6.55%	6.30%
平成7年	8.99%	5.10%	6.79%	5.53%	9.45%	8.30%
平成12年	12.57%	5.82%	10.06%	6.95%	13.95%	10.40%
平成17年	15.96%	7.25%	14.03%	9.26%	17.45%	13.00%
平成22年	19.77%	10.46%	19.34%	13.40%	22.94%	17.31%

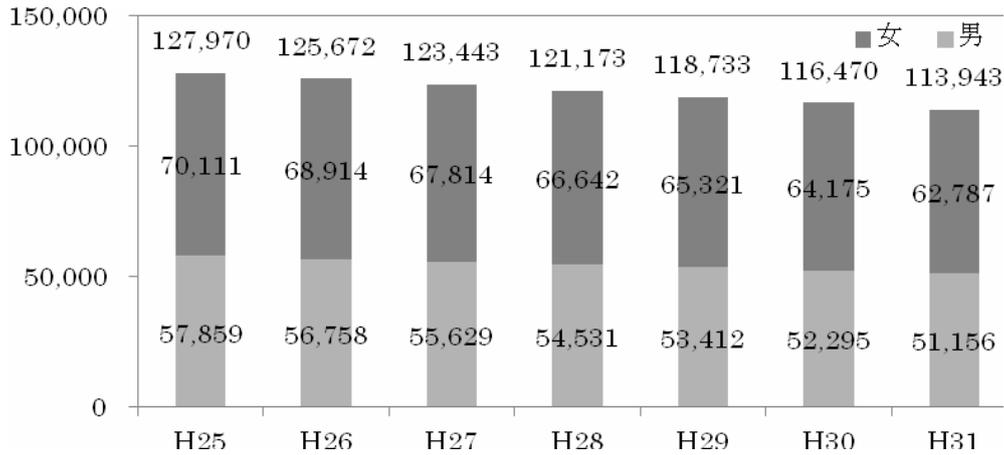
資料：総務省「国勢調査」

(4) 将来人口の見通し

①将来の人口推計

「コーホート変化率法[※]」を用いて、本市の将来人口を推計すると平成 25 年(3 月末現在)に 127,970 人であった人口は、減少傾向が続き、平成 31 年末には 113,943 人に達すると予測される。

図表 151 将来人口推計

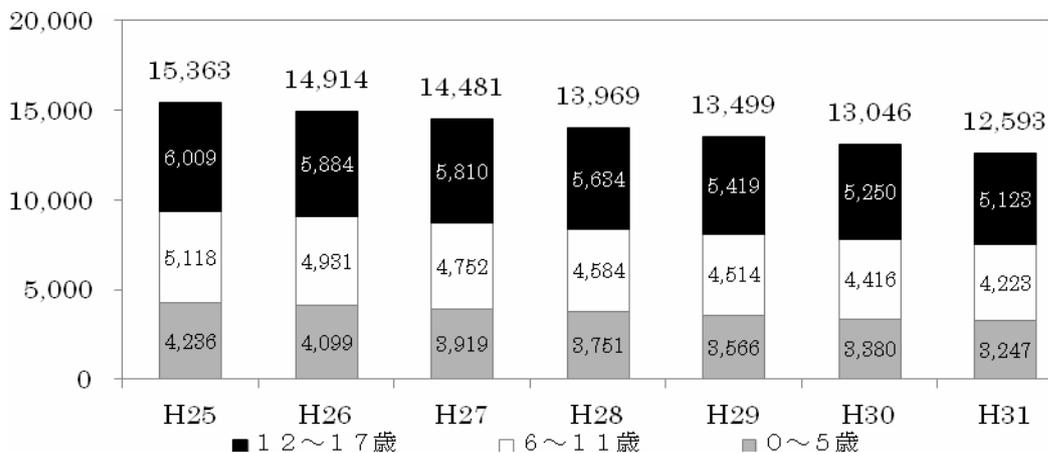


資料：小樽市「住民基本台帳」(H25)をベースに女子人口、出生率等を推計し、それらを用いて将来人口を推計した。

②児童数の将来の人口推計

「コーホート変化率法[※]」を用いて、本市の児童数の将来人口を推計すると、0～5 歳人口は平成 25 年 9 月末に 4,236 人であったものが平成 31 年末では 3,247 人となり約 23%の減少、6～11 歳人口は平成 25 年 9 月末に 5,118 人であったものが平成 31 年末では 4,223 人となり約 18%の減少、12～17 歳人口は平成 25 年 9 月末に 6,009 人であったものが平成 31 年末では 5,123 人となり約 15%の減少が予測されます。

図表 152 児童数の将来人口推計



資料：小樽市「住民基本台帳」(H25)をベースに女子人口、出生率等を推計し、それらを用いて将来人口を推計した。

※コーホート変化率法…過去における実績人口の動態から変化率を算出し、それに基づき将来人口を予測推計する方法です。この推計では、小樽市住民基本台帳人口を基礎数値とし将来人口を推計しています。なお、外国人登録人口は推計の都合上、除いています。

2 地域の教育・保育資源

本市の9地区の教育・保育資源についてみると、南小樽地区や山手地区に幼稚園や認可保育所が多い。

図表 153 地区別の教育・保育資源

	塩谷地区	長橋・オタモイ地区	高島地区	手宮地区	中央地区	山手地区	南小樽地区	朝里地区	銭函地区
幼稚園		2		1	1	5	2	2	1
認可保育所	2	3	1	1	3	3	4	3	2
認可外保育施設		1					4		1
事業所内保育施設									1
院内保育施設		1			1		3	2	1
(ファミリーサポートセンター)					(1)				
計	2	7	1	2	5	8	13	7	6

※認定こども園は、幼稚園、認可保育所各々で計上。

図表 154 地区別の教育・保育資源の詳細

地区	区分	名称	定員	備考
塩谷地区	認可保育所	あかつき保育園	40	乳児保育(産休明けから)
		蘭島保育園	30	世代間交流事業、乳児保育(産休明けから)
長橋・オタモイ地区	幼稚園	小樽杉の子幼稚園	120	延長保育
		長橋幼稚園	140	延長保育
	認可保育所	長橋保育所	45	世代間交流事業
		相愛保育所	60	異年齢児交流事業、乳児保育(産休明けから)
		龍徳オタモイ保育園	60	乳児保育(産休明けから)
	認可外保育施設	NPO 法人小樽ひばり保育園	55	乳児保育(生後6か月から)、延長保育、一時保育
院内保育施設	石橋病院保育園	-		
高島地区	認可保育所	赤岩保育所	115	世代間交流事業、延長保育、乳児保育(産休明けから)、地域子育て支援センター事業

地区	区分	名称	定員	備考
手宮地区	幼稚園	手宮幼稚園	60	延長保育
	認可保育所	手宮保育所	90	乳児保育(産休明けから)
中央地区	幼稚園	いなほ幼稚園	120	延長保育
	認可保育所	中央保育所	120	延長保育、休日保育、乳児保育(産休明けから)
		愛育保育園	90	異年齢児交流事業、延長保育、乳児保育(産休明けから)
		杉の子保育園	60	乳児保育(産休明けから)
	ファミリーサポートセンター	おたるファミリーサポートセンター		
院内保育施設	小樽掖済会病院附属保育所 らっこ	12		
山手地区	幼稚園	小樽オーリーブ幼稚園	90	延長保育
		小樽藤幼稚園	90	延長保育
		ローズ幼稚園	70	延長保育
		小樽中央幼稚園	105	延長保育
		まや幼稚園	120	延長保育
	認可保育所	最上保育所	45	乳児保育(生後6か月から)
		日赤保育所	90	一時的保育、乳児保育(産休明けから)
	ゆりかご保育園	60	一時的保育、世代間交流事業、乳児保育(産休明けから)	
南小樽地区	幼稚園	小樽幼稚園	150	延長保育
		小樽高田幼稚園	120	延長保育
	認可保育所	奥沢保育所	70	世代間交流事業、地域子育て支援センター事業
		若竹保育所	30	乳児保育(産休明けから)
		龍徳保育園	60	異年齢児交流事業、乳児保育(産休明けから)
		あおぞら保育園	80	延長保育、一時的保育、乳児保育(産休明けから)
	認可外保育施設	青い鳥保育園	27	プライベート預かり(一時的保育や時間単位での預かり)
		共同保育所ポッポの家	26	乳児保育(産休明けから)、延長保育、一時保育
		託児ROOM マミー	20	乳児保育(産休明けから)、延長保育、一時保育
		キッズルーム アップル	18	乳児保育(産休明けから)、延長保育、一時保育、夜間保育、休日保育
	院内保育施設	市立小樽病院保育室	30	
		北海道社会事業協会小樽病院院内保育所「たるっ子」	25	
		北海道済生会小樽病院保育所	30	

地区	区分	名称	定員	備考
朝里地区	幼稚園	さくら幼稚園	160	延長保育
		朝里幼稚園	210	延長保育
	認可保育所	新光保育園	90	世代間交流事業、延長保育、乳児保育(産休明けから)
		さくら保育園	60	延長保育
		さくら乳児保育園	30	延長保育、乳児保育(産休明けから)
	院内保育施設	朝里中央病院付属 あさひ保育園	-	
東小樽病院ひまわり保 育園		30		
銭函地区	認定こども園	桂岡幼稚園	145	延長保育
		桂岡保育園	55	延長保育、乳児保育(生後6か月から)
	認可保育所	銭函保育所	110	延長保育、乳児保育(産休明けから)、 地域子育て支援センター事業
	認可外保育施設	NPO 法人かもめ保育園	45	乳児保育(産休明けから)、延長保育
	事業者内保育施 設	だるま食品(株)内だるま ちゃん保育園	32	
	院内保育施設	札幌病院ひまわり保 育所	35	

※認定こども園・認可保育所・認可外保育施設等の掲載内容は、平成26年3月末現在

幼稚園の掲載内容は、平成25年5月1日現在

3 小樽市次世代育成支援行動計画～おたる子育てプラン～の進捗（点検）

小樽市次世代育成支援行動計画～おたる子育てプラン～の進捗状況についてみると、ファミリーサポートセンター事業においてファミリーサポートセンターが開設され、援助活動事業が開始された。また、延長保育や産休明け保育で実施施設が増え、保育所施設の建て替えが図られた。

その一方で、病児・病後児保育は1か所開設が目標となっているが平成24年度において未実施となっている。

図表 155 小樽市次世代育成支援行動計画～おたる子育てプラン～の事業実績

事業名	事業計画目標	事業実施内容	22年度実績 事業量	24年度実績 事業量
一時保育事業	実施保育所の拡大	保護者のパート勤めや病気、冠婚葬祭、育児疲れの解消などの理由により、一時的な保育サービスを実施	認可保育所3か所 (民間3か所) 認可外保育施設7か所	認可保育所3か所 (民間3か所) 認可外保育施設7か所
放課後児童健全育成事業	事業の継続と充実	放課後、家に帰っても保護者が仕事などで家庭にいない子どもを学校の余裕教室などで預かり、遊びなどを通して生活習慣を養うとともに、子どもの安全を図ります。	小学校25校、小樽聾学校と余市養護学校の児童を対象 (26か所で開設) 登録児童数562人 (利用児童なしのため、4月に1か所、8月に1か所休室)	小学校22校、小樽聾学校と余市養護学校の児童を対象 (23か所で開設) 登録児童数592人
		特別支援学級、小樽聾学校及び余市養護学校の児童は延長して受入れ	4年生までの受入れを継続実施(19名を受入れ)	6年生までの受入れを拡大実施(25名を受入れ)
		土曜日、三期休業期間の開始時間8:30～	小学校23校で8:30からの開設を継続実施	小学校20校で8:20からの開設を継続
	学校行事振替休日等の開設	開設全校で実施	開設全校で実施	
	土曜日開設場所の拡大	通年開設8か所、4～5月開設5か所(21年度)	通年開設9か所、4～5月開設11か所に拡大	通年開設11か所、4～5月開設8か所に実施
幼稚園の保育サービス	実施幼稚園の継続の要請	幼稚園において、通常時間外に預かり保育の充実を図ります。	私立幼稚園15か所	私立幼稚園15か所
母子訪問指導事業	事業の継続	出産を控えた妊婦の健康管理や出産後の母の育児不安軽減を図るため、支援が必要な家庭を継続的に訪問し、相談・指導などを実施	延べ1,624件	延べ1,550件
ファミリーサポートセンター事業	ファミリーサポートセンターの開設	「育児の援助を受けたい人(依頼会員)」と「育児の援助を行いたい人(提供会員)」が、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の援助活動事業を実施	緊急サポートネットワーク事業者との協議。他市取組調査	援助活動事業を実施 利用件数819件
病児・病後児保育	1か所開設	保育所に通っている子どもなどの病気又は病気回復期に、看護師や保育士が病院など施設の専用スペースで一時的に保育サービスを実施	未実施	未実施

事業名	事業計画目標	事業実施内容	22年度実績事業量	24年度実績事業量
地域子育て支援センター事業				
センターの開設	設置か所数の拡大について検討	設置か所数 2か所	市立保育所の規模・配置に関する計画において銭函保育所に平成25年開設予定	平成25年度から銭函保育所でのセンター開設を検討
育児についても相談指導	事業の継続	電話、メール、面接での子育て家庭に対する相談を実施	げんき(奥沢)94件 風の子(赤岩)17件	げんき(奥沢)48件 風の子(赤岩)15件
子育てサークル等の育成・支援	事業の継続と充実	子育てサークル代表者会議の開催、「すくすくひよこらぶ」等の育成カリキュラムの実施、子育てサークルへの出張活動や物品貸出の実施など子育てサークルの育成・支援を実施	親子で遊ぼう(「てくてく」コース)(年30回、延249組) すくすくひよこらぶ(年30回、延274組) 物品貸出し事業(16件) 出前支援事業(風の子)(4件)	すくすくひよこらぶ(年25回、延226組) 物品貸出し事業(8件)
子育て支援ニュースの発行	事業の継続と内容の充実	子育て支援センターにおいて、子育て講座・イベント・子育てサークル・絵本紹介や保育所開放のお知らせなどの子育て関連情報を「子育て支援ニュース」として毎月発行	月1回発行 「げんき」820部配布 「風の子」820部配布	月1回発行 「げんき」860部配布 「風の子」860部配布
子育て支援ボランティアの育成	事業の継続	「子育て支援ボランティア育成講座」の開催 子育てボランティア(希望者の登録)	年2回開催 登録数 全98人	年1回開催 登録数 全90人
		市が実施する各種子育て支援事業への子育て支援ボランティアの派遣	年4回実施 延べ34人派遣	年4回実施 延べ58人派遣
その他育児支援に関すること	事業の継続と実施内容の充実	子育て支援センターを一般開放し、ミニ事業等を実施	週4回実施	週4回実施
		町内会館を活用し、子育て支援センターの保育士が地域に出向き、親子が気軽に参加し交流し合える場を開設し、ミニ事業、遊びや手作りおもちゃ制作の指導、育児相談を実施(「げんきがまちにやってくる!」)	年37回開催 参加者 384組	年39回開催 参加者 401組
		*児童館を活用し、子育て支援センターの保育士が地域に出向き、親子が気軽に参加し交流し合える場を開設し、ミニ事業、遊びや手作りおもちゃ制作の指導、育児相談を実施(「かぜのこランド」)	年15回開催 参加者 437組	年16回開催 参加者 419組
		「子育て講座」として、子育て支援センターなどで親のリフレッシュを目的とした手芸や講演会(託児あり)、親子リズム遊び等を実施(親子リズム遊びの土曜日開催を実施)	年5回実施 参加者 81組	年11回実施 参加者 132組
		親子を対象に工作やゲームのコーナー、パネルシアターなどの催しを行う「ちびっこフェスティバル」を市内で開催	年1回実施 参加者 214組	年1回実施 参加者 172組

		子育てや子の発達に不安を持つ親子等が、保育所の子どもたちとの交流を通して、適切な子育てに取り組めるよう子育て支援センターで支援を実施（「親子通園」）	年 40 回実施 参加者 延べ 138 組	年 37 回実施 参加者 延べ 90 組
事業名	事業計画目標	事業実施内容	22 年度実績 事業量	24 年度実績 事業量
つどいの広場事業	事業の継続	乳幼児とその保護者を対象に、親子が気軽に参加し交流し合える場（わくわく広場）を朝里幼稚園敷地内の専用ログハウスに開設し、ミニ事業、講座、育児相談を実施	週 3 回実施 利用者 延べ 2,088 組	週 3 回実施 利用者 延べ 1,455 組
		「つどいの広場」の類似事業として、銭函地区周辺のボランティアが中心となり、銭函市民センターにつどいの広場（あそびの広場）を開設し、ミニ事業、育児相談を実施	週 1 回実施 利用者 延べ 509 組	週 1 回実施 利用者 延べ 598 組
		小樽市高齢者懇談会「杜のつどい」が、親子が気軽に集える場「杜ひろランド」を市内中心部の産業会館に開設し、会員ボランティアと交流を図るとともに高齢者の持つ子育て経験を活用した育児相談などを実施	月 1 回実施 利用者延べ 242 組	月 1 回実施 利用者延べ 199 組
保育所・幼稚園での子育て相談	事業の継続	日常の業務の中で、保護者からの各種相談に対応するとともに必要な情報提供を実施	随時	随時
待機児童の解消	認可保育所の定員の見直し（3 歳未満児～定員の増 3 歳以上児～定員の減）	保育ニーズに合わせて、認可保育所の定員の見直しを実施	定員見直し 待機児童無し 認可保育所 3 か所 （民間 3 か所） 3 歳未満児～12 人増 3 歳以上児～37 人減 全体定員 1,505 人	定員見直し 待機児童無し 認可保育所 1 か所 *新設 1 か所（認定こども園） 3 歳未満児～25 人増 3 歳以上児～30 人増 全体定員 1,520 人
延長保育事業	実施保育所の拡大	保護者の就労形態の多様化に対応するため、保育時間の延長を実施	認可保育所 7 か所 （公立 2 か所、民間 5 か所）認可外保育施設 7 か所	認可保育所 9 か所 （公立 2 か所、民間 7 か所）認可外保育施設 7 か所
産休明け保育事業	定員の拡大	就労と育児の両立というニーズに対応し、生後 8 週間～6 カ月未満の児童を対象とする保育サービスを実施	認可保育所 16 か所 （公立 3 か所、民間 13 か所）認可外保育施設 6 か所	認可保育所 17 か所 （公立 3 か所、民間 14 か所）認可外保育施設 6 か所
休日保育事業	実施保育所の拡大	日曜日・祝日勤務等に対応するため、休日保育サービスを実施	認可保育所 1 か所 （民間 1 か所）	認可保育所 1 か所 （民間 1 か所）
障がい児保育	事業の継続	ノーマライゼーションの促進と保護者のニーズに対応するため、障がい児保育を実施	認可保育所 8 か所 （公立 4 か所、民間 4 か所）	認可保育所 11 か所 （公立 4 か所、民間 7 か所）
保育所地域活動事業	事業の継続	保育所児童と地域のお年寄りとの世代間交流や地域の子どもの異年齢児交流、また、一般家庭の親子を対象に保育所開放を実施	認可保育所 12 か所	認可保育所 12 か所
保育施設の整備	事業の継続と充実	保育環境の改善や待機児解消・保育サービス向上のため、保育施設の整備を実施	補修 1,773 千円 改修 6,993 千円（最上保育所） 新設 69,956 千円（認可（1 箇所）） 改修 489 千円（認可外（1 箇所））	補修 1,228 千円 改修 1,097 千円（手宮、最上） 新設 9,230 千円（奥沢保育所） 新設 307,806 千円（認可（2 箇所）） 改修 569 千円（認可外（2 箇所））
認可外保育施設	事業の継続	地域の保育サービスの充実に積極的	【助成実績】	【助成実績】

支援事業		に取り組んでいる認可外保育施設への助成を実施	認可外保育施設 4 か所	認可外保育施設 3 か所
保育サービス評価事業	保育サービス評価事業の実施	保育サービス評価等の仕組みを導入し、効果的・効率的な保育サービスの実施	自己評価導入の検討(公立保育所 6 か所)	自己評価の継続(公立保育所 6 か所)

小樽市子ども・子育て支援事業計画 ニーズ調査結果報告書

平成 26 年 3 月

発行 小樽市 (福祉部子育て支援課)

〒047-8660 北海道小樽市花園 2 丁目 1 2 番 1 号

電話 0134-32-4111

